

令和 3 年度
男女共同参画に関する市民アンケート
調査報告書

令和 4 年 3 月
伊達市

目 次

I 調査の概要	2
II 調査結果	3
（１）回答者の属性	3
（２）男女平等について	8
（３）結婚と家庭生活について	17
（４）男性の家事・育児の参加について	33
（５）子育てについて	37
（６）介護について	39
（７）就労について	42
（８）ワーク・ライフ・バランスについて	53
（９）社会参加について	63
（10）セクシュアル・ハラスメント、DVについて	67
（11）性的マイノリティについて	79
（12）防災について	85
（13）行政の役割について	89
III 各設問の自由回答記述内容	92

【本書の利用にあたって】

- 本文及び図表中の回答者の比率は、百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入しており、個々の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では比率の合計が100%を超える。
- 図表中の「n」は回答者総数（該当者だけが回答する質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 回答者の回答意図が把握できないもの（1つのみ選択する問に対し複数選択しているもの等）は無効とし、分析対象外とした。ただし、無回答のものについては、統計上グラフ中に示している。
- 過去に本市において行った同様の調査との比較を行った。なお、比較した調査結果は次のとおりである。
 - 【平成27年】平成27年7月実施、調査対象：18歳～69歳の男女600人（郵送による自記式調査）
 - 【平成21年】平成21年11月実施、調査対象：18歳～69歳の男女600人（郵送による自記式調査）
- 本調査と調査項目が類似している質問について、国（内閣府）及び福島県が実施した調査結果との比較を行った。なお、比較した調査結果は次のとおりである。
 - 【国（内閣府）の調査】「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月実施
調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する男女5,000人（個別面接調査）
 - 【福島県の調査】「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査報告書」令和元年11月実施
調査対象：福島県内に居住する20歳以上の男女2,000人（郵送による自記式調査）

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握することで、今後の「第2次伊達市男女共同参画プラン」の改定や、本市の男女共同参画推進の施策展開に反映させることを目的に調査を実施した。

2 調査対象及び方法

- ・対 象 市内在住の18歳以上の市民1,000人（男女各500人）
- ・抽出方法 令和3年8月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
- ・調査方法 郵送及びインターネットによる

3 調査期間

令和3年8月30日（月）から令和3年9月24日（金）

4 調査内容

- （1）回答者の属性
- （2）男女平等について
- （3）結婚と家庭生活について
- （4）男性の家事・育児の参加について
- （5）子育てについて
- （6）介護について
- （7）就労について
- （8）ワーク・ライフ・バランスについて
- （9）社会参加について
- （10）セクシュアル・ハラスメント、DVについて
- （11）性的マイノリティについて
- （12）防災について
- （13）行政の役割について

5 回収状況

	送付数	回収数	回収率
男性	500 人	136 人	27.2%
女性	500 人	156 人	31.2%
性別無回答	—	33 人	—
総数	1,000 人	325 人	32.5%

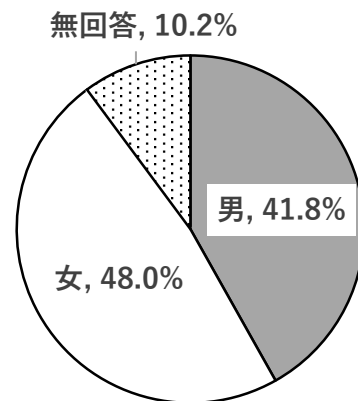
Ⅱ 調査結果

（１）回答者の属性

問 1. 次の項目について、あなたにあてはまるものに○をしてください。

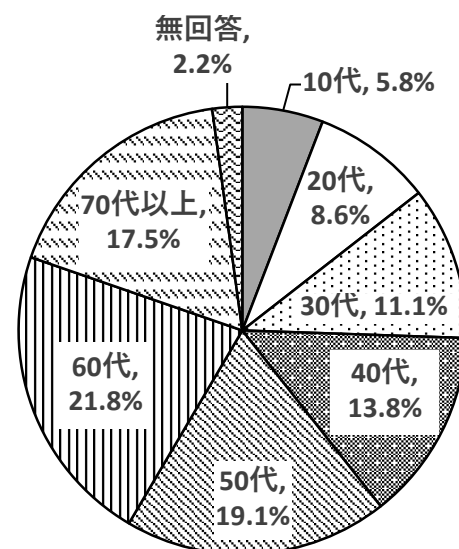
【性別】

	回答数	割合
男	136	41.8%
女	156	48.0%
その他	0	0.0%
無回答	33	10.2%
計	325	100.0%



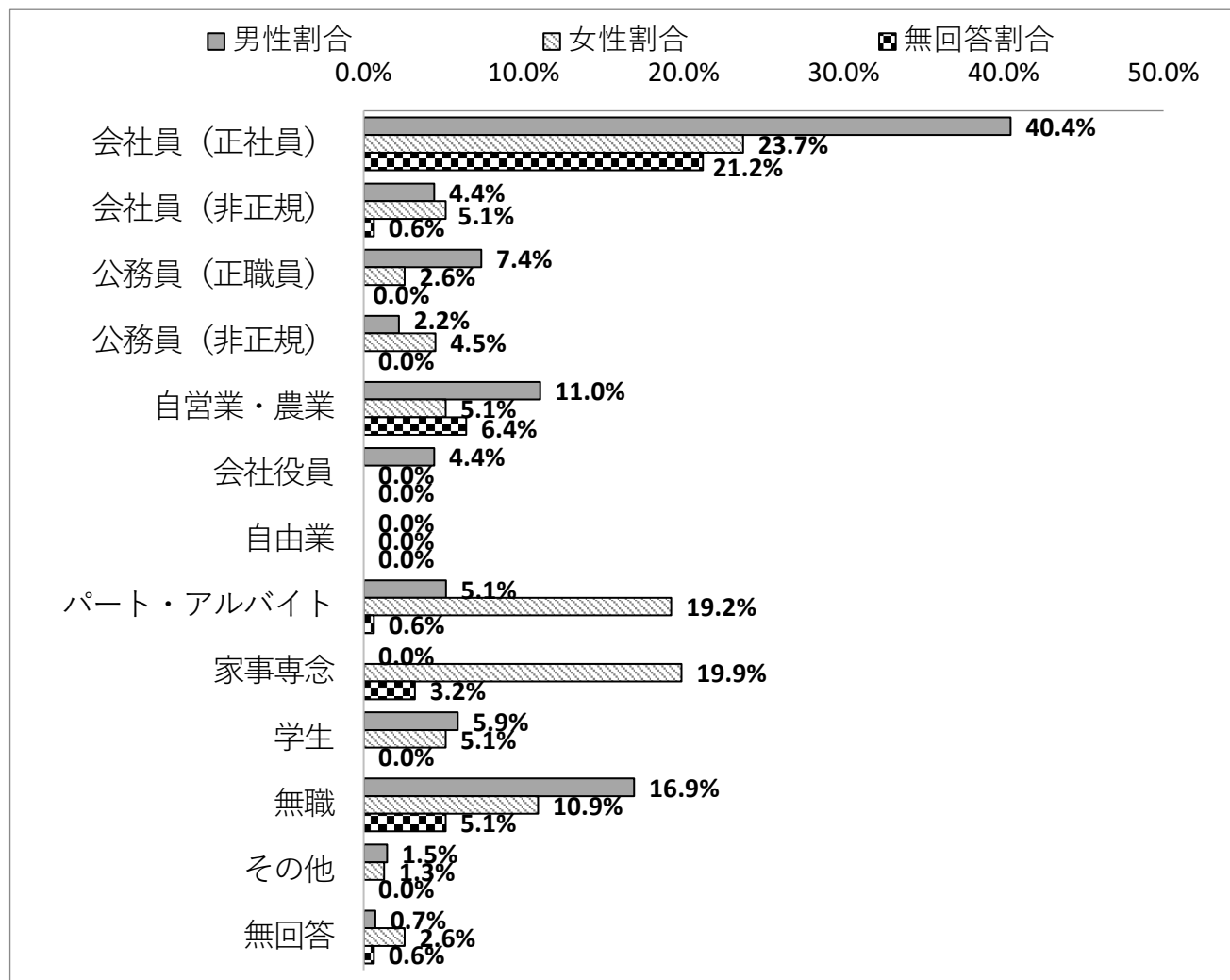
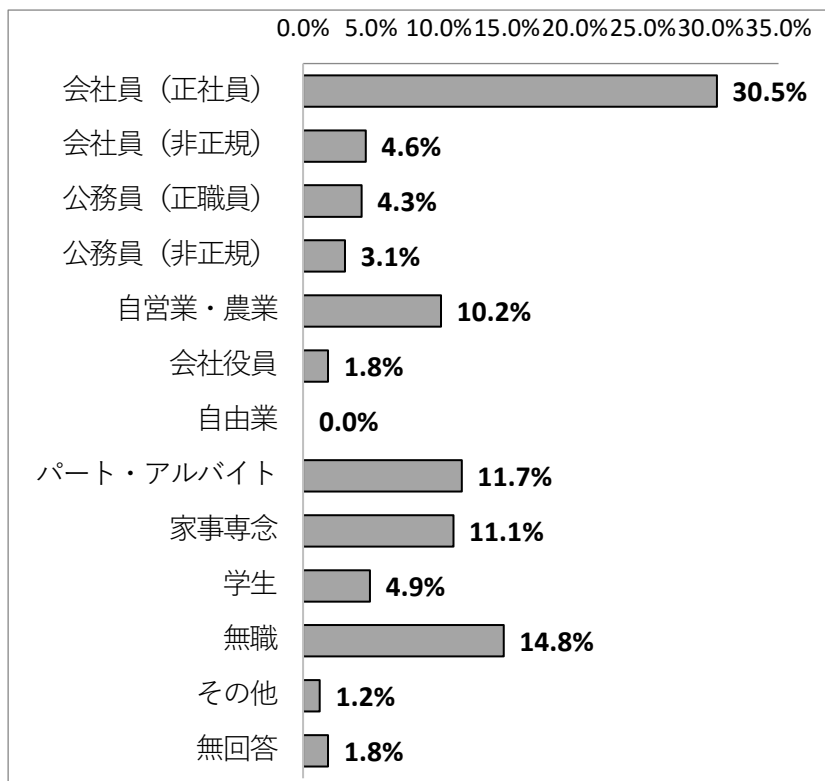
【年齢】

	回答数	割合
10 代	19	5.8%
20 代	28	8.6%
30 代	36	11.1%
40 代	45	13.8%
50 代	62	19.1%
60 代	71	21.8%
70 代以上	57	17.5%
無回答	7	2.2%
計	325	100.0%



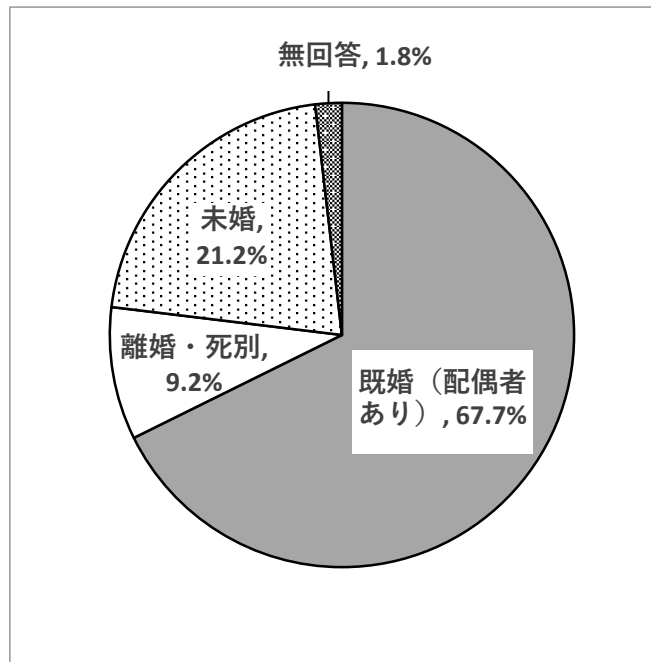
【職業】

	回答数	割合
会社員（正社員）	99	30.5%
会社員（非正規）	15	4.6%
公務員（正職員）	14	4.3%
公務員（非正規）	10	3.1%
自営業・農業	33	10.2%
会社役員	6	1.8%
自由業	0	0.0%
パート・アルバイト	38	11.7%
家事専念	36	11.1%
学生	16	4.9%
無職	48	14.8%
その他	4	1.2%
無回答	6	1.8%
計	325	100.0%



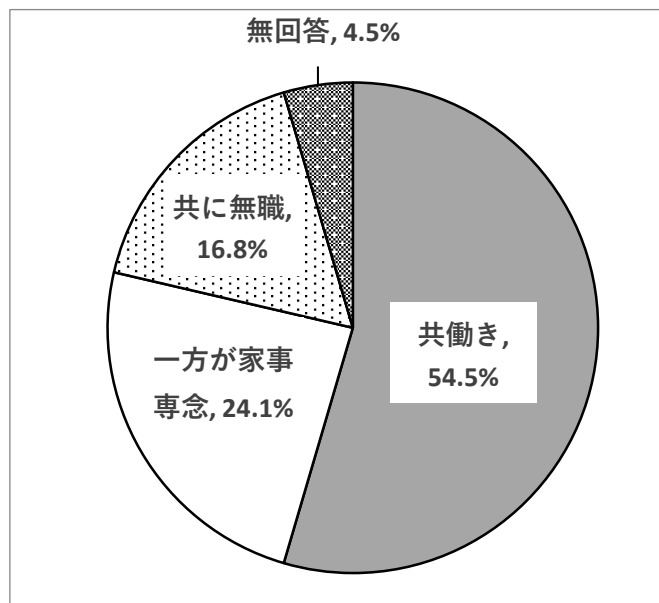
【婚姻の状況】

	回答数	割合
既婚（配偶者あり）	220	67.7%
離婚・死別	30	9.2%
未婚	69	21.2%
無回答	6	1.8%
計	325	100.0%



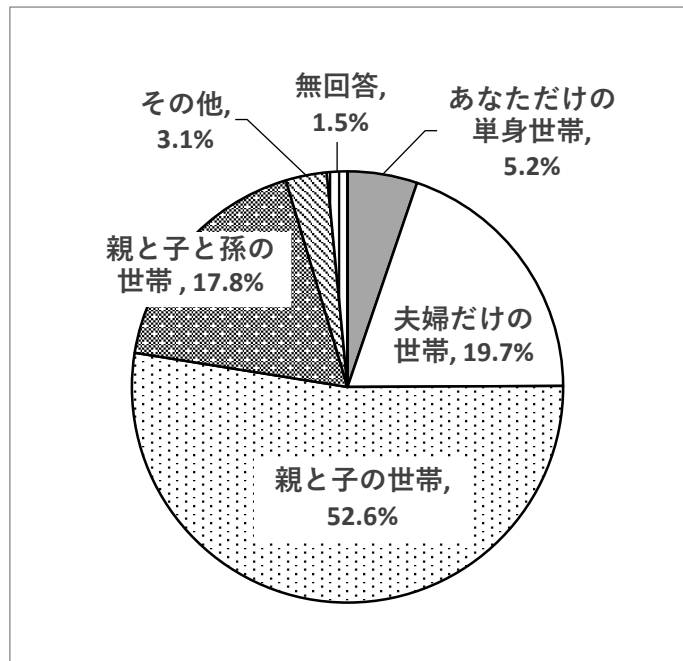
【共働きの状況】

	回答数	割合
共働き	120	54.5%
一方が家事専念	53	24.1%
共に無職	37	16.8%
無回答	10	4.5%
計	220	100.0%



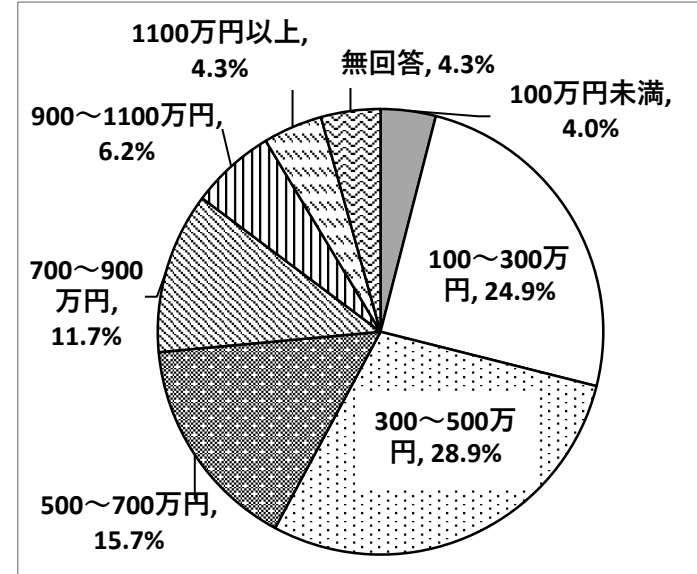
【同居の状況】

	回答数	割合
あなただけの単身世帯	17	5.2%
夫婦だけの世帯	64	19.7%
親と子の世帯	171	52.6%
親と子と孫の世帯	58	17.8%
その他	10	3.1%
無回答	5	1.5%
総計	325	100.0%



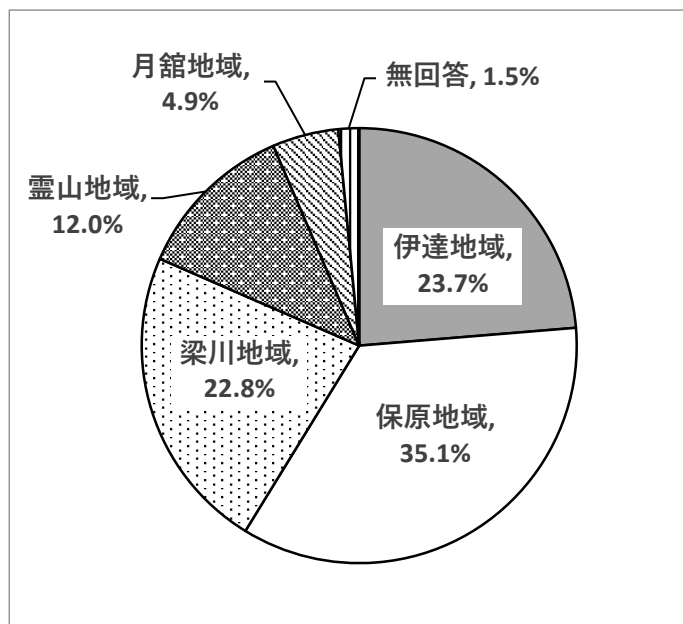
【世帯全体の年収】

	回答数	割合
100万円未満	13	4.0%
100～300万円	81	24.9%
300～500万円	94	28.9%
500～700万円	51	15.7%
700～900万円	38	11.7%
900～1100万円	20	6.2%
1100万円以上	14	4.3%
無回答	14	4.3%
計	325	100.0%



【現在の居住地】

	回答数	割合
伊達地域	77	23.7%
保原地域	114	35.1%
梁川地域	74	22.8%
霊山地域	39	12.0%
月舘地域	16	4.9%
無回答	5	1.5%
計	325	100.0%



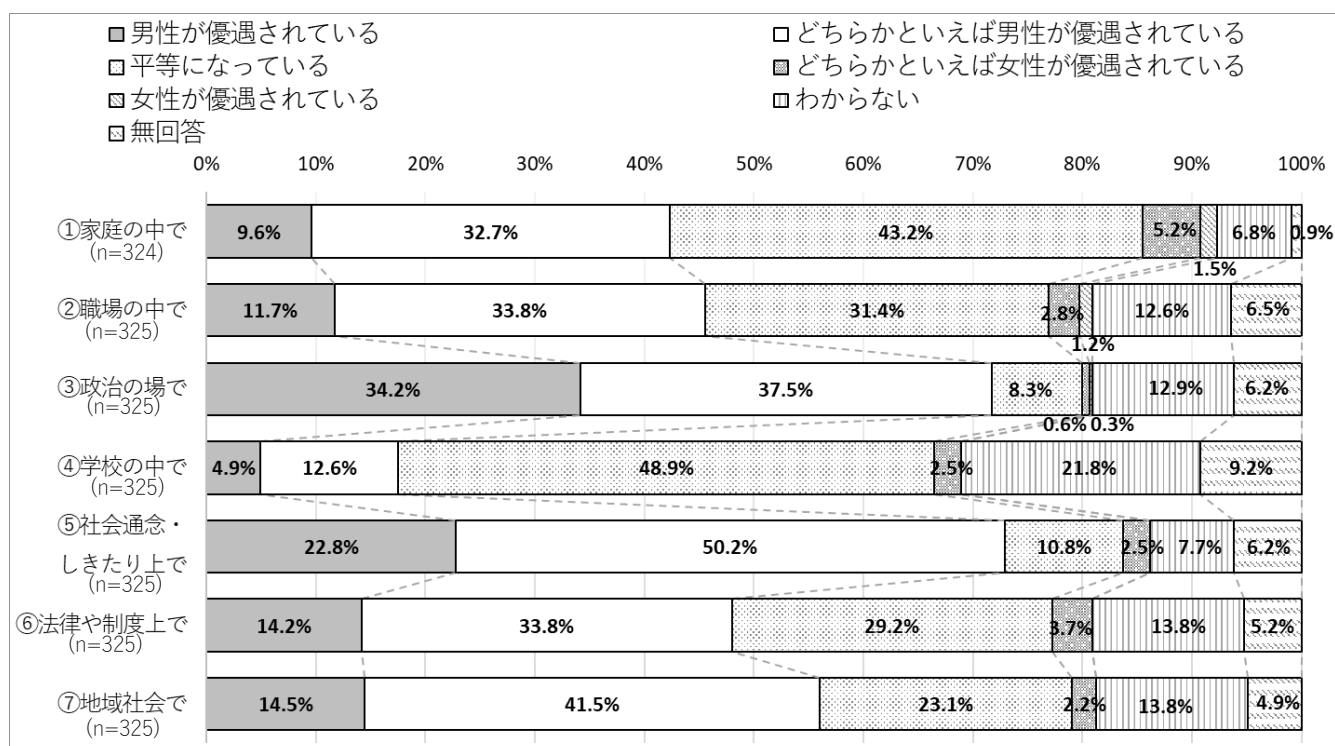
(2) 男女平等について

問2. 次の各分野で男女が平等になっていると思いますか。

それぞれの項目で1～6の中から1つだけ選んで○をしてください。

【全体】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は、〈⑤社会通念・しきたり上で〉が73.0%と最も高く、次いで〈③政治の場で〉が71.7%となっている。また、〈⑦地域社会で〉は56.0%、〈⑥法律や制度上で〉は48.0%、〈②職場の中で〉は45.5%と、いずれも5割前後を占めている。一方、“平等になっている”の回答は、〈④学校の中で〉が48.9%と最も高く、次いで〈①家庭の中で〉が43.2%となっている。

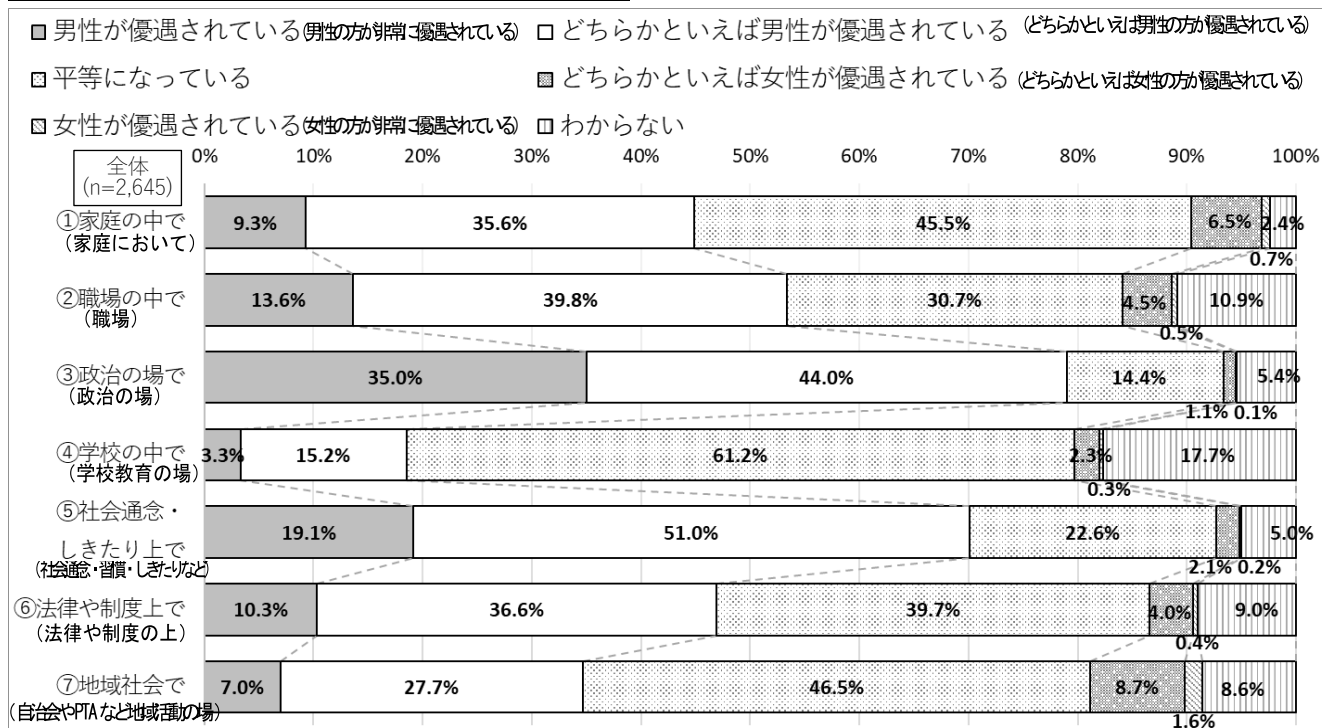


【国・県との比較】

- 国・県・市ともに〈学校の中で〉においては、“平等になっている”と回答した割合が最も多く、国では61.2%、県では62.7%、市では48.9%となっている。
- “平等になっている”が少ない傾向にあるのは、国・県・市ともに〈政治の場で〉、〈社会通念・しきたり上で〉となっている。〈政治の場で〉においては、“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が、国では79.0%、県では78.2%、市では71.7%、〈社会通念・しきたり上で〉においては、国では70.1%、県では64.8%、市では73.0%と、男性が優遇されていると感じている人が多いという結果となった。
- 〈地域社会で〉においては、国では“平等になっている”が46.5%、県では34.1%、市では23.1%となっており、平等になっていると感じている割合は、国に比べて県は少なく、市ではさらに少なくなっている。

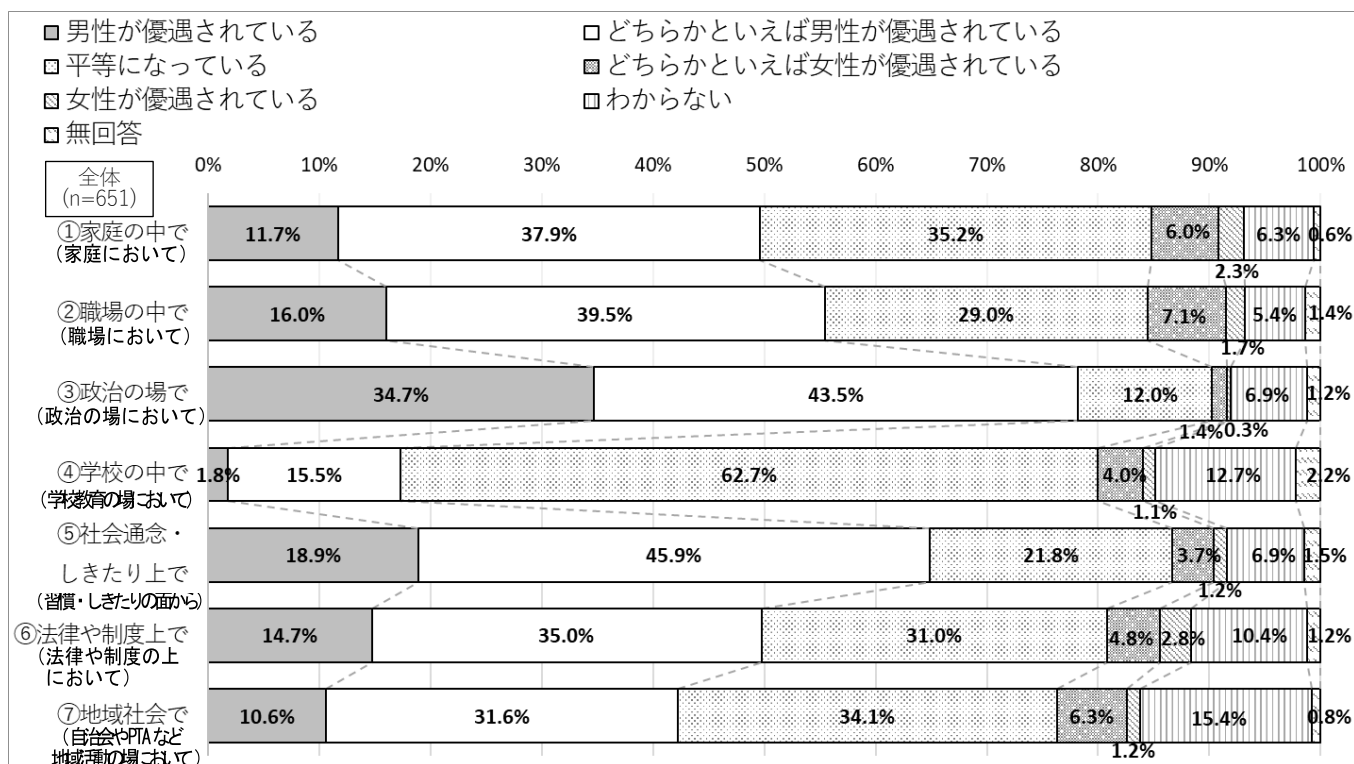
国：令和元年男女共同参画社会に関する世論調査

※()内は国の調査項目及び選択肢



県：男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査

※()内は県の調査項目及び選択肢



＜問２－① 家庭の中で＞

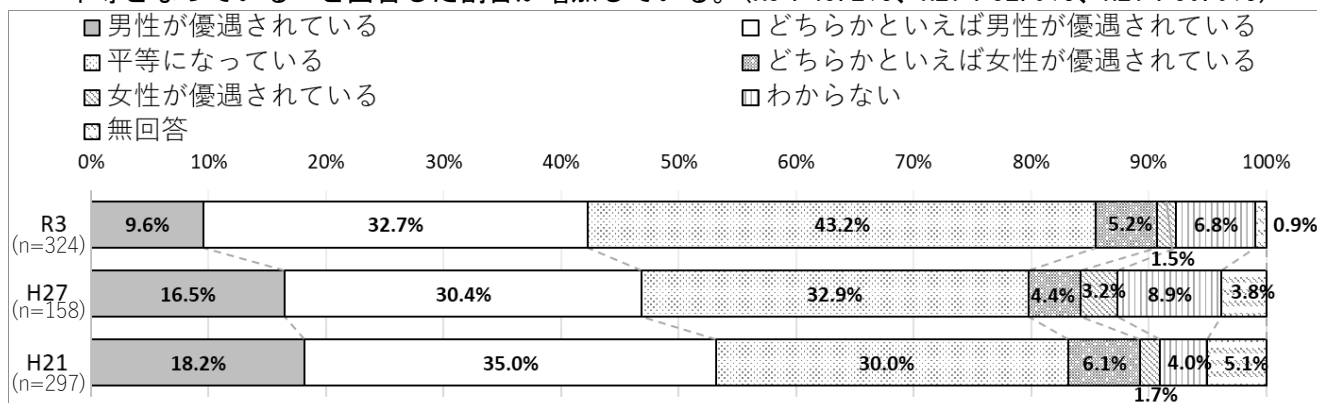
【全体】

“平等になっている”と回答した割合が43.2%と最も高く、次いで”どちらかといえば男性が優遇されている”が32.7%、“男性が優遇されている”が9.6%と続いている。

【過去数値との比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が減少している。(R3：42.3%、H27：46.9%、H21：53.2%)

“平等となっている”と回答した割合が増加している。(R3：43.2%、H27：32.9%、H21：30.0%)

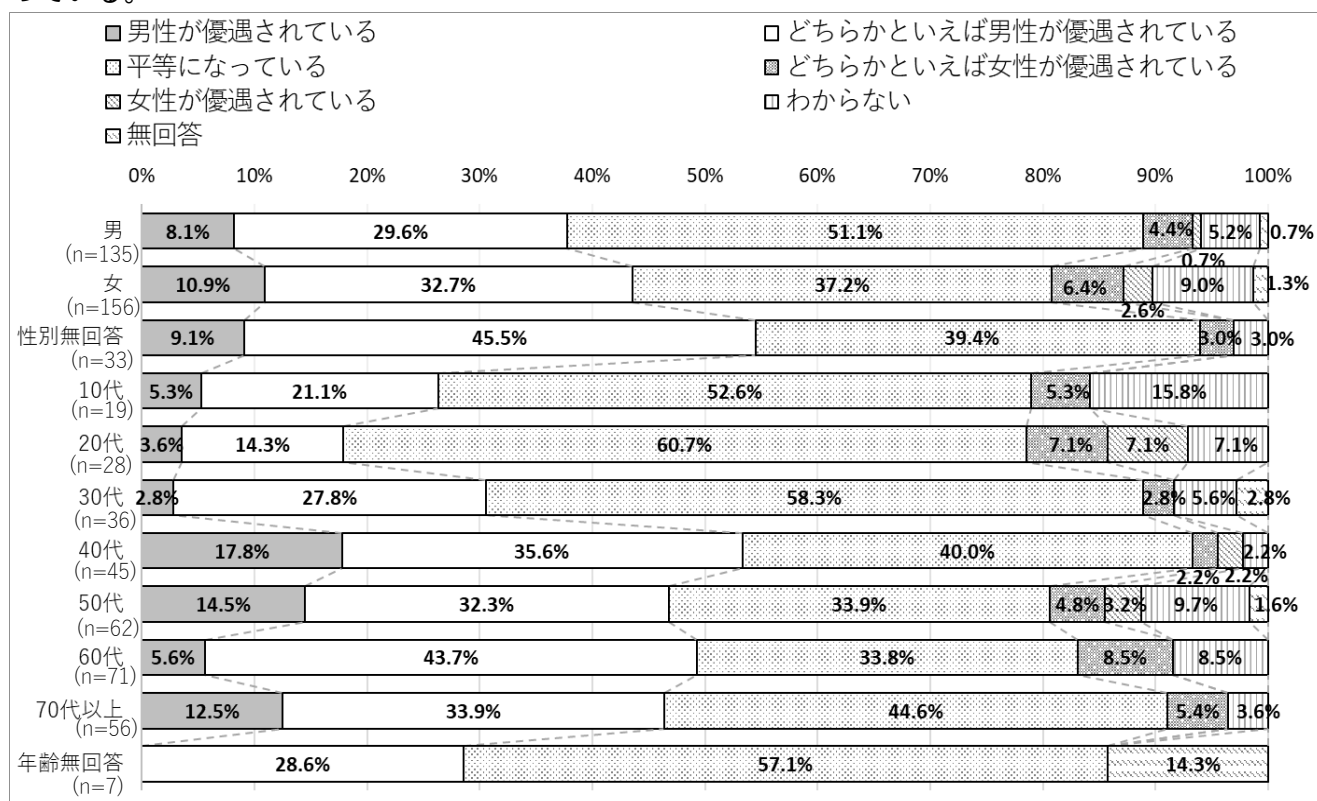


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は男性より女性のほうが高い。

【年代別】

30代以下は“平等になっている”と回答した割合が5割以上となっているが、40代以上は5割以下となっている。



<問2-② 職場の中で>

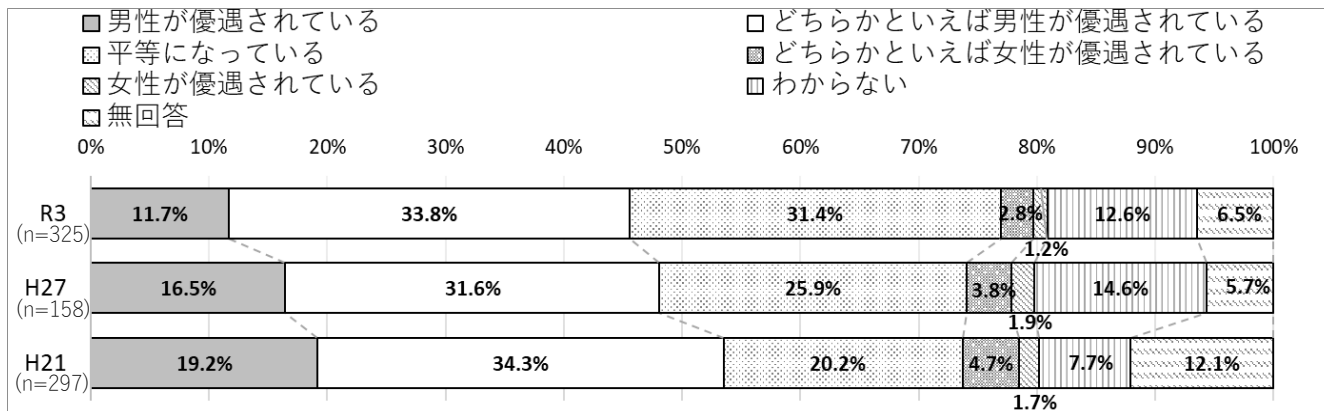
【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が33.8%と最も高く、次いで“平等になっている”が31.4%、“わからない”が12.6%と続いている。

【過去数値との比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が減少している。(R3：45.5%、H27：48.1%、H21：53.5%)

“平等となっている”と回答した割合が増加している。(R3：31.4%、H27：25.9%、H21：20.2%)

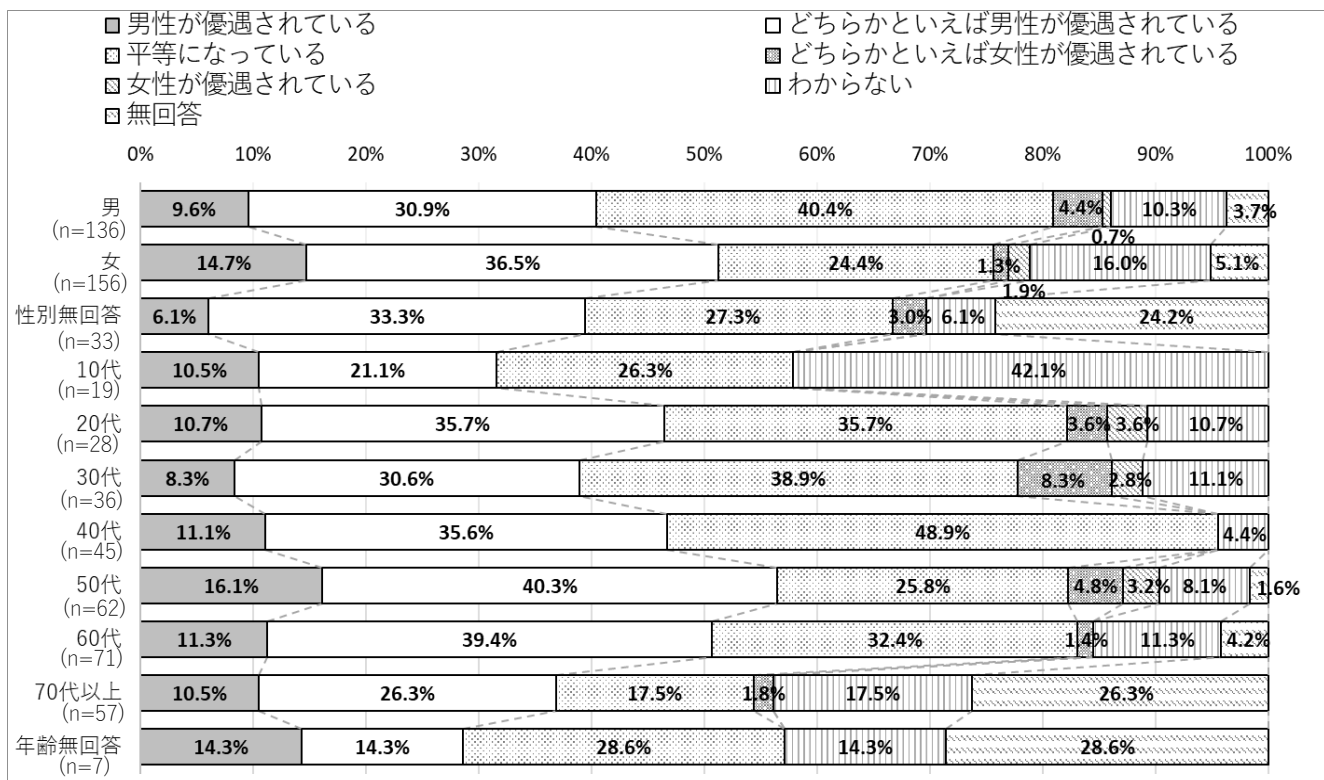


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

30代と40代は“平等になっている”と回答した割合が最も高く、50代と60代では“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が5割を超えている。



<問2-③ 政治の中で>

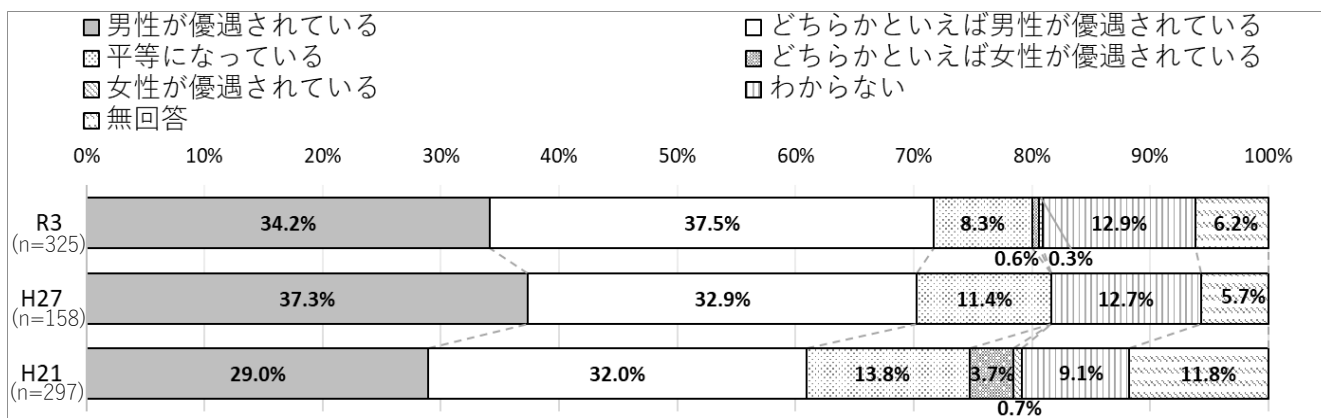
【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が37.5%と最も高く、次いで“男性が優遇されている”が34.2%、“わからない”が12.9%と続いている。

【過去数値との比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が増加している。(R3：71.7%、H27：70.2%、H23：61.0%)

“平等になっている”と回答した割合が減少している。(R3：8.3%、H27：11.4%、H21：13.8%)

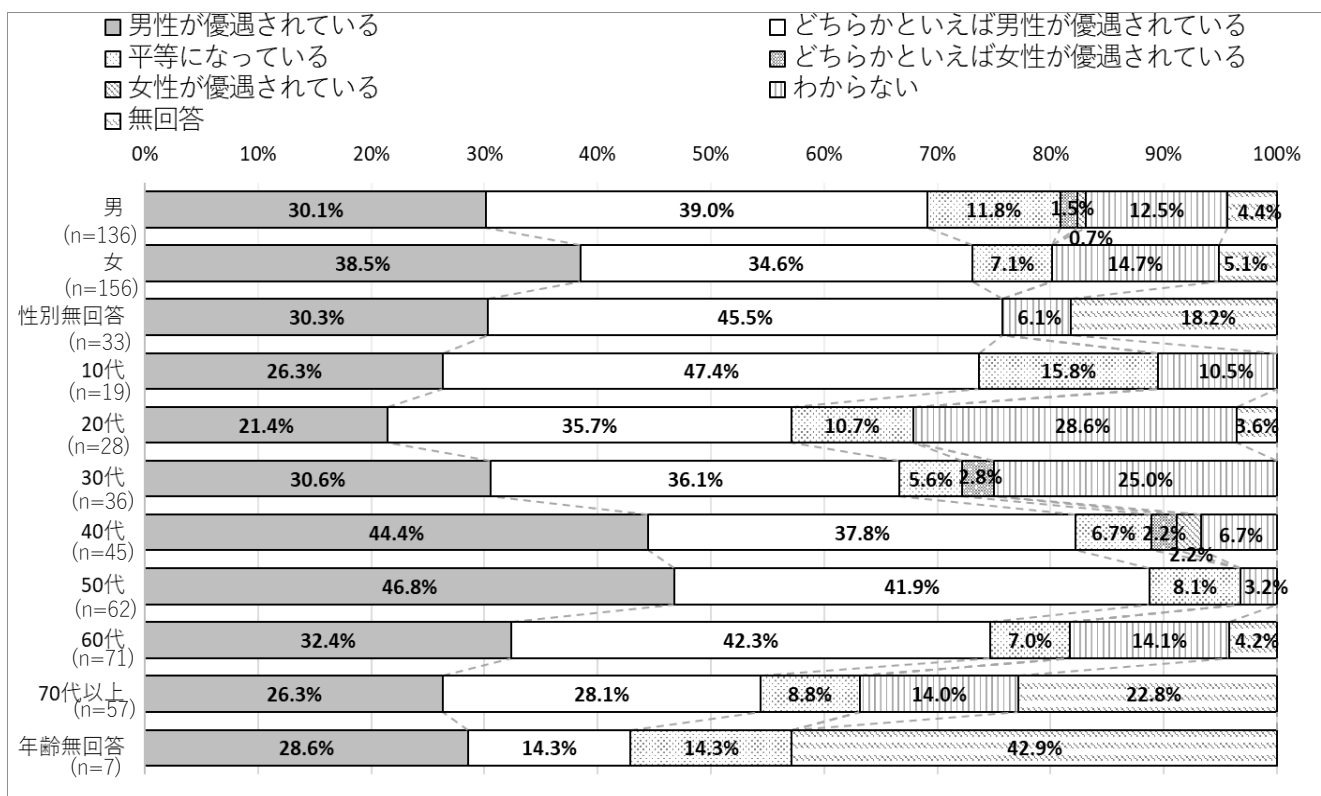


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が、男女ともに6割を超えている。

【年代別】

全ての年代で“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が半数以上を占めており、50代が最も多くなっている。



<問2-④ 学校の中で>

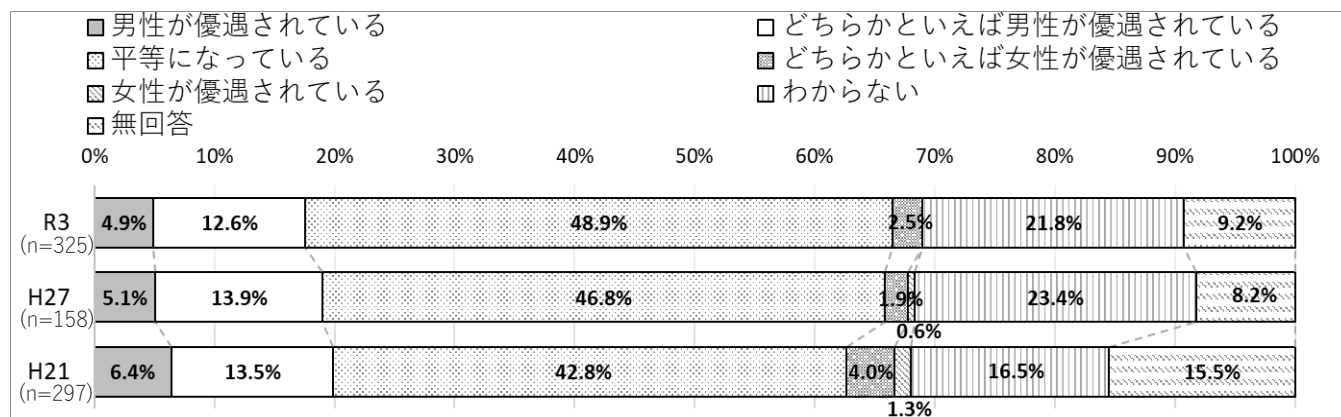
【全体】

“平等になっている”と回答した割合が48.9%と最も高く、次いで“わからない”が21.8%、“どちらかといえば男性が優遇されている”が12.6%と続いている。

【過去数値との比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が減少している。(R3: 17.5%、H27: 19.0%、H23: 19.9%)

“平等になっている”と回答した割合が増加している。(R3: 48.9%、H27: 46.8%、H21: 42.8%)

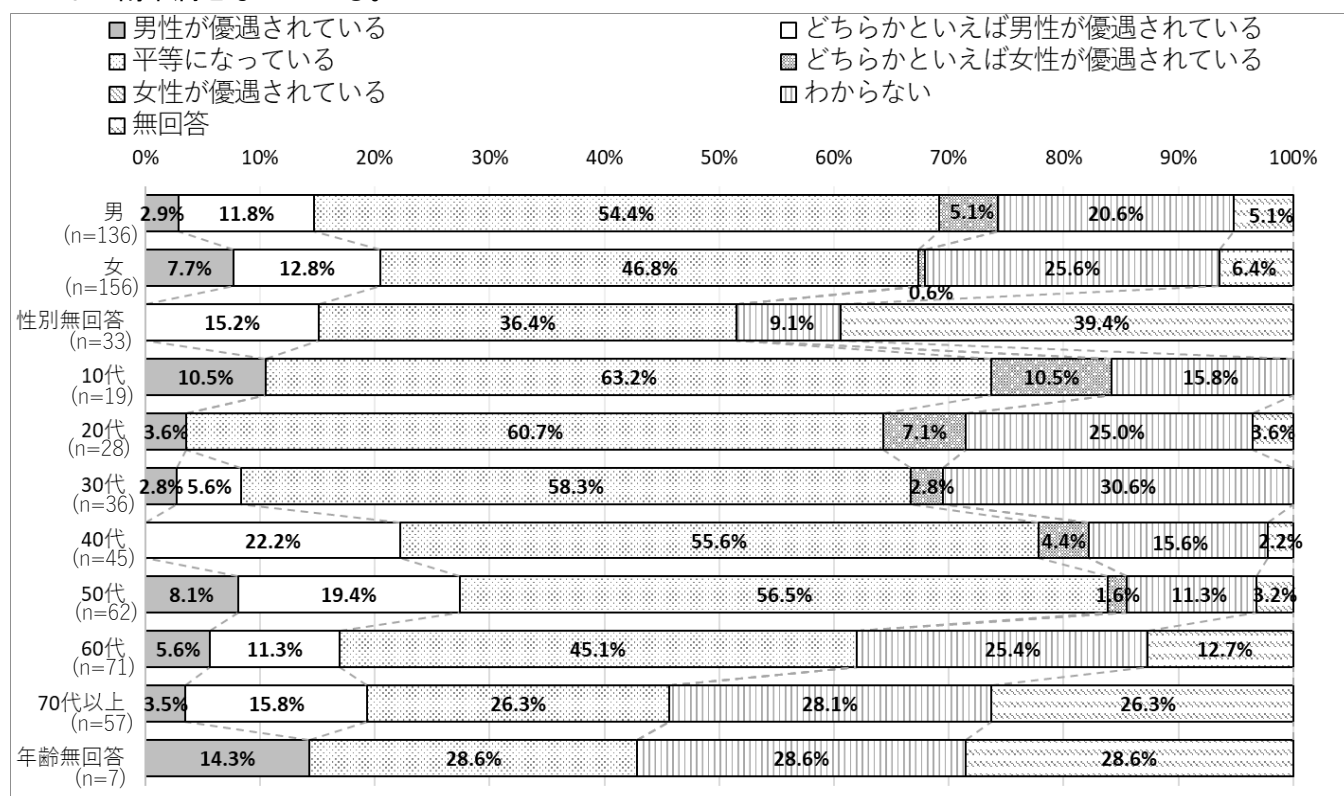


【男女別】

男女ともに“平等になっている”と回答した割合が最も高くなっている。

【年代別】

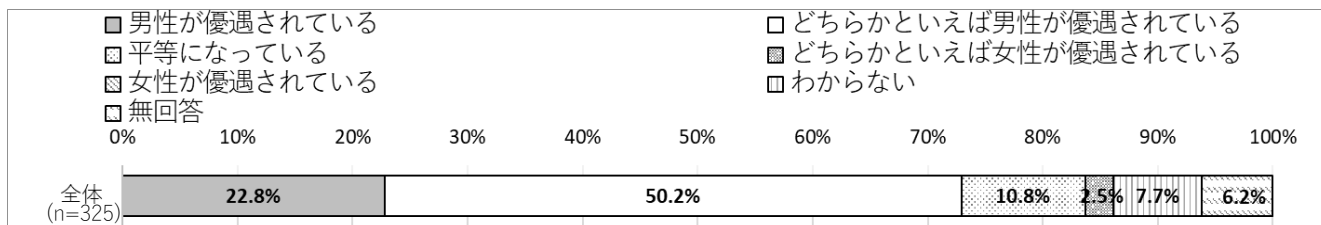
50代以下は、“平等になっている”と回答した割合が5割を超えているが、60代では5割未満、70代では3割未満となっている。



<問2-⑤ 社会通念・しきたり上で> ※令和3年度新設

【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が50.2%と最も高く、次いで“男性が優遇されている”が22.8%、“平等になっている”が10.8%と続いている。また、“女性が優遇されている”は0だった。

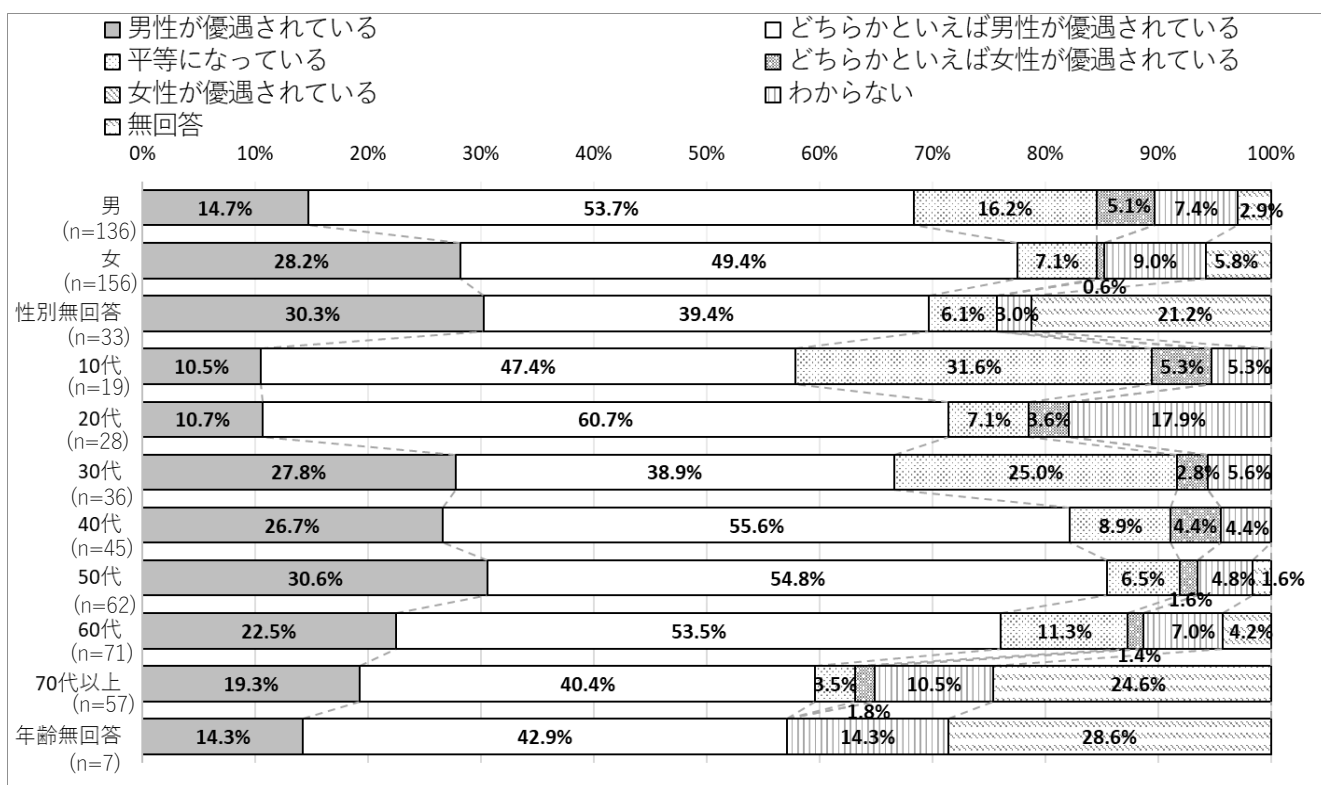


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が男女ともに6割を超えており、男性より女性の方が多い。

【年代別】

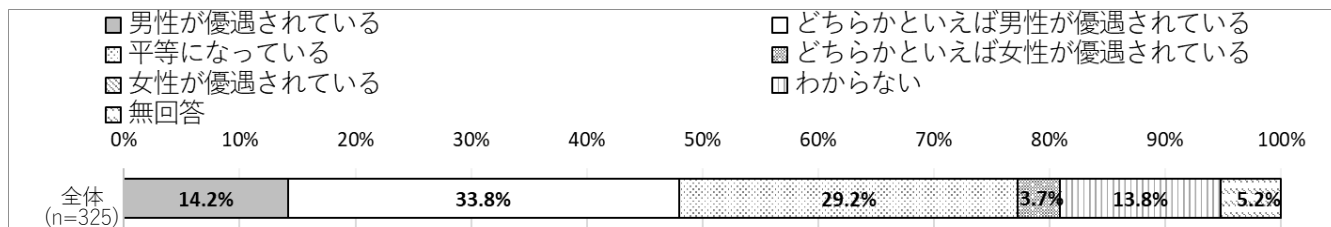
全ての年代で“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が5割を超えており、50代が最も高くなっている。



<問2-⑤ 法律や制度上で> ※令和3年度新設

【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が33.8%と最も高く、次いで“平等になっている”が29.2%、“男性が優遇されている”が14.2%と続いている。また、“女性が優遇されている”は0だった。

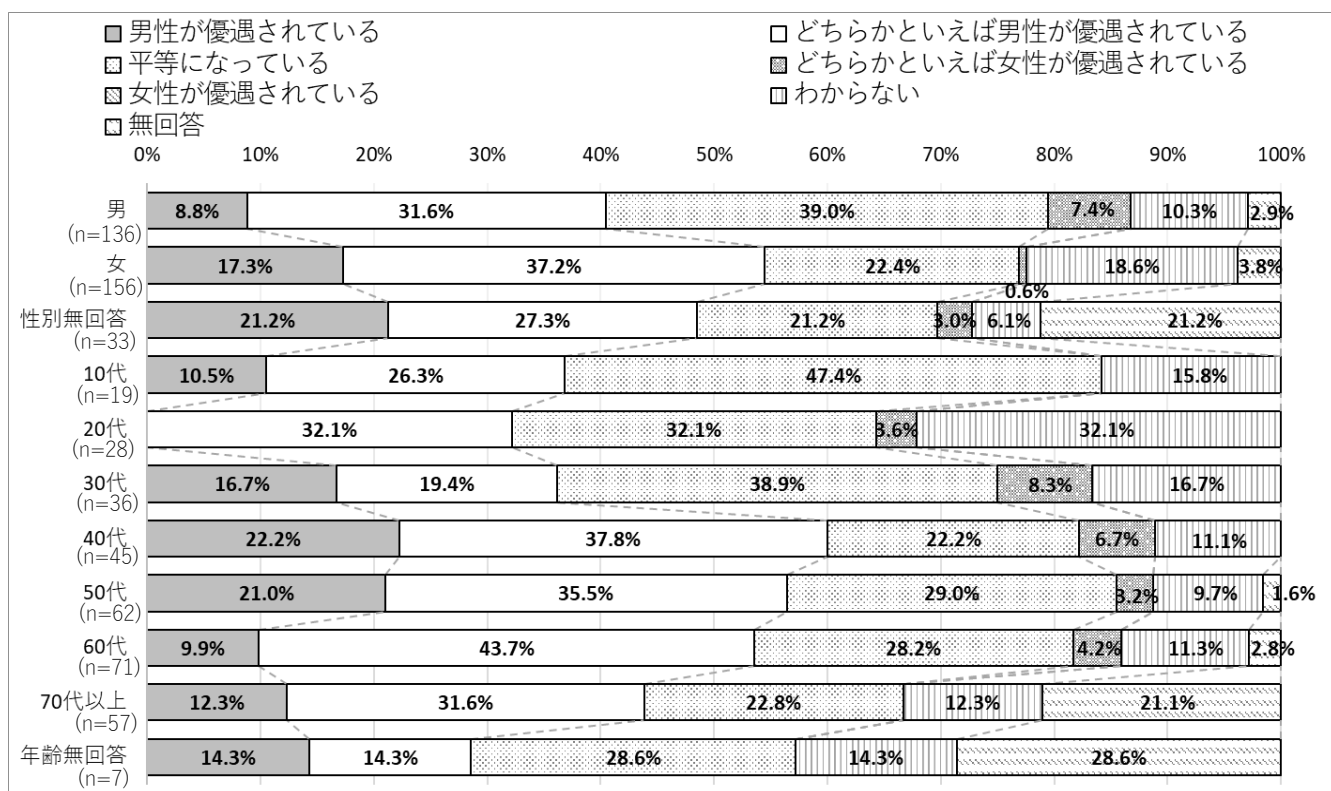


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は男性より女性の方が高い。

【年代別】

10代は“平等になっている”と回答した割合が4割を超えているが、40代以上では3割以下となっている。



<問2－⑥ 地域社会で>

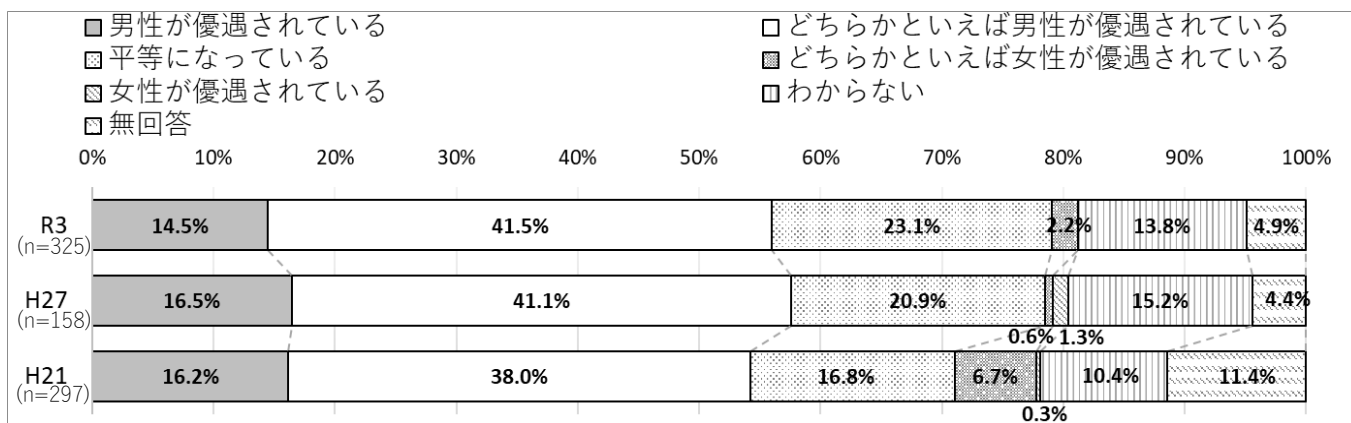
【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が41.5%と最も高く、次いで“平等になっている”が23.1%、“男性が優遇されている”が14.5%と続いている。また、女性が優遇されている“は0だった。

【過去数値との比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が、平成27年と比べると減少しているものの、平成21年と比べると微増している。(R3：56.0%、H27：57.6%、H21：54.2%)

“平等になっている”と回答した割合が増加している。(R3：23.1%、H27：20.9%、H21：16.8%)

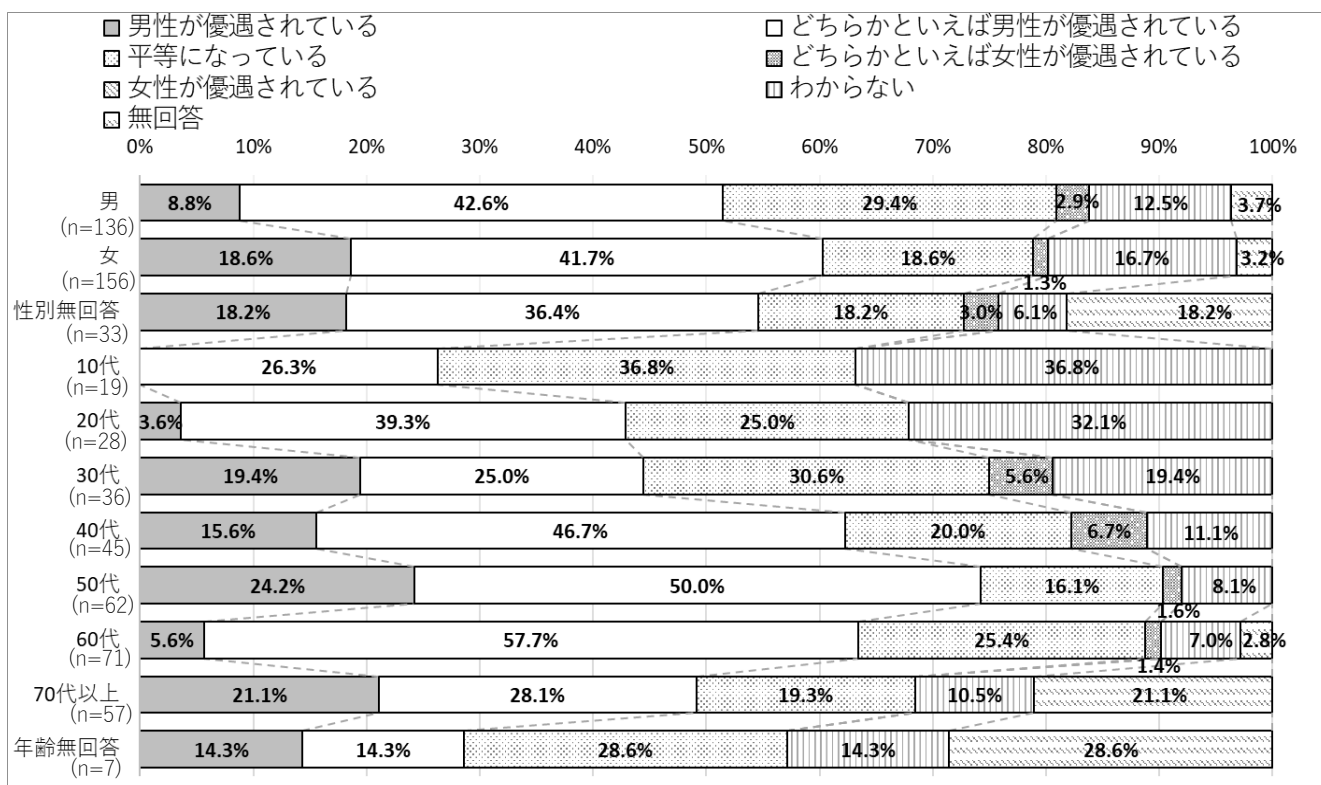


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は男性より女性の方が高い。

【年代別】

40代から60代では“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が6割以上となっている。



（３）結婚と家庭生活について

問３．次の項目について、あなたはどのように思いますか。

それぞれ１～４の中から１つだけ選んで○をしてください。

【全体】

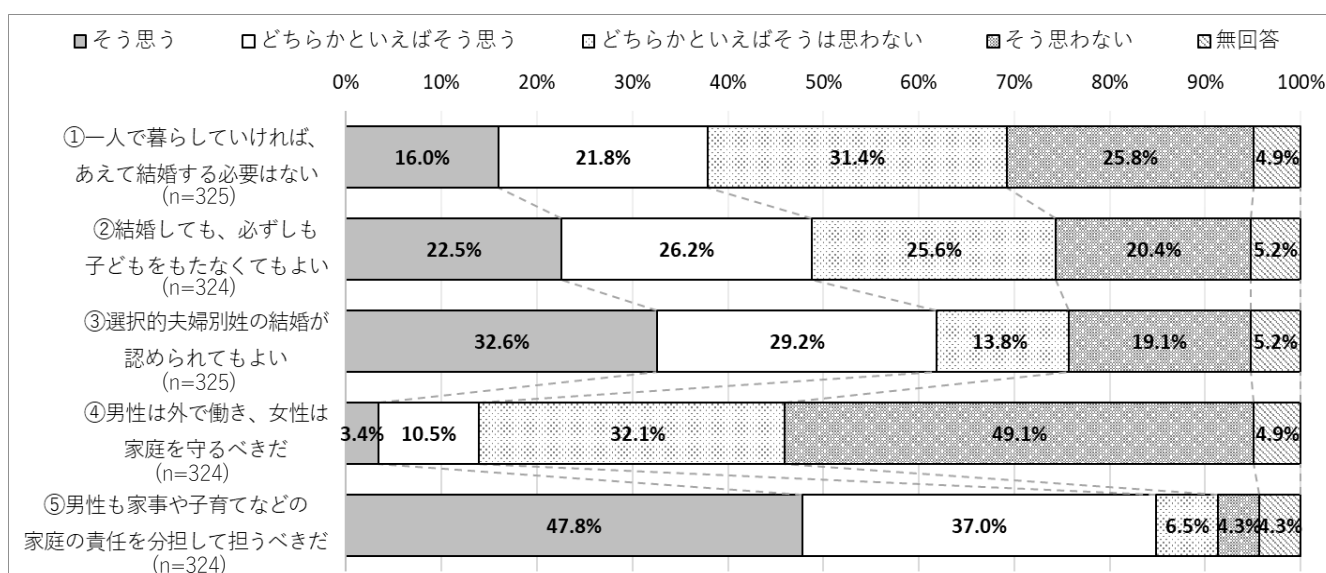
〈①一人で暮らしていければあえて結婚する必要はない〉という考え方に、57.2%が“どちらかといえばそうは思わない”又は“そう思わない”と回答している。

〈②結婚しても、必ずしも子どもをもたなくてもよい〉という考え方に、48.7%が“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答している。

〈③選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい〉という考え方に、61.8%が“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答している。

〈④男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ〉という考え方に、81.2%が“どちらかといえばそうは思わない”又は“そう思わない”と回答している。

〈⑤男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ〉という考え方に、84.8%が“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答している。



<問3-① 一人で暮らしていけば、あえて結婚する必要はない>

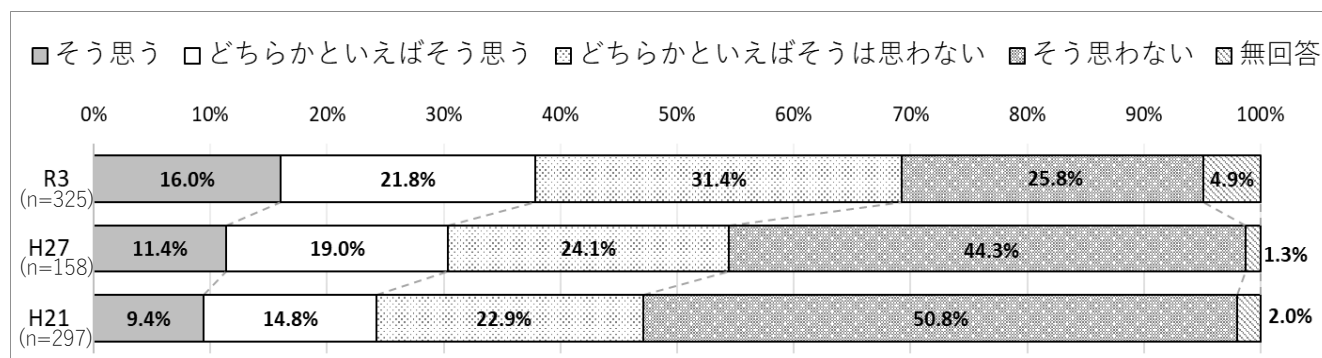
【全体】

“どちらかといえばそうは思わない”と回答した割合が31.4%と最も高く、次いで“そう思わない”が25.8%と、合わせて5割を超えている。

【過去数値との比較】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が増加している。

(R3 : 37.8%、H27 : 30.4%、H21 : 24.2%)

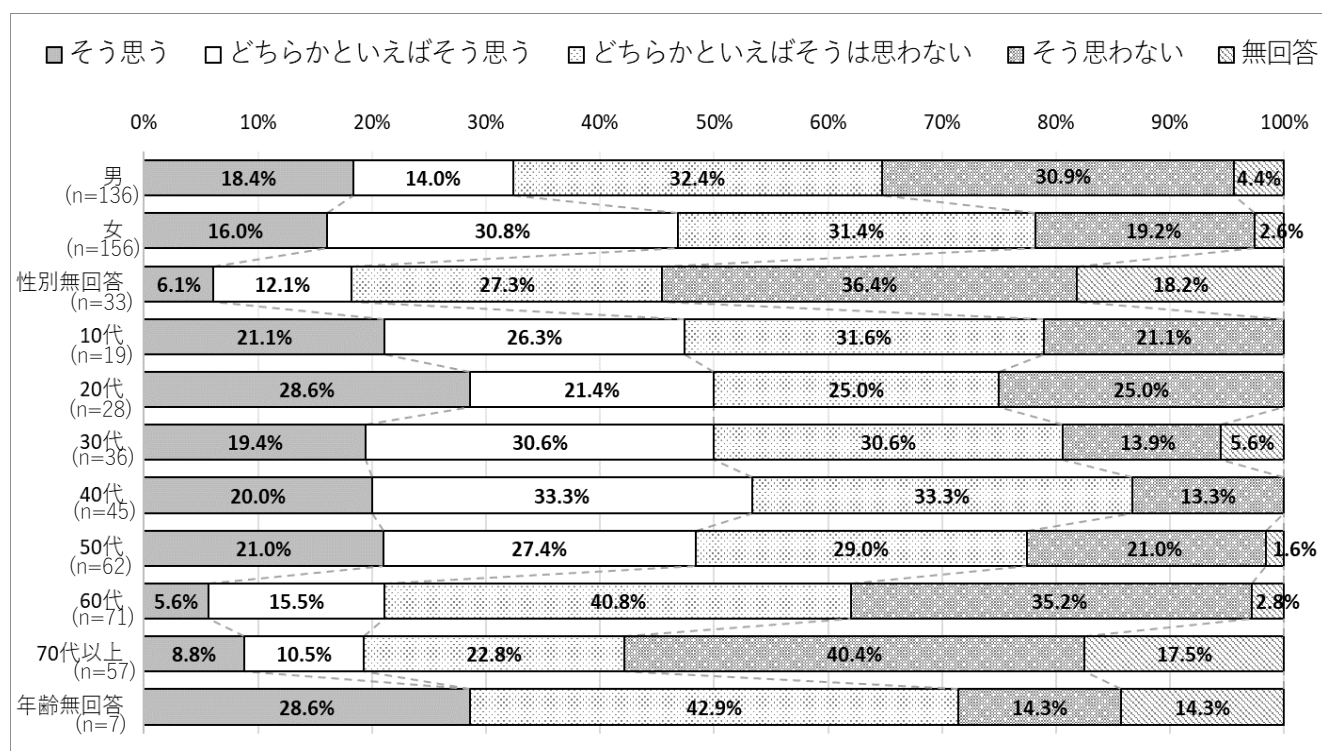


【男女別】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

50代以下では、“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”回答した割合が4割を超えているが、60代以上は2割程度となっている。



<問3-② 結婚しても、必ずしも子どもをもたなくてもよい>

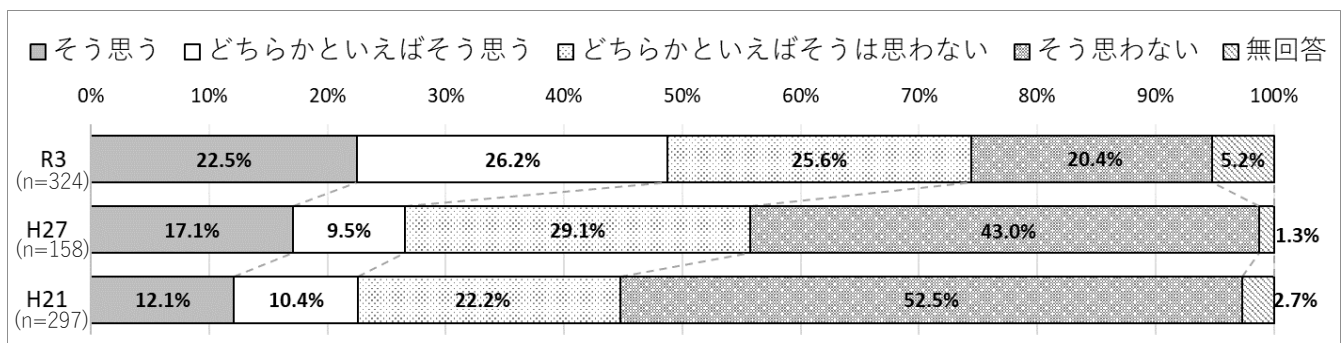
【全体】

“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が26.2%と最も高く、次いで“どちらかといえばそうは思わない”25.6%、“そう思う”22.5%が続いている。

【過去数値との比較】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が増加している。

(R3:48.7%、H27:26.6%、H21:22.5%)

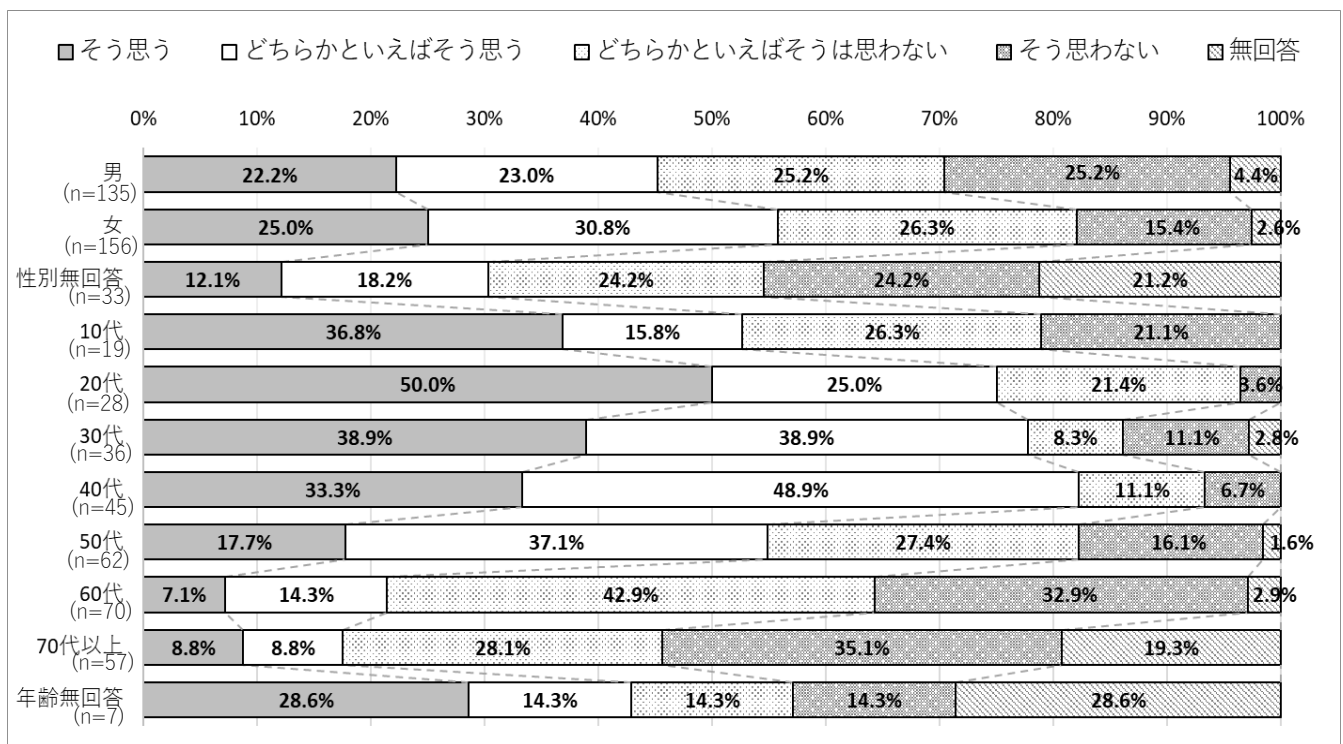


【男女別】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

50代以下は、“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が5割を超えているが、60代以上は2割程度となっている。



<問3-③ 選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい>

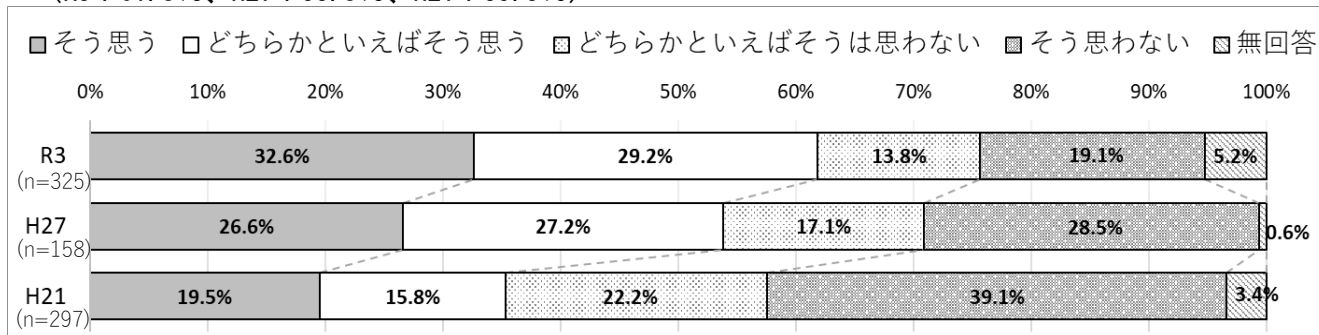
【全体】

“そう思う”と回答した割合が32.6%と最も高く、次いで“どちらかといえばそう思う”が29.2%と、合わせて6割を超えている。

【過去数値との比較】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が増加している。

(R3 : 61.8%、H27 : 53.8%、H21 : 35.3%)

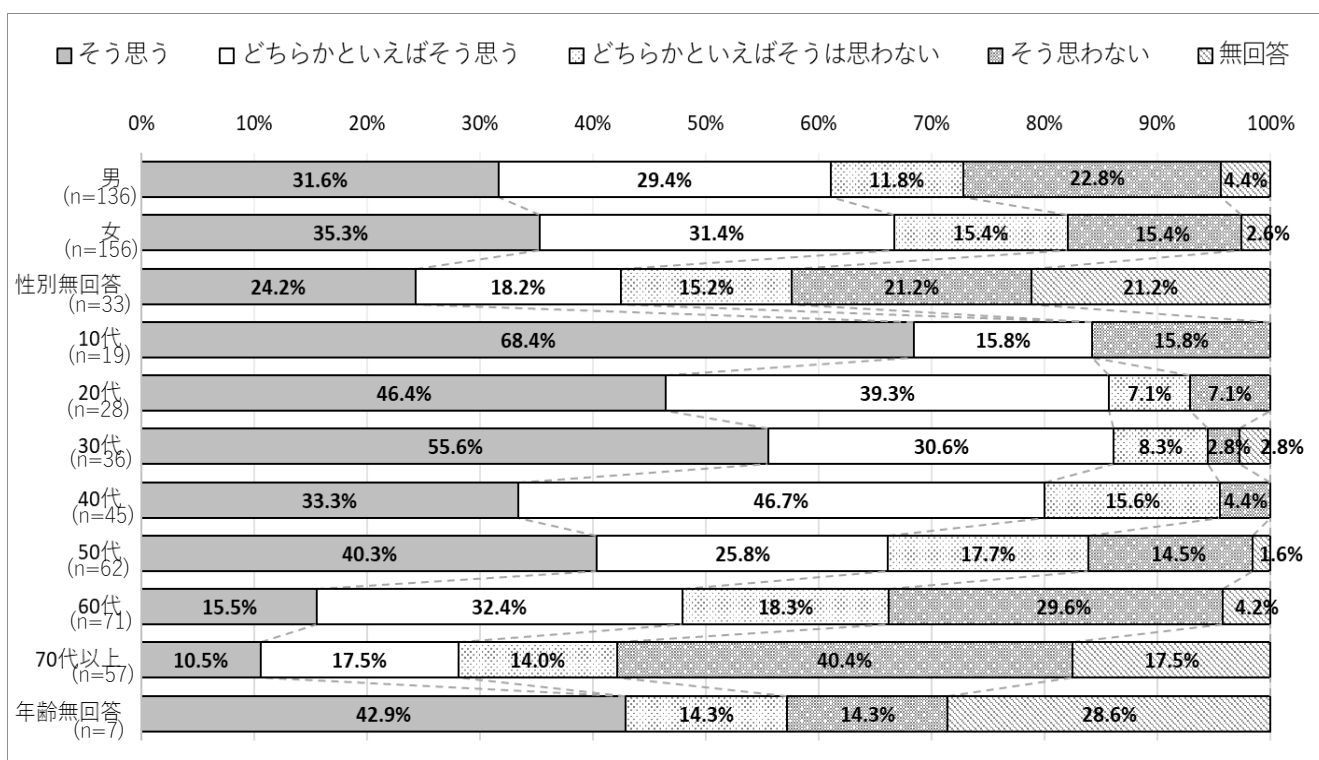


【男女別】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

40代以下は、“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が8割を超えている。



<問3-④ 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ>

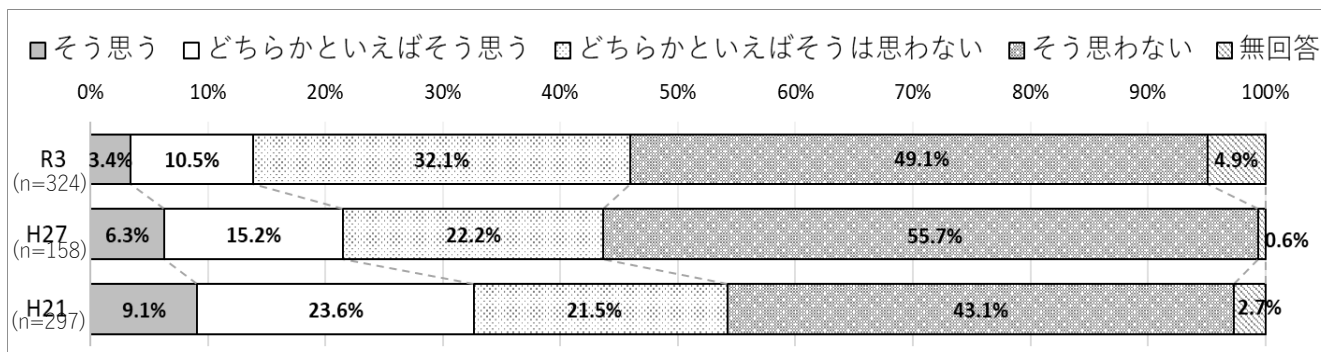
【全体】

“そう思わない”と回答した割合が49.1%と最も高く、次いで“どちらかといえばそう思わない”が32.1%と、合わせて8割を超えている。

【過去数値との比較】

“そう思わない”又は“どちらかといえばそう思わない”と回答した割合が増加している。

(R3 : 81.2%、H27 : 77.9%、H21 : 64.6%)

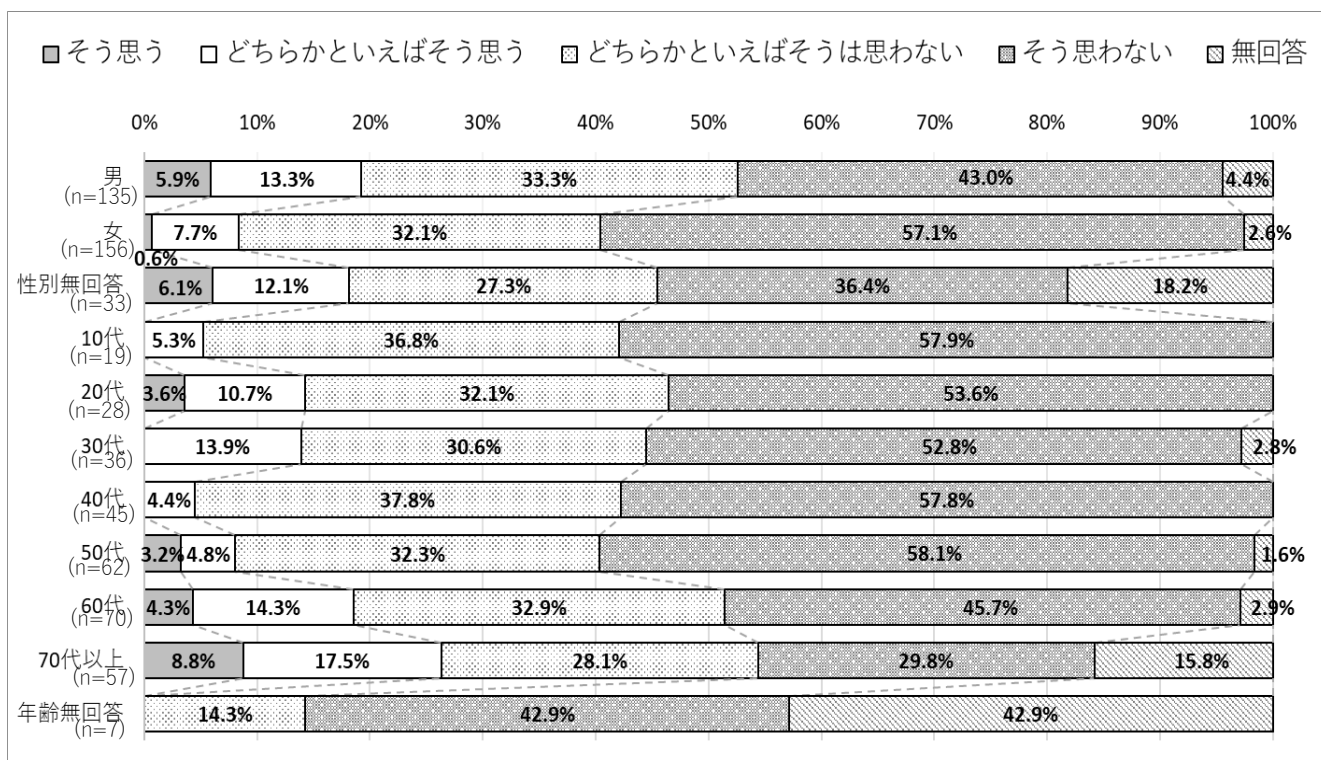


【男女別】

“そう思わない”又は“どちらかといえばそう思わない”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

60代以下では、“そう思わない”又は“どちらかといえばそう思わない”と回答した割合が7割を超えている。



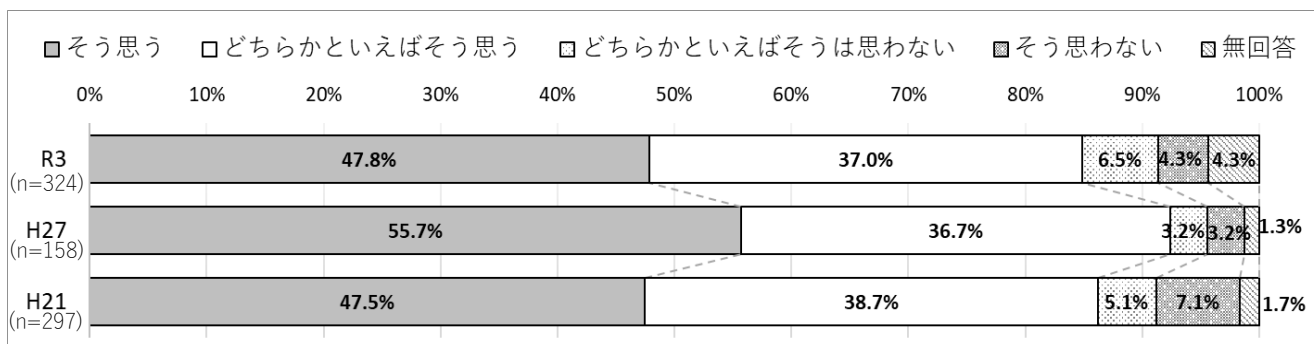
＜問3－⑤ 男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ＞

【全体】

“そう思う”と回答した割合が47.8%と最も高く、次いで“どちらかといえばそう思う”が37.0%と、合わせて8割を超えている。

【過去数値との比較】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が減少している。（R3：84.8%、H27：92.4%、H21：86.2%）

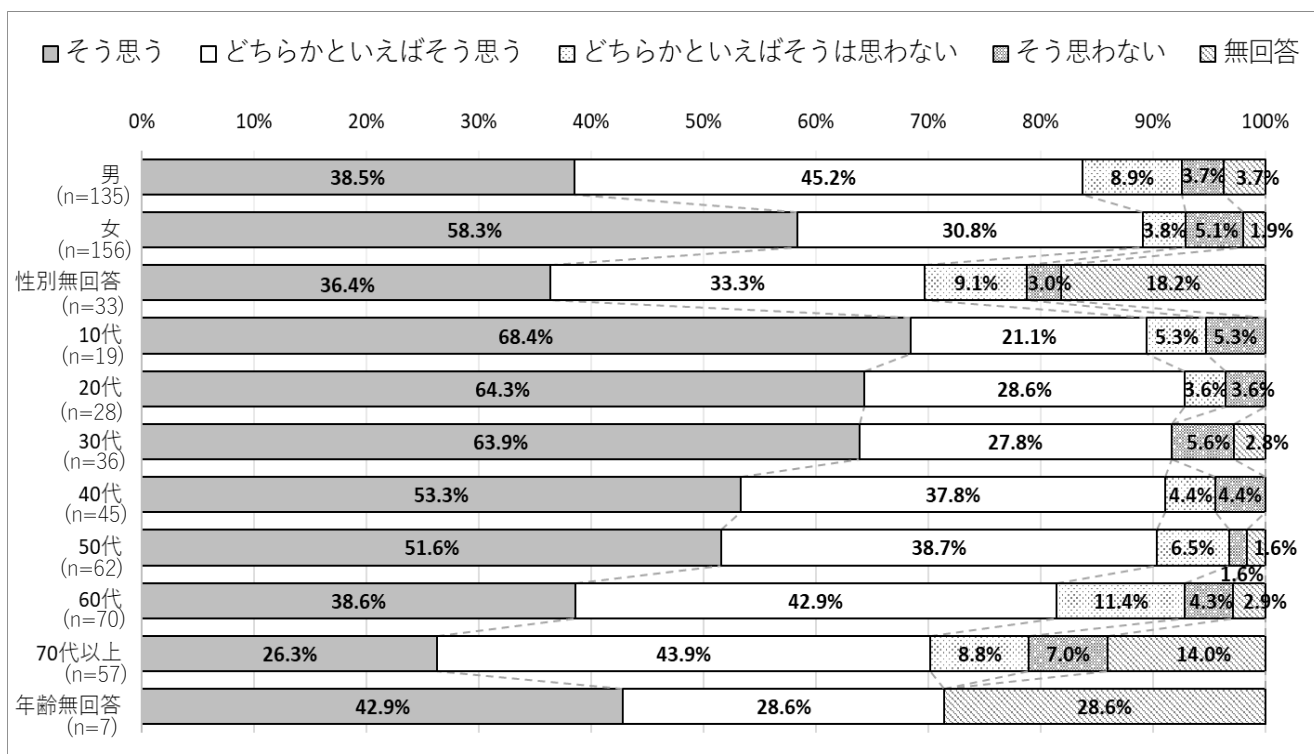


【男女別】

“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

若い年代ほど、“そう思う”と回答した割合が高い。

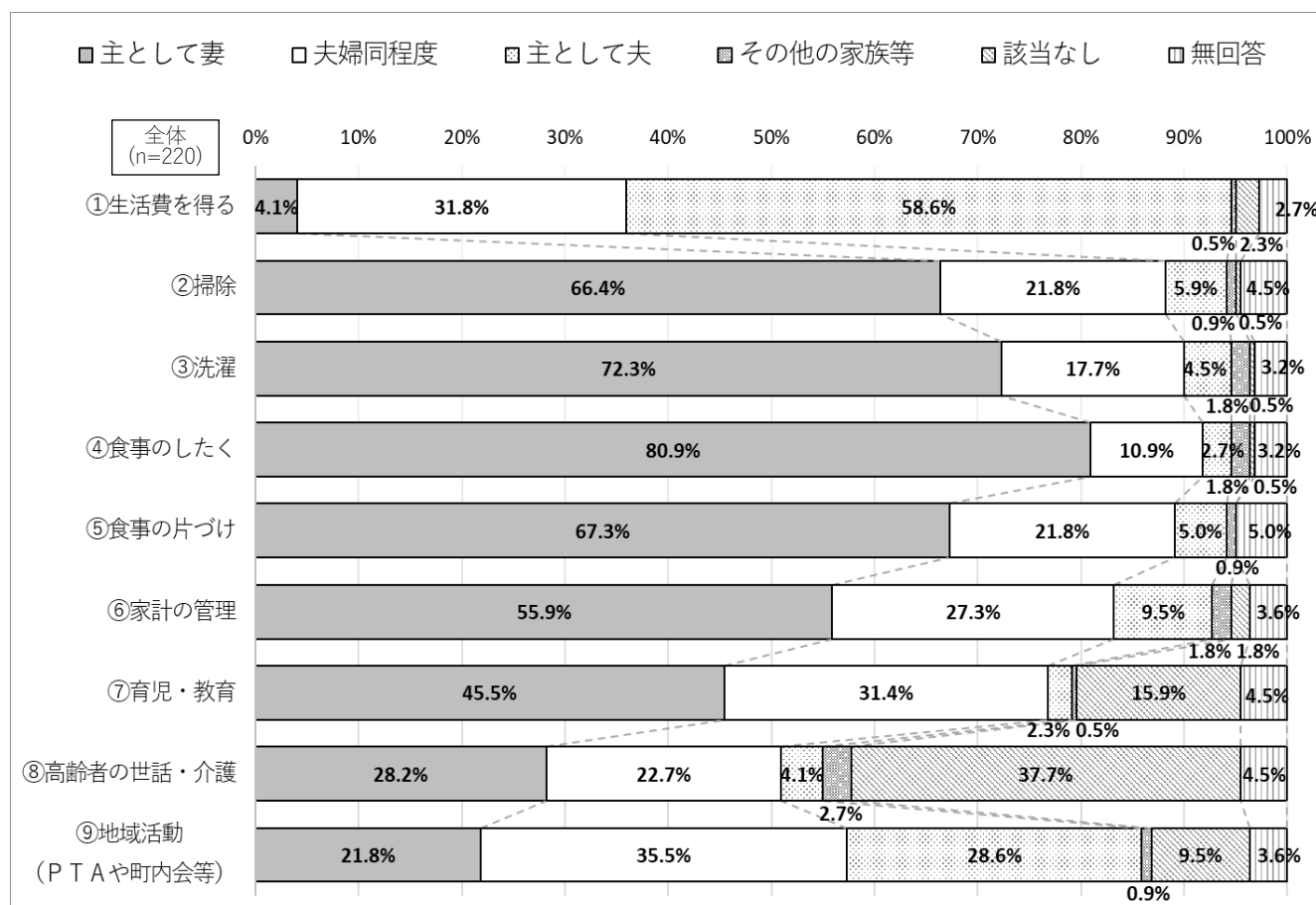


問4. 既婚の方にお尋ねします。あなたの家庭では、次の項目の仕事は夫婦のうち、どちらが主に担当されていますか。それぞれ次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。

【全体】

〈②掃除〉〈③洗濯〉〈④食事のしたく〉〈⑤食事の片づけ〉〈⑥家計の管理〉〈⑦育児・教育〉の主な担当について、“主として妻”と回答している割合が最も高く、いずれも4割を超えている。〈⑧高齢者の世話・介護〉は、“該当なし”を除くと、“主として妻”が最も高い。

一方、〈①生活費を得る〉は、“主として夫”が58.6%と最も高く、〈⑨地域活動（PTAや町内会等）〉は“夫婦同程度”が35.5%と最も高くなっている。



<問4-① 生活費を得る>

【全体】

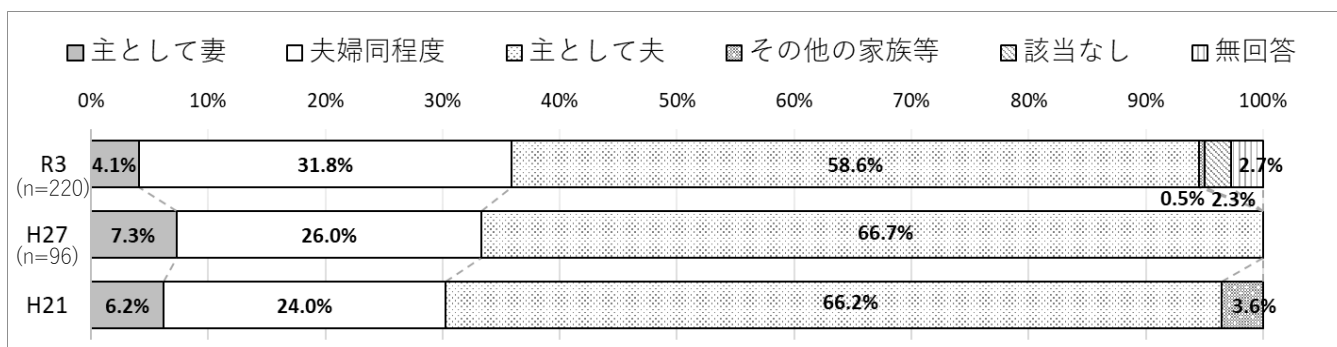
“主として夫”と回答した割合が58.6%と最も高く、次いで“夫婦同程度”が31.8%と続いている。

【過去数値との比較】

“夫婦同程度”と回答した割合が増加しており、“主として夫”と回答した割合が減少している。

(“夫婦同程度” R3 : 31.8%、H27 : 26.0%、H21 : 24.0%)

(“主として夫” R3 : 58.6%、H27 : 66.7%、H21 : 66.2%)



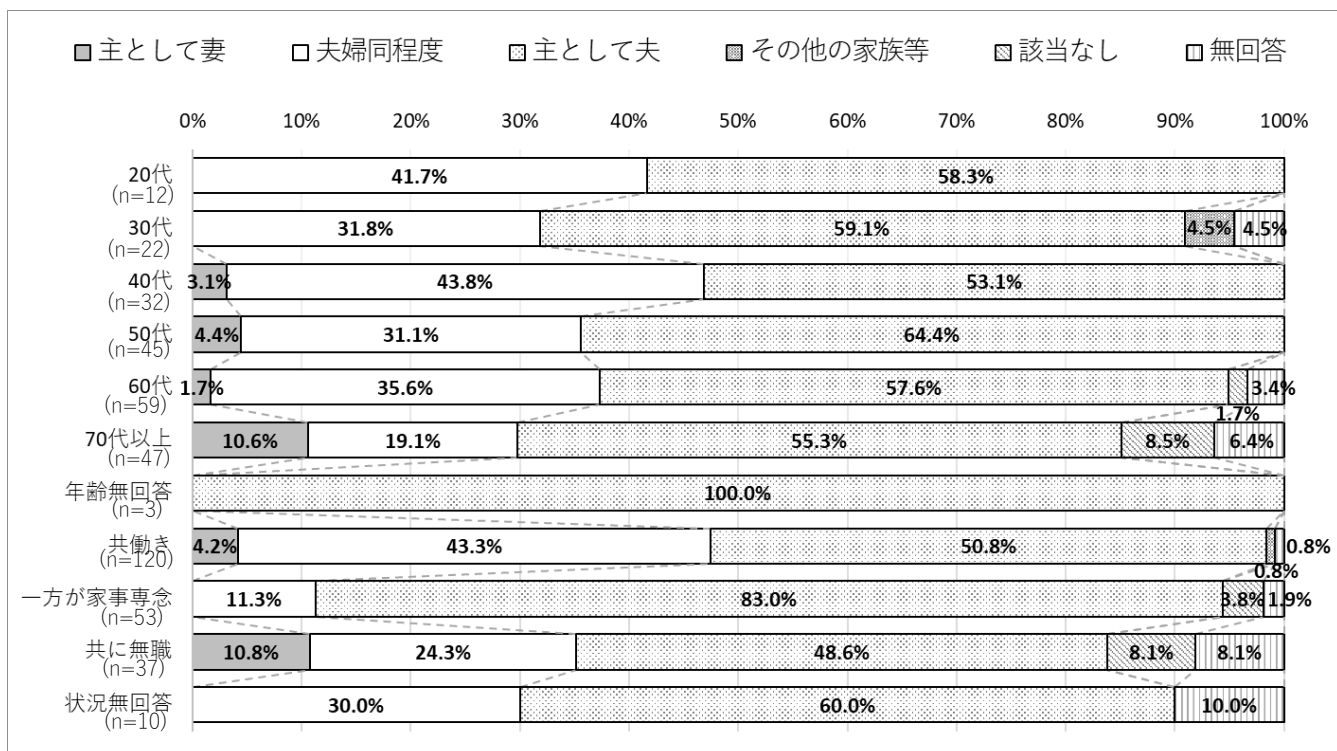
※選択肢の“該当なし”は令和3年度より追加

【年代別】

全ての年代で“主として夫”と回答している割合が5割を超えている。

【共働きの状況】

共働き世帯では、“主として夫”と回答している割合が約5割となっている。



<問4-② 掃除>

【全体】

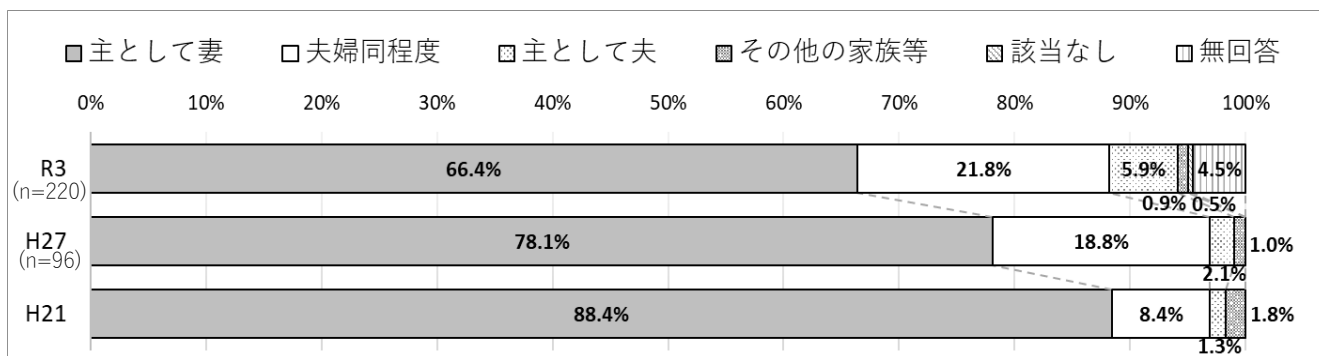
“主として妻”と回答した割合が66.4%と最も多く、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が21.8%と続いている。

【過去数値との比較】

“主として妻”と回答した割合が減少しており、“夫婦同程度”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R3 : 66.4%、H27 : 78.1%、H21 : 88.4%)

(“夫婦同程度” R3 : 21.8%、H27 : 18.8%、H21 : 8.4%)



※平成27年、21年調査の項目は「掃除・洗濯」

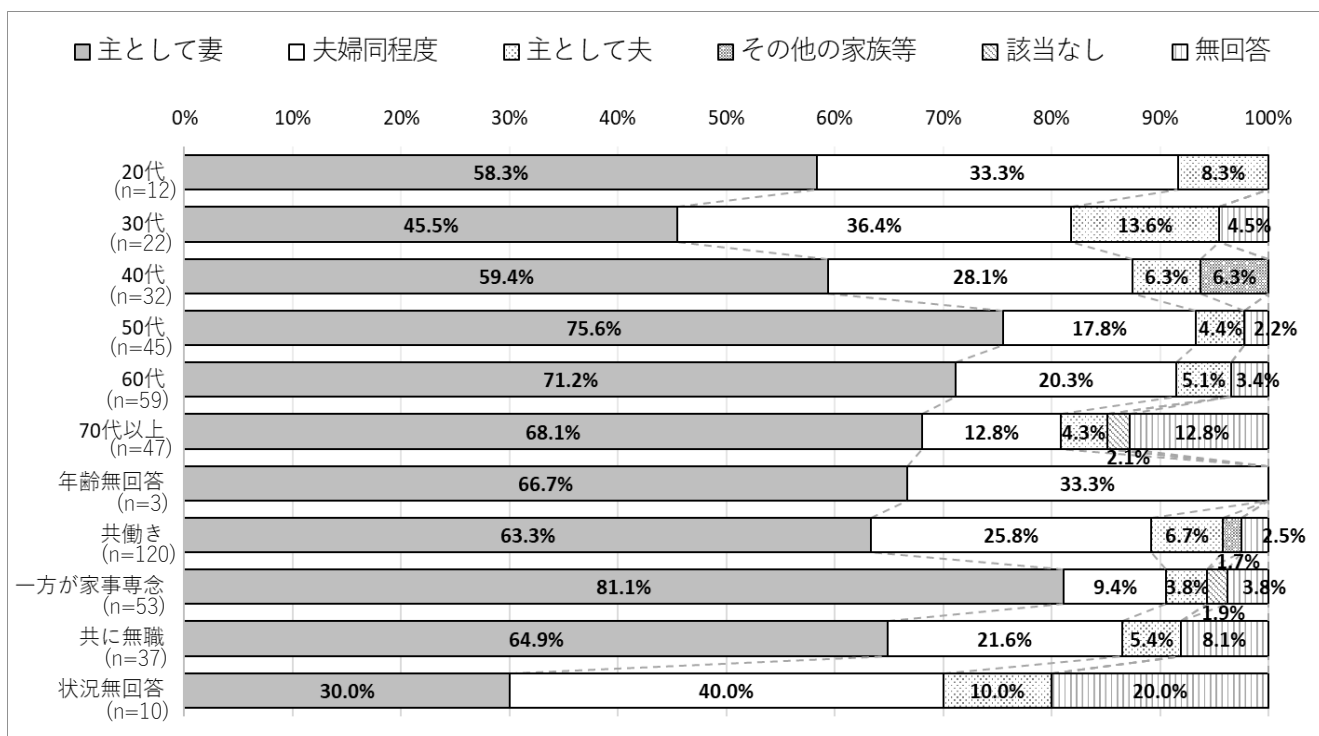
※選択肢の“該当なし”は令和3年度より追加

【年代別】

30代を除く全ての年代で“主として妻”と回答した割合が5割を超えているが、20代と30代では“夫婦同程度”が3割を超えている。

【共働きの状況】

共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が6割を超えている。



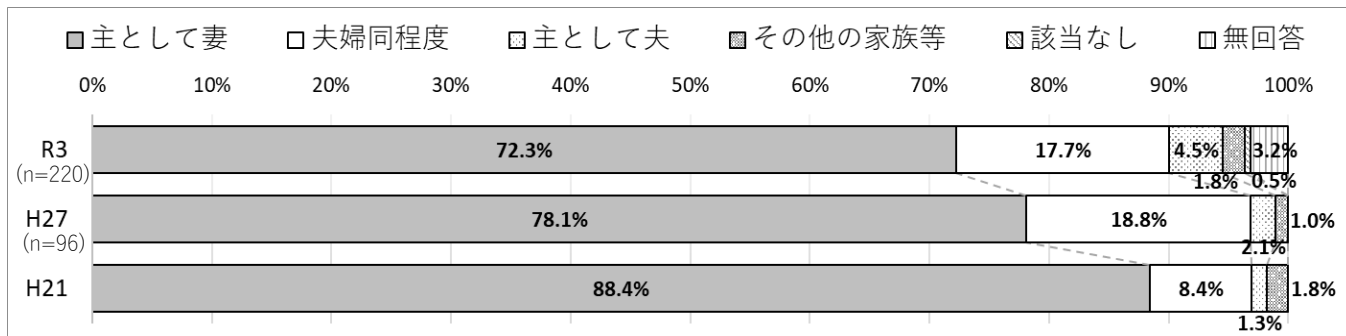
<問4－③ 洗濯>

【全体】

“主として妻”と回答した割合が72.3%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が17.7%と続いている。

【過去数値との比較】

“主として妻”と回答した割合が減少している。（R3：72.3%、H27：78.1%、H21：88.4%）



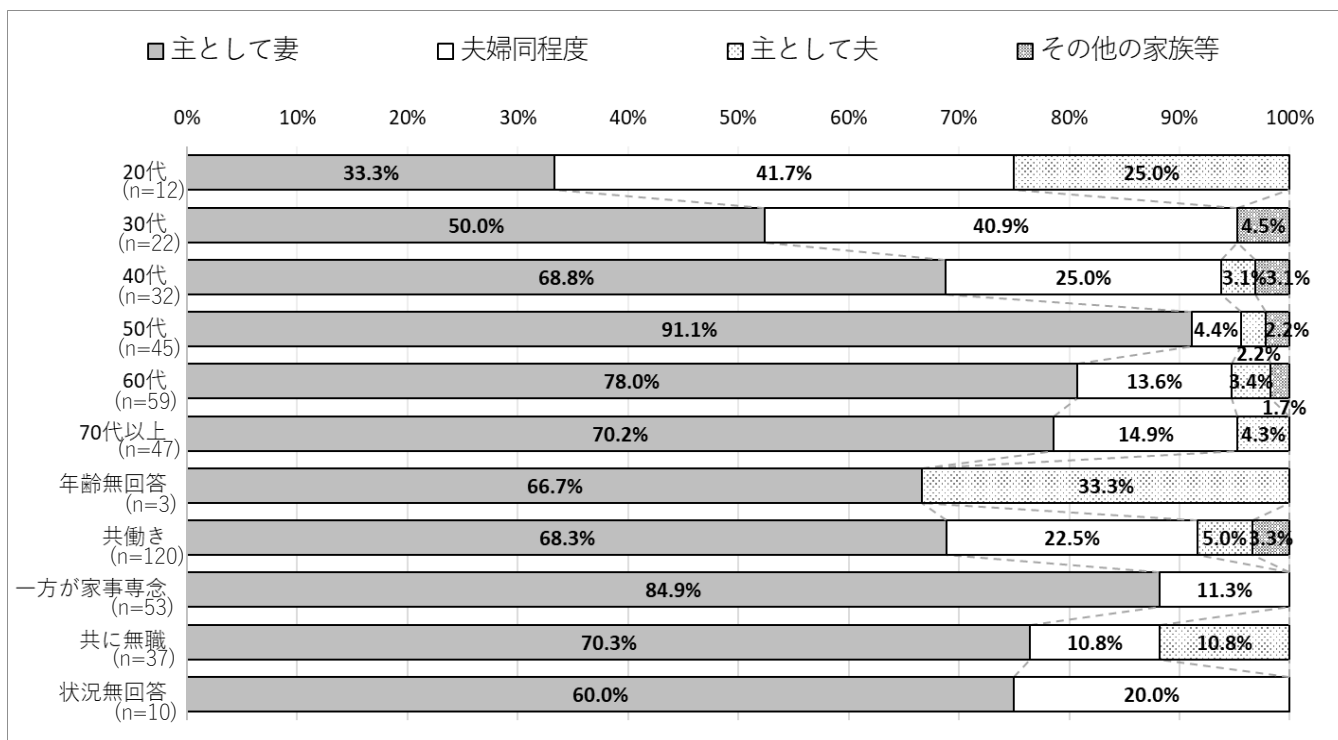
※平成27年、21年調査の項目は「掃除・洗濯」
※選択肢の“該当なし”は令和3年度より追加

【年代別】

“主として妻”と回答した割合は、50代が最も多く、20代が最も低い。“夫婦同程度”と回答した割合は、20代と30代が約4割となっている。

【共働きの状況】

共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が6割を超えている。



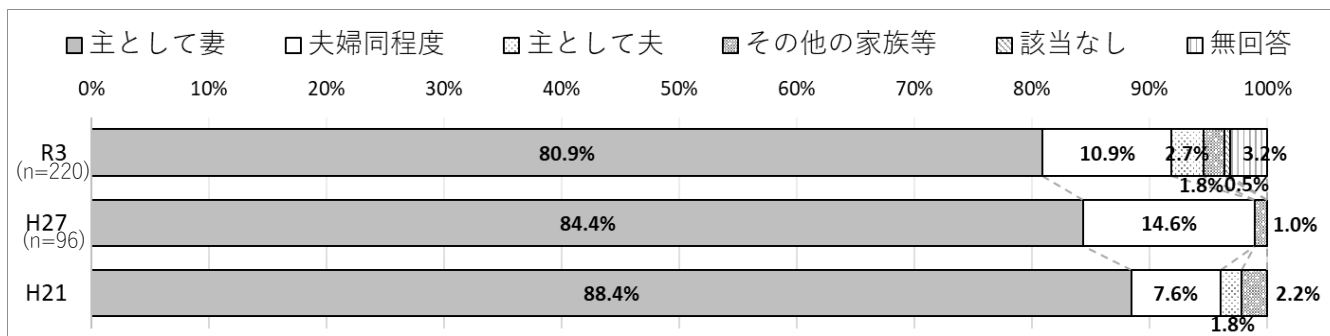
<問4－④ 食事のしたく>

【全体】

“主として妻”と回答した割合が80.9%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が10.9%と続いている。

【過去数値との比較】

“主として妻”と回答した割合が減少している。（R3：80.9%、H27：84.4%、H21：88.4%）

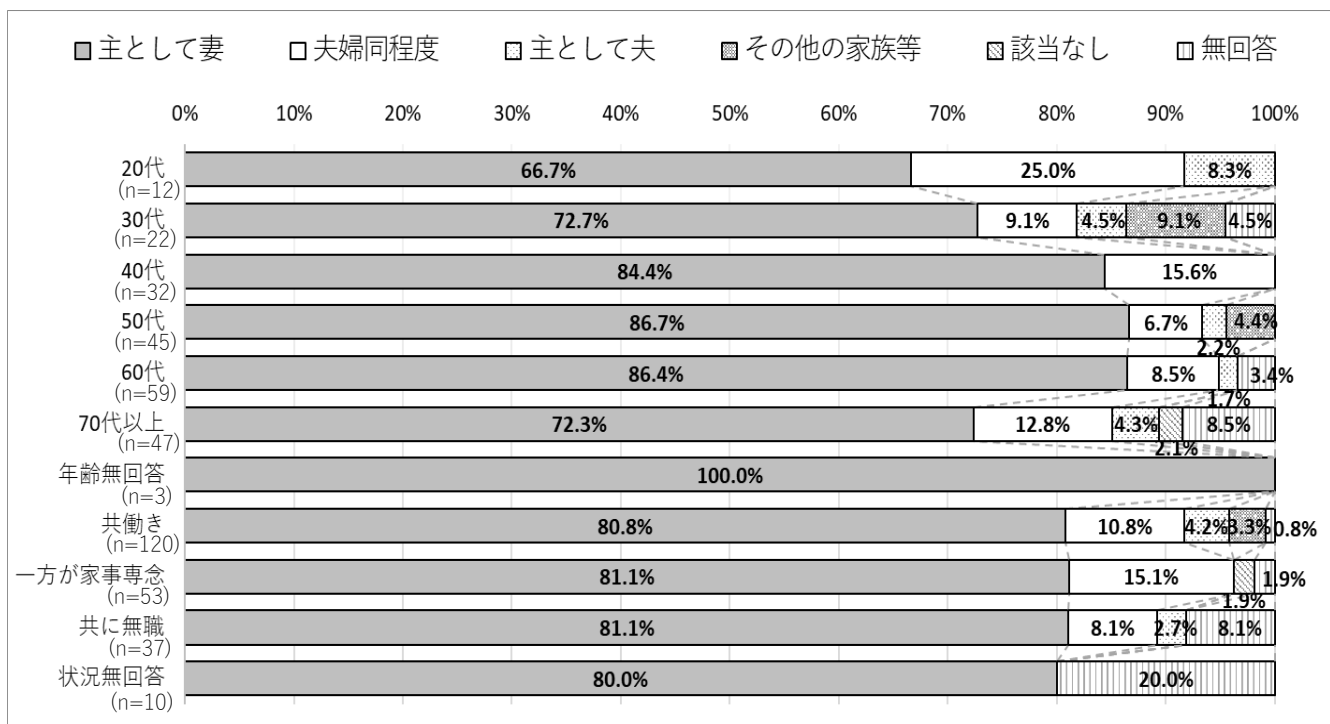


【年代別】

40代から60代は“主として妻”と回答した割合が8割を超えている。“夫婦同程度”と回答した割合は20代が最も高い。

【共働きの状況】

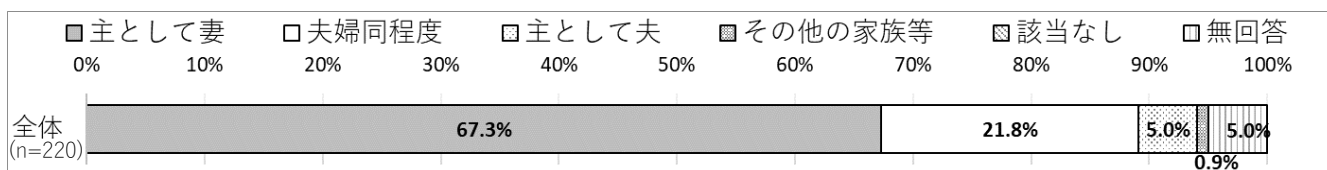
共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が8割を超えている。“夫婦同程度”と回答した割合は一方が家事専念の世帯が最も高い。



＜問４－⑤ 食事の片づけ＞ ※令和３年度新設

【全体】

“主として妻”と回答した割合が67.3%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が21.8%と続いている。



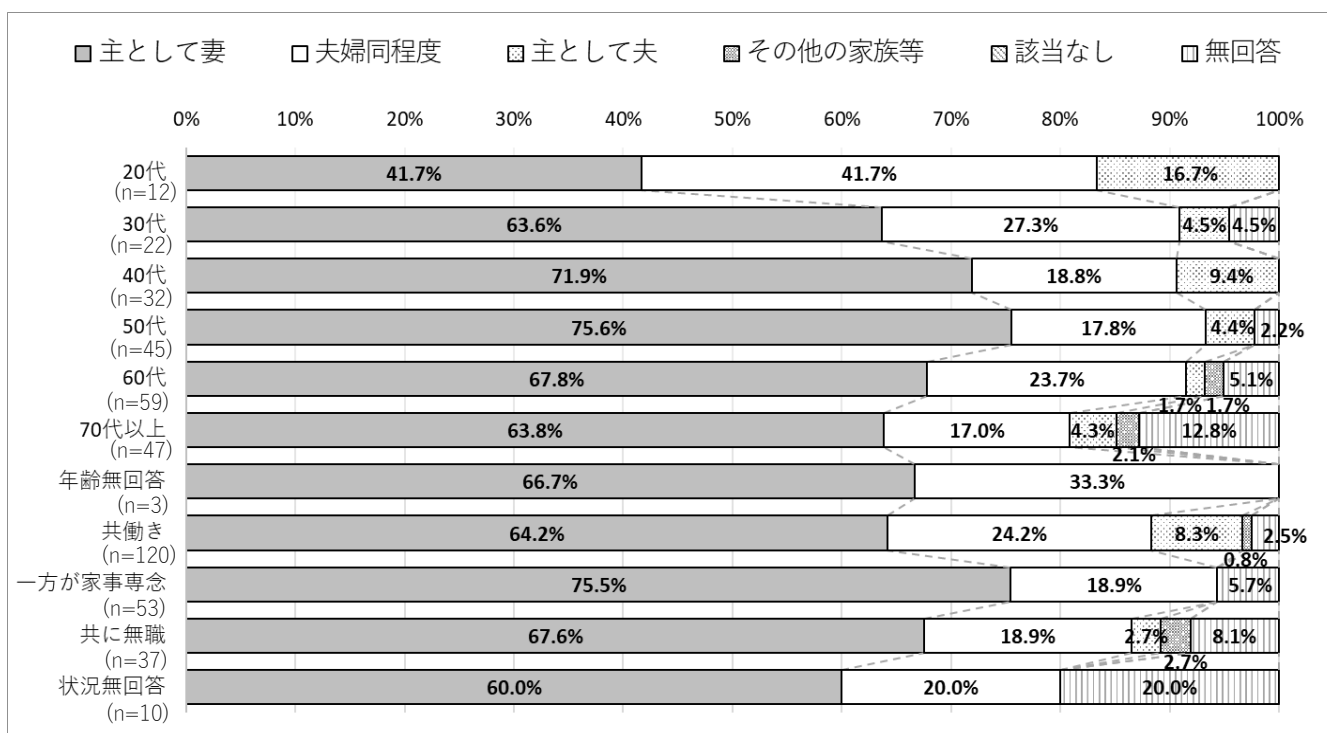
※選択肢の“該当なし”は令和３年度より追加

【年代別】

20代を除く全ての年代で“主として妻”と回答した割合が６割を超えている。

【共働きの状況】

共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が６割を超えている。



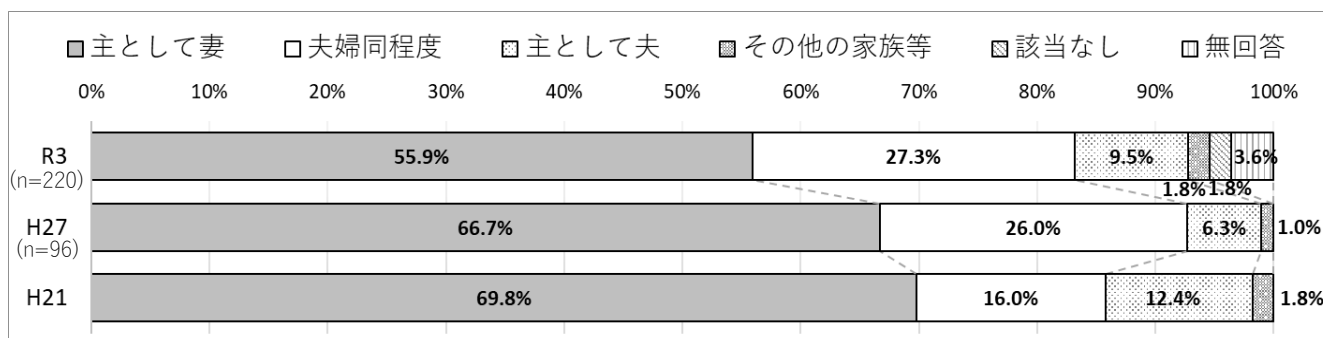
<問4－⑥ 家計の管理>

【全体】

“主として妻”と回答した割合が55.9%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が27.3%と続いている。

【過去数値との比較】

“主として妻”と回答した割合が減少している。（R3：55.9%、H27：66.7%、H21：69.8%）



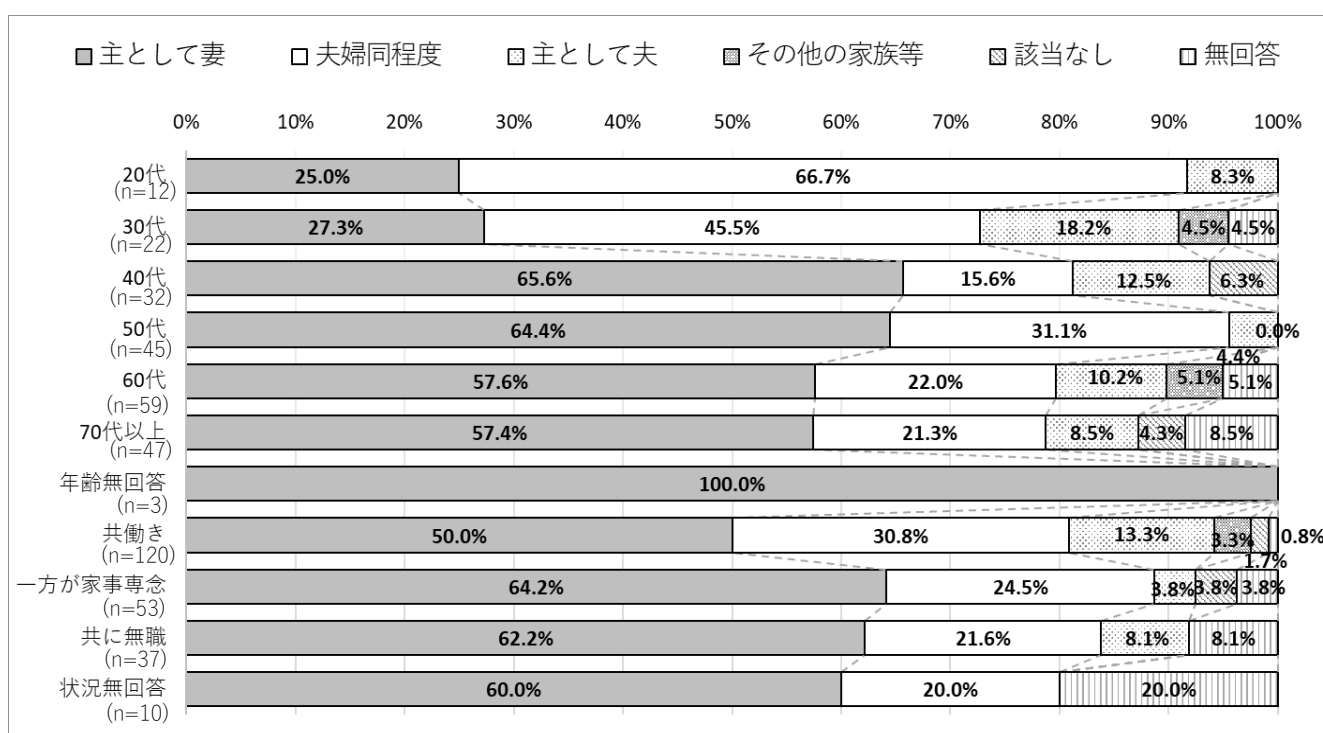
※選択肢の“該当なし”は令和3年度より追加

【年代別】

40代以上では、“主として妻”と回答した割合が5割を超えているが、20代と30代では3割以下となっており、“夫婦同程度”と回答した割合は、20代が6割、30代が4割を超えている。

【共働きの状況】

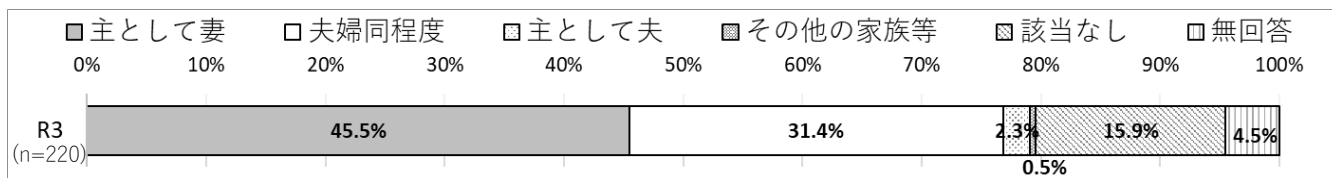
共働き世帯では、“主として妻”と回答した割合が5割となっており、“夫婦同程度”と回答した割合は、3割程度となっている。



<問4-⑦ 育児・教育>

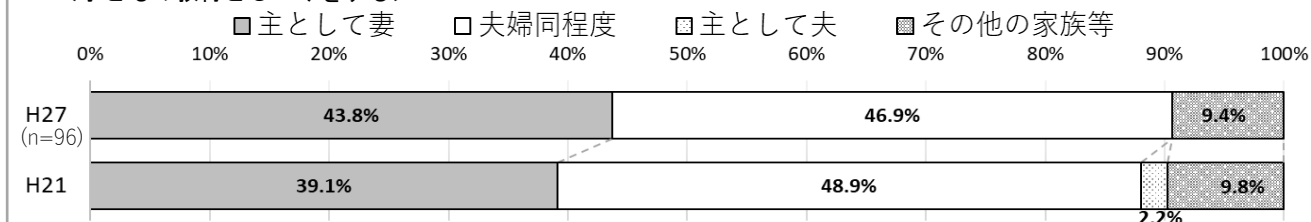
【全体】

“主として妻”と回答した割合が45.5%と最も高く、次いで“夫婦同程度”が31.4%と続いている。

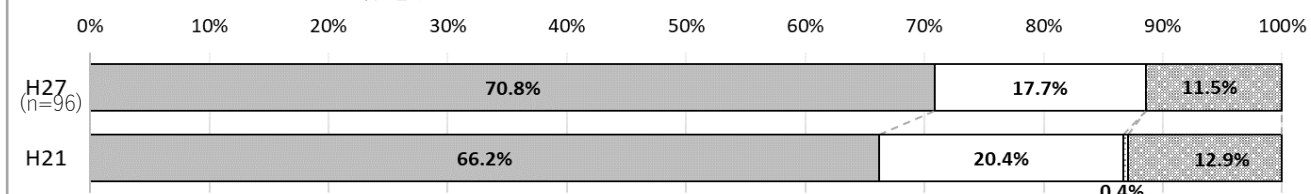


【参考 H27、H21 調査】

<子どもの教育としつけをする>



<子ども（乳児・幼児）の世話をする>

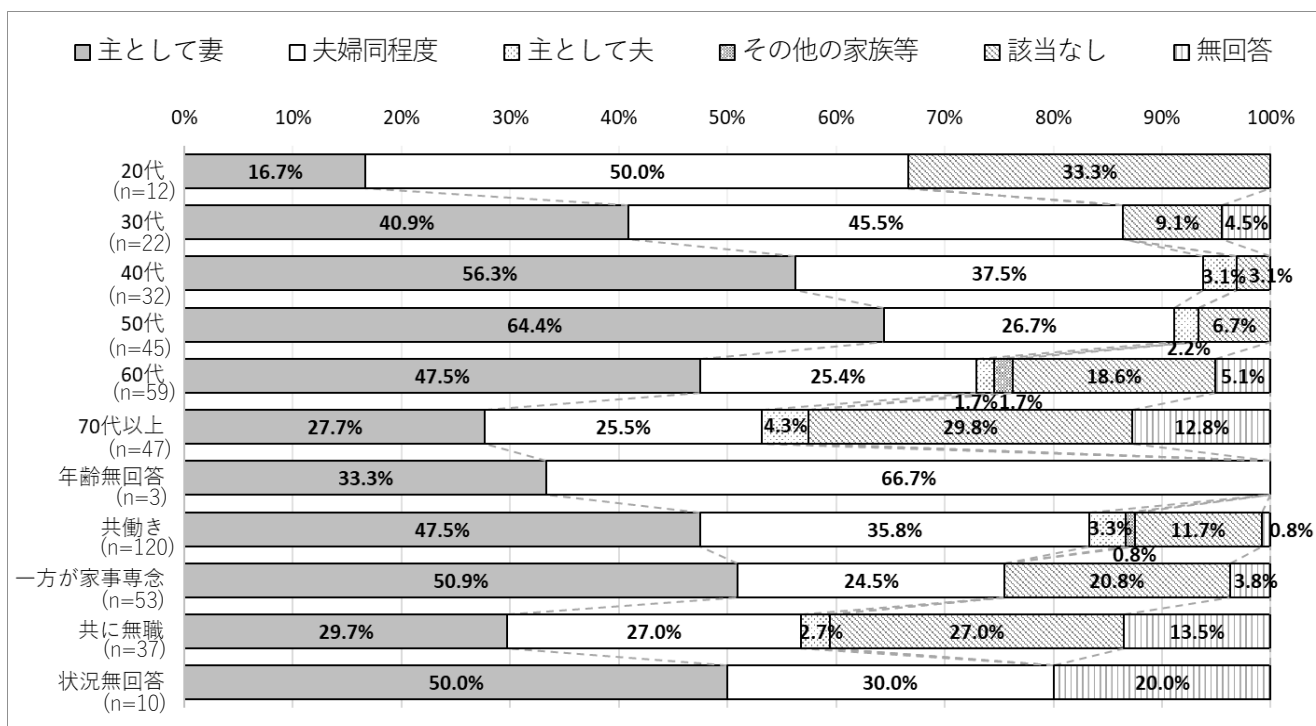


【年代別】

若い年代ほど“夫婦同程度”と回答した割合が高く、20代では5割を占めている。

【共働きの状況】

共働き世帯では、“夫婦同程度”と回答した割合が3割を超えている。



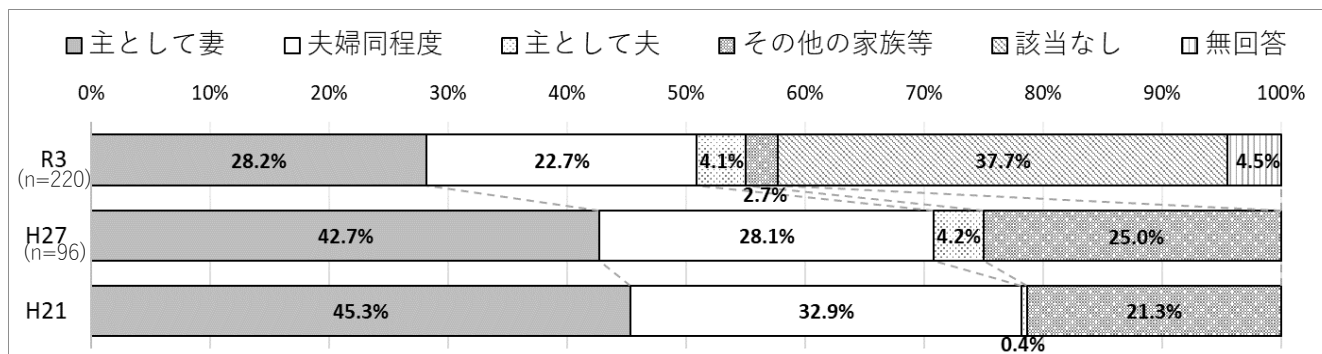
<問4－⑧ 高齢者の世話・介護>

【全体】

“該当なし”を除くと、“主として妻”と回答した割合が28.2%と最も高く、次いで“夫婦同程度”が22.7%と続いている。

【過去数値との比較】

“主として妻”と回答した割合が減少しているように見えるが、“該当なし”を除くとほとんど変化は見られない。“その他の家族等”と回答した割合は減少している。(R3：2.7%、H27：25.0%、H21：21.3%)



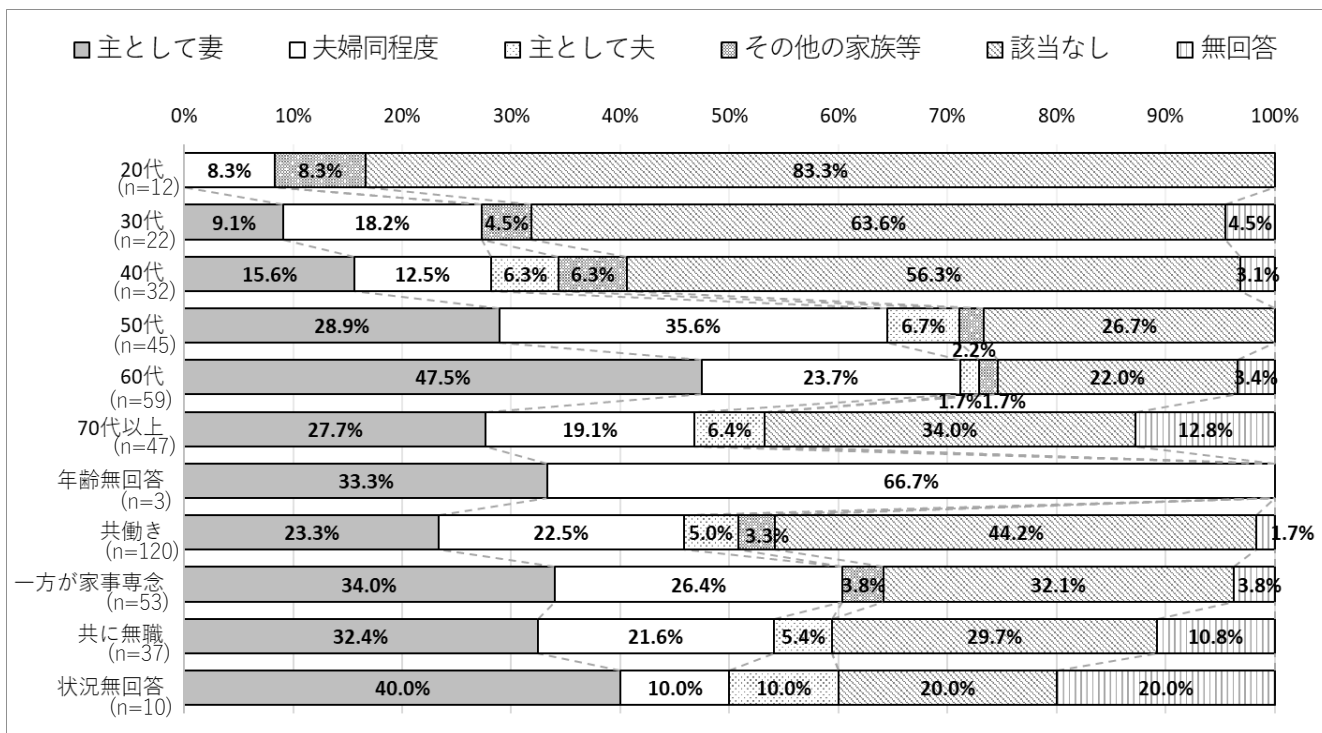
※平成27年、21年調査の項目は「高齢者の世話をする」
※選択肢の“該当なし”は令和3年度より追加

【年代別】

“主として妻”と回答した割合は60代が最も高い。

【共働きの状況】

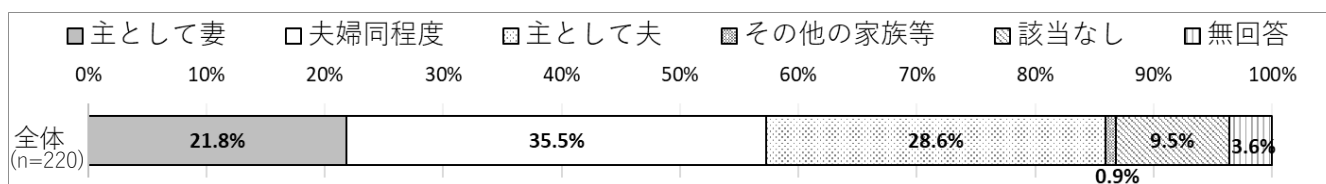
共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“夫婦同程度”と回答した割合は2割程度となっている。



<問4-⑨ 地域活動（PTAや町内会等）> ※令和3年度新設

【全体】

“夫婦同程度”と回答した割合が35.5%と最も高く、次いで“主として夫”が28.6%、“主として妻”が21.8%と続いている。

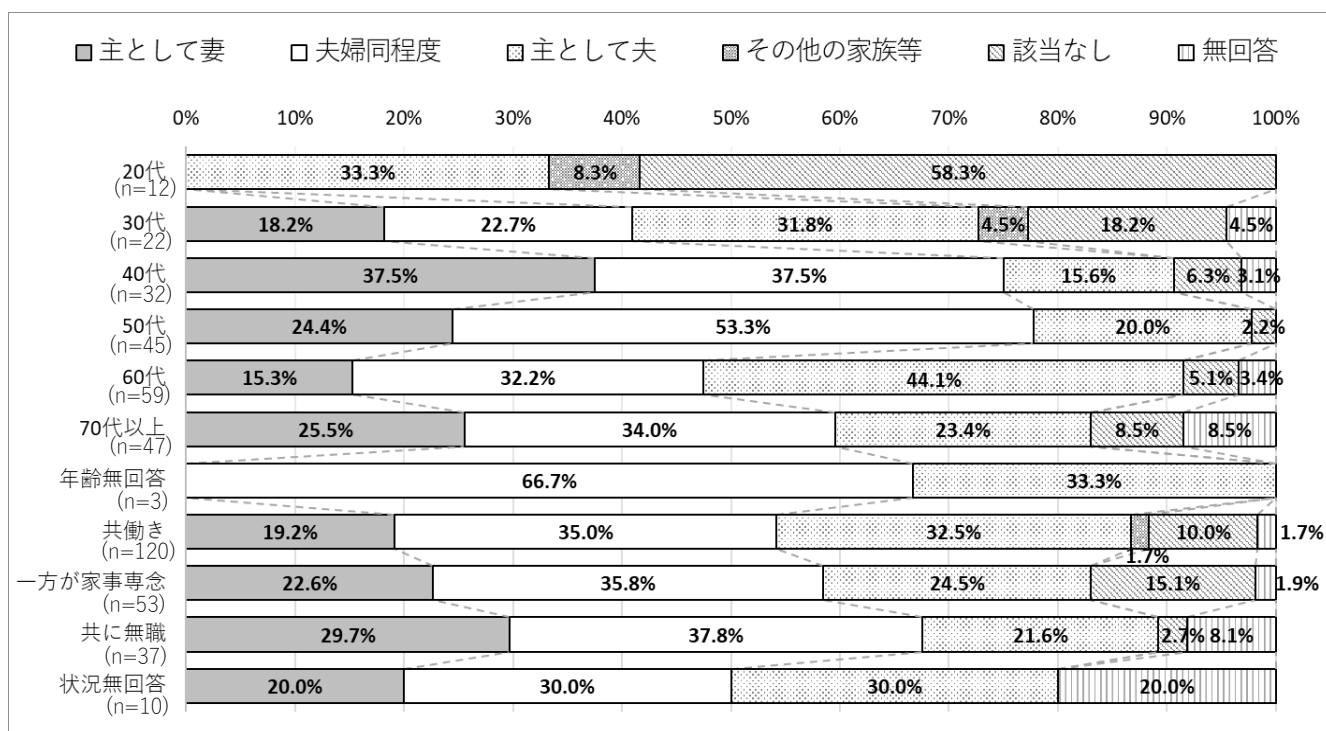


【年代別】

50代では、“夫婦同程度”と回答した割合が5割を超えている。

【共働きの状況】

一方が家事専念、共に無職の世帯と比べ、共働き世帯では“主として夫”と回答した割合が高い。



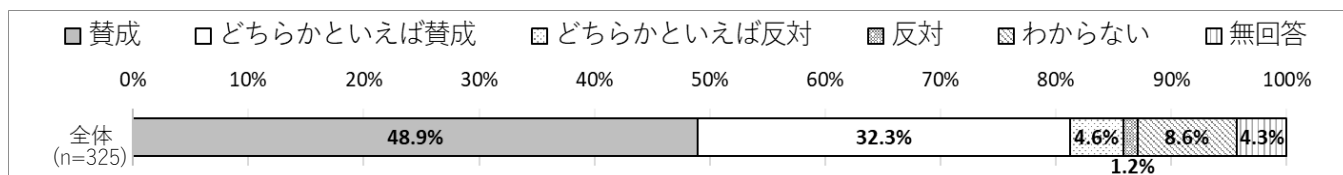
（４）男性の家事・育児の参加について

問５．男性が育児休業を取得することについて、どう思いますか。

次の１～５の中から１つだけ選んで○をしてください。（※令和３年度新設）

【全体】

“賛成”と回答した割合が48.9%と最も高く、次いで“どちらかといえば賛成”が32.3%と、“賛成”又は“どちらかといえば賛成”と回答した割合が8割を超えている。

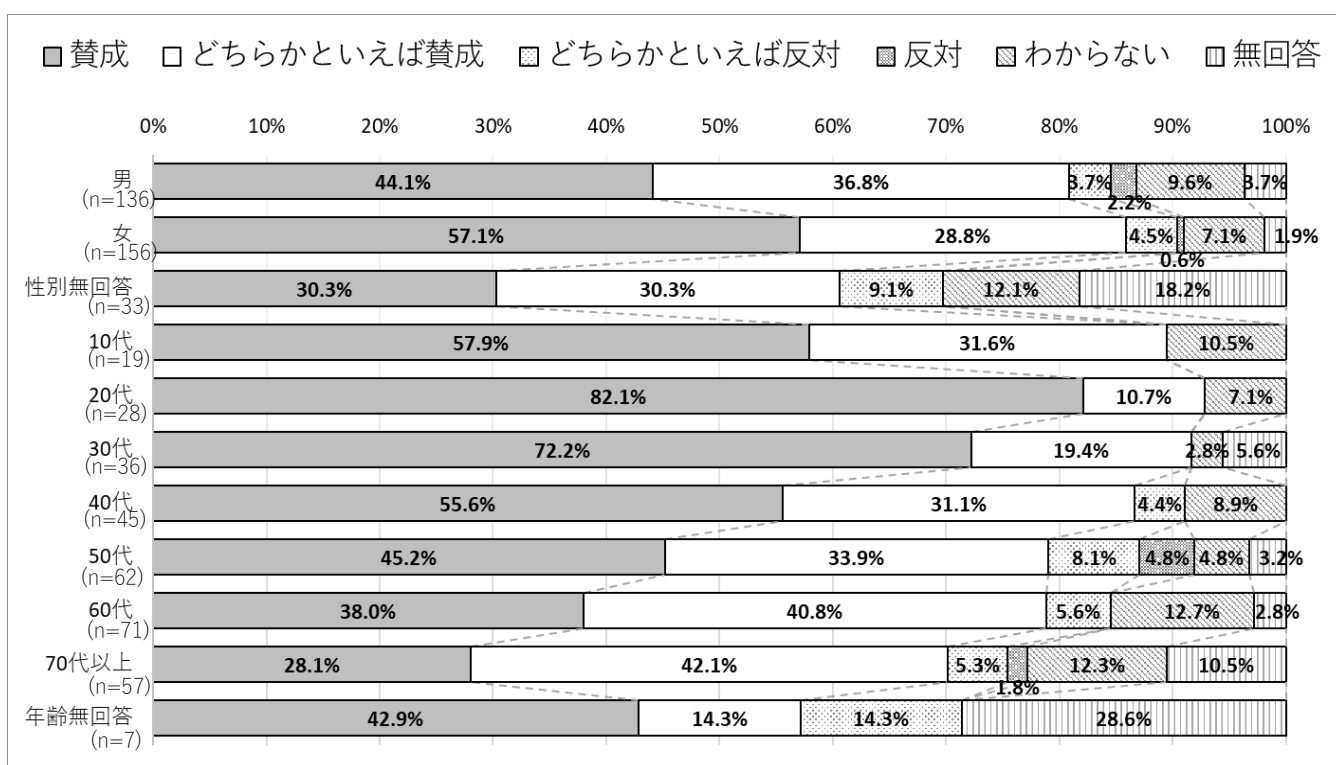


【男女別】

“賛成”又は“どちらかといえば賛成”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“賛成”又は“どちらかといえば賛成”と回答した割合は、40代以下では8割を超えている。



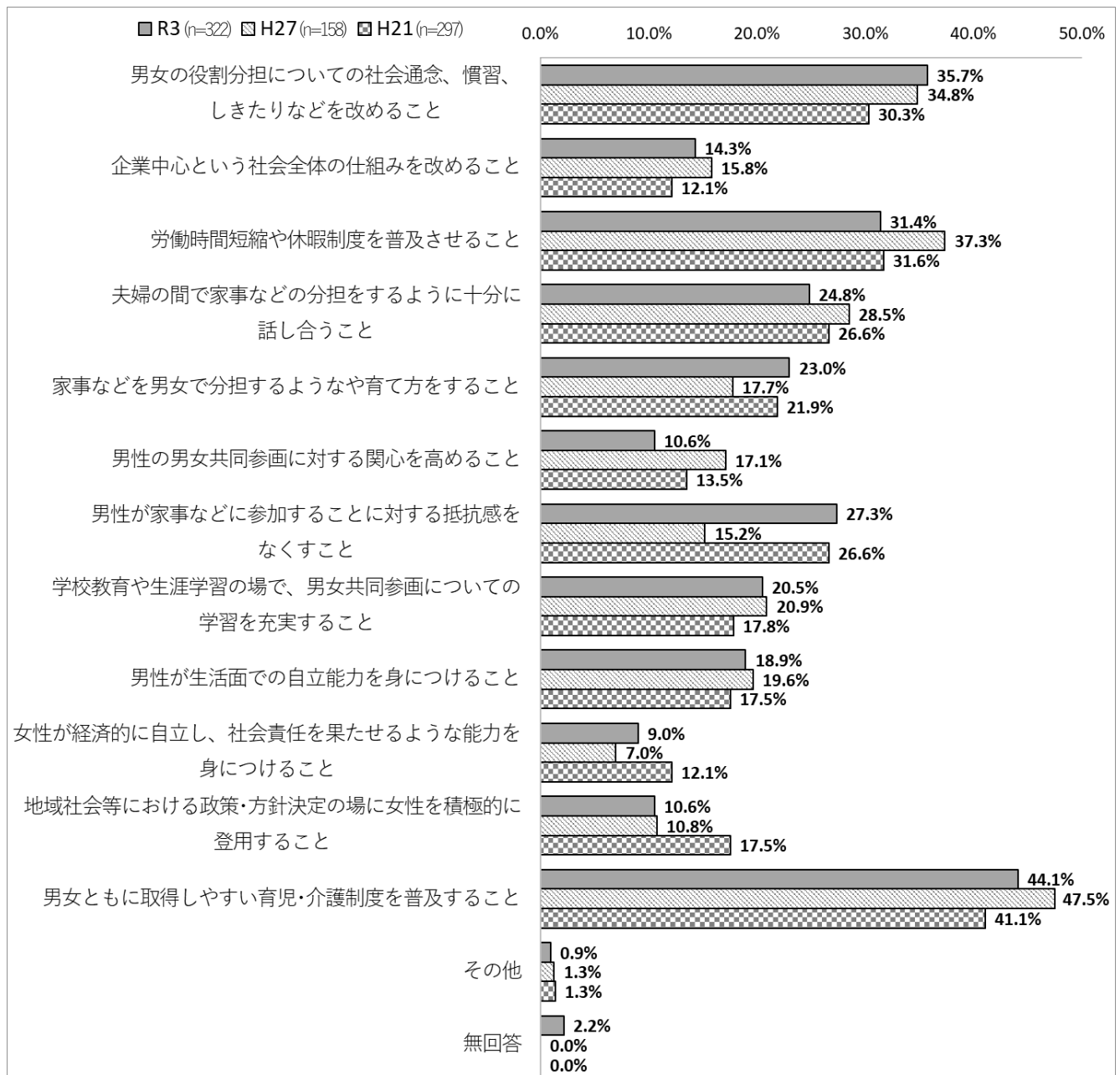
問6. 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～13の中から3つ以内で選んで○をしてください。

【全体】

“男女ともに取得しやすい育児・介護制度を普及すること”と回答した割合が、44.1%と最も多く、次いで“男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりなどを改めること”が35.7%、“労働時間短縮や休暇制度を普及させること”が31.4%と続いている。

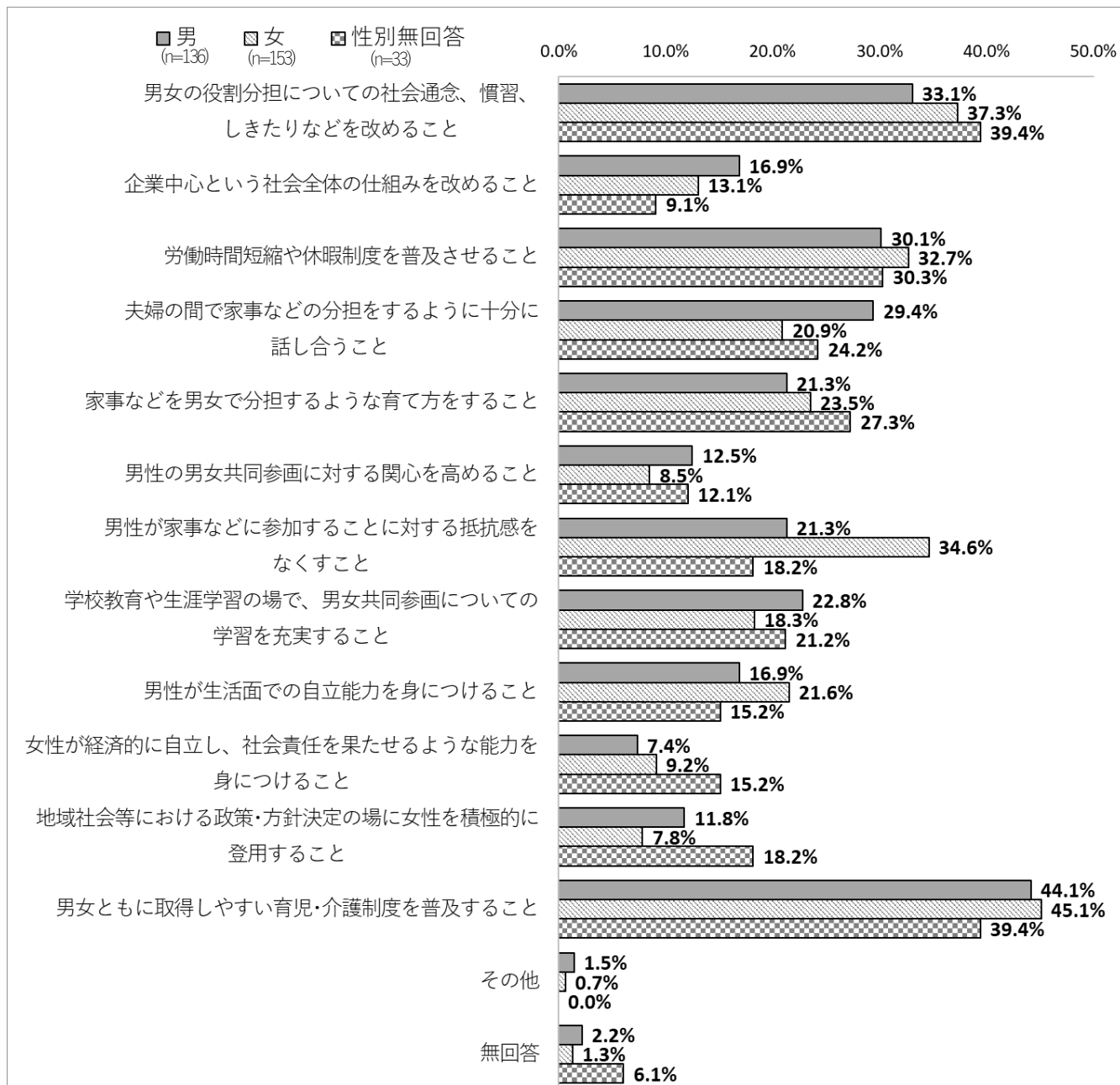
【過去数値との比較】

“男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりなどを改めること”と回答した割合が増加している。（R3：35.7%、H27：34.8%、H23：30.3%）



【男女別】

男女ともに、“男女ともに取得しやすい育児・介護制度を普及すること”と回答した割合が、最も高い。



【年代別】

“男女ともに取得しやすい育児・介護制度を普及すること”と回答した割合は、30代が最も高く、次いで20代となっている。

“男女の役割分担についての社会通念、慣習しきたりなどを改めること”と回答した割合は、50代が最も高くなっている。

	男女の役割分担についての社会通念、慣習しきたりなどを改めること	企業中心という社会全体の仕組みを改めること	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	家事などを男女で分担するような育て方をすること	男性の男女共同参画に対する関心を高めること	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすること
10代 (n=19)	15.8%	15.8%	36.8%	36.8%	26.3%	0.0%	63.2%
20代 (n=28)	32.1%	17.9%	50.0%	39.3%	10.7%	3.6%	14.3%
30代 (n=34)	23.5%	11.8%	44.1%	23.5%	14.7%	14.7%	23.5%
40代 (n=44)	31.8%	22.7%	40.9%	18.2%	20.5%	13.6%	20.5%
50代 (n=62)	50.0%	24.2%	22.6%	16.1%	32.3%	3.2%	29.0%
60代 (n=71)	38.0%	4.2%	25.4%	26.8%	23.9%	9.9%	33.8%
70代以上 (n=57)	35.1%	10.5%	24.6%	28.1%	22.8%	21.1%	21.1%
年齢無回答 (n=7)	42.9%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%

	学校教育や生涯学習の場で、男女共同参画についての学習を充実すること	男性が生活面での自立能力を身につけること	女性が経済的に自立し、社会責任を果たせるような能力を身につけること	地域社会等における政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること	男女ともに取得しやすい育児・介護制度を普及すること	その他	無回答
10代 (n=19)	5.3%	31.6%	5.3%	5.3%	31.6%	0.0%	0.0%
20代 (n=28)	21.4%	25.0%	0.0%	7.1%	50.0%	3.6%	0.0%
30代 (n=34)	17.6%	11.8%	14.7%	0.0%	67.6%	0.0%	2.9%
40代 (n=44)	22.7%	20.5%	9.1%	6.8%	45.5%	0.0%	2.3%
50代 (n=62)	16.1%	14.5%	4.8%	8.1%	48.4%	3.2%	0.0%
60代 (n=71)	25.4%	22.5%	12.7%	16.9%	39.4%	0.0%	1.4%
70代以上 (n=71)	24.6%	17.5%	8.8%	17.5%	33.3%	0.0%	3.5%
年齢無回答 (n=7)	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	28.6%

（５）子育てについて（お子さんのいらっしゃる方は考えをお聞かせください）

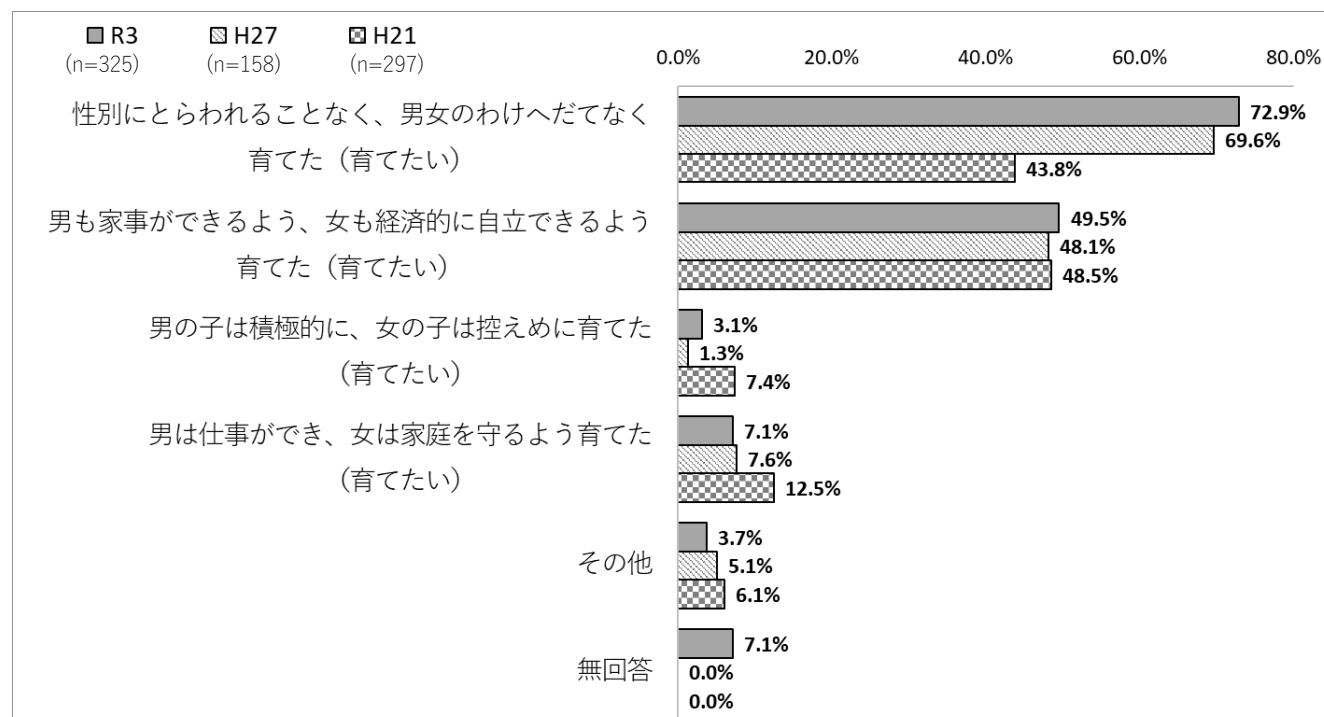
問７．お子さんをどのような教育方針で育てられましたか。また、どのように育てたいと思いますか。
次の１～５の中から２つ以内で選んで○をしてください。

【全体】

“性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた（育てたい）”と回答した割合が72.9%と最も高く、次いで“男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるよう育てた（育てたい）”が49.5%、“男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた（育てたい）”が7.1%と続いている。

【過去数値との比較】

“性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた（育てたい）”と回答した割合が増加している。（R3：72.9%、H27：69.6%、H21：43.8%）

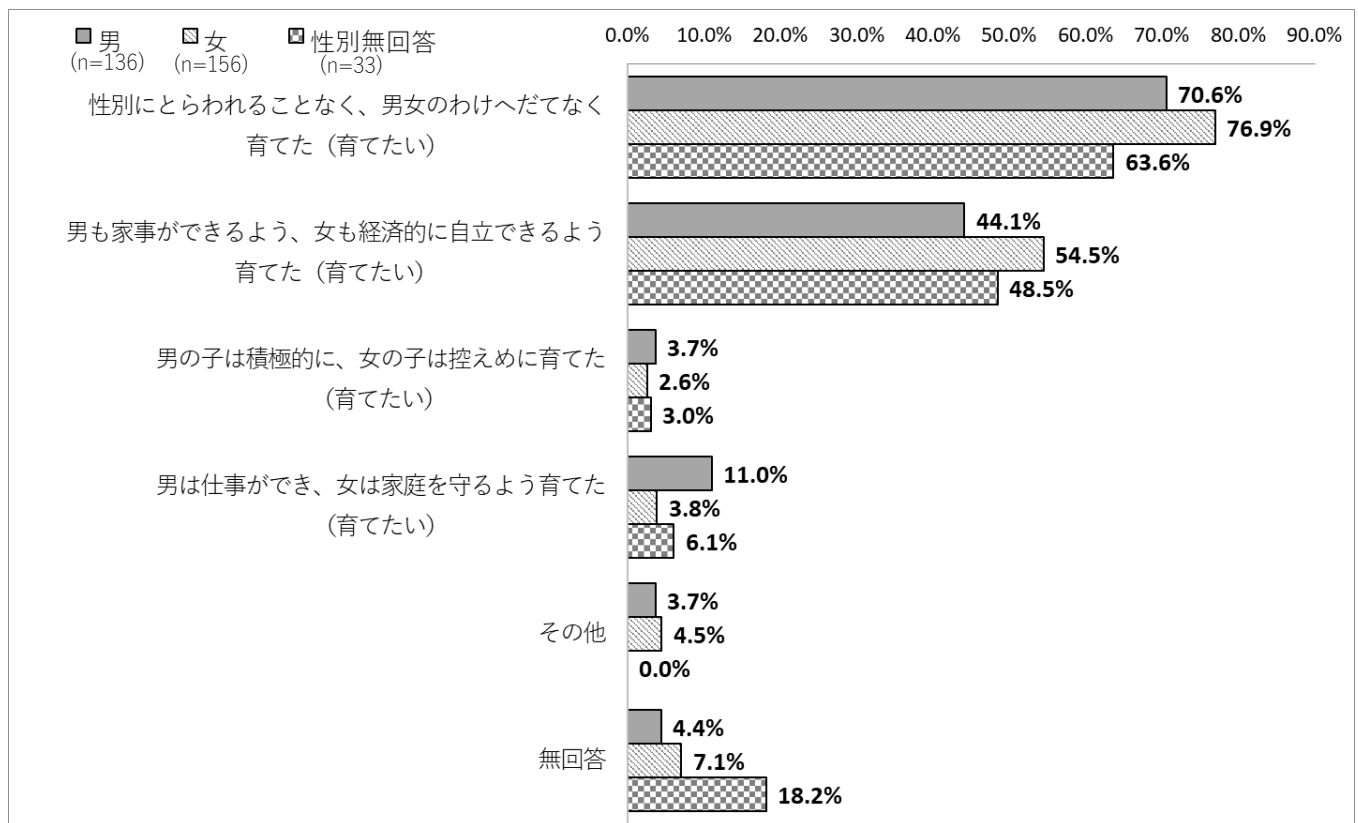


【男女別】

“性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた（育てたい）”と“男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるよう育てた（育てたい）”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

全ての年代で“性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた（育てたい）”と回答した割合が最も高く、10代と30代は8割以上を占めている。



	性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた (育てたい)	男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるように育てた (育てたい)	男の子は積極的に、女の子は控えめに育てた (育てたい)	男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた (育てたい)	その他	無回答
10代 (n=19)	84.2%	42.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%
20代 (n=28)	67.9%	53.6%	0.0%	10.7%	3.6%	7.1%
30代 (n=36)	86.1%	41.7%	5.6%	0.0%	5.6%	5.6%
40代 (n=45)	73.3%	53.3%	0.0%	2.2%	2.2%	6.7%
50代 (n=62)	72.6%	59.7%	3.2%	1.6%	6.5%	1.6%
60代 (n=71)	74.6%	45.1%	4.2%	11.3%	2.8%	5.6%
70代以上 (n=57)	64.9%	47.4%	5.3%	15.8%	1.8%	14.0%
年齢無回答 (n=7)	42.9%	42.9%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%

（６）介護について

問 8. 家庭における高齢者等の介護を主として女性が担うことについてどう思いますか。

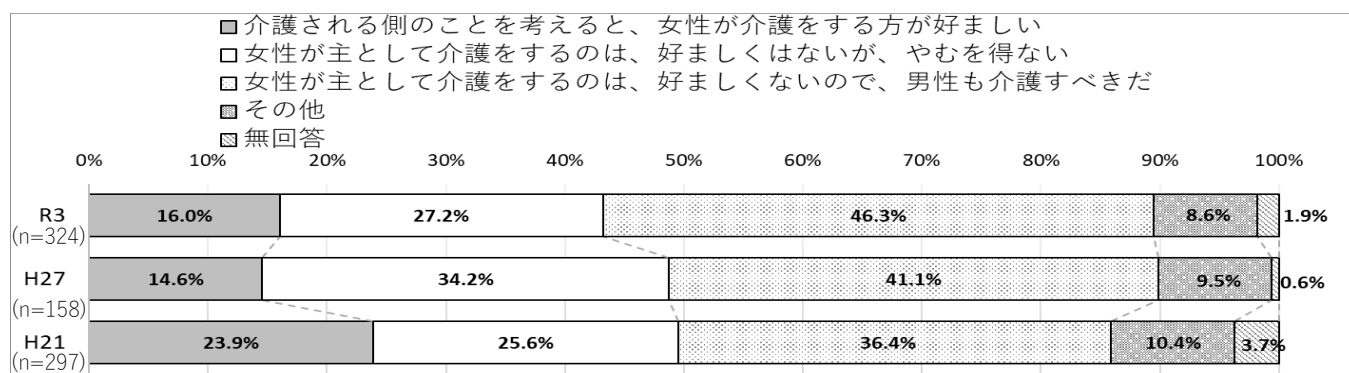
次の１～４の中からあなたの考えに最も近いものを１つだけ選んで○をしてください。

【全体】

“女性が主として介護をするのは、好ましくないので、男性も介護すべきだ”と回答した割合が、46.3%と最も高く、次いで“女性が主として介護をするのは、好ましくはないが、やむを得ない”が27.2%、“介護される側のことを考えると、女性が介護をする方が好ましい”が16.0%と続いている。

【過去数値との比較】

“女性が主として介護をするのは、好ましくないので、男性も介護すべきだ”と回答した割合が増加している。（R3：46.3%、H27：41.1%、H21：36.4%）

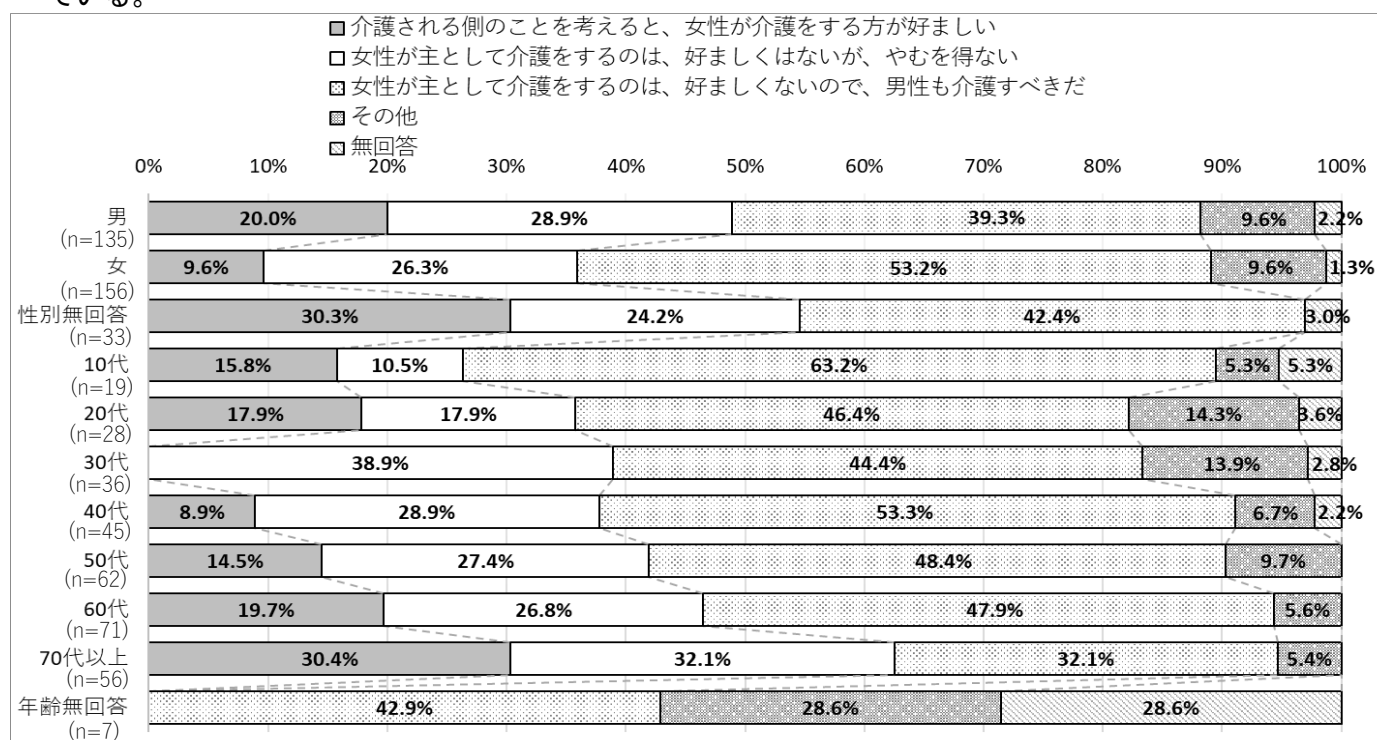


【男女別】

介護される側のことを考えると、女性が介護をする方が好ましい”と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“女性が主として介護をするのは、好ましくないので、男性も介護すべきだ”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“介護される側のことを考えると、女性が介護をする方が好ましい”又は“女性が主として介護をするのは、好ましくはないが、やむを得ない”と回答した割合は、40代以下の年代では、4割以下となっている。



問9. あなたが、もし、援助や介護が必要になったら、どうしたいと思いますか。

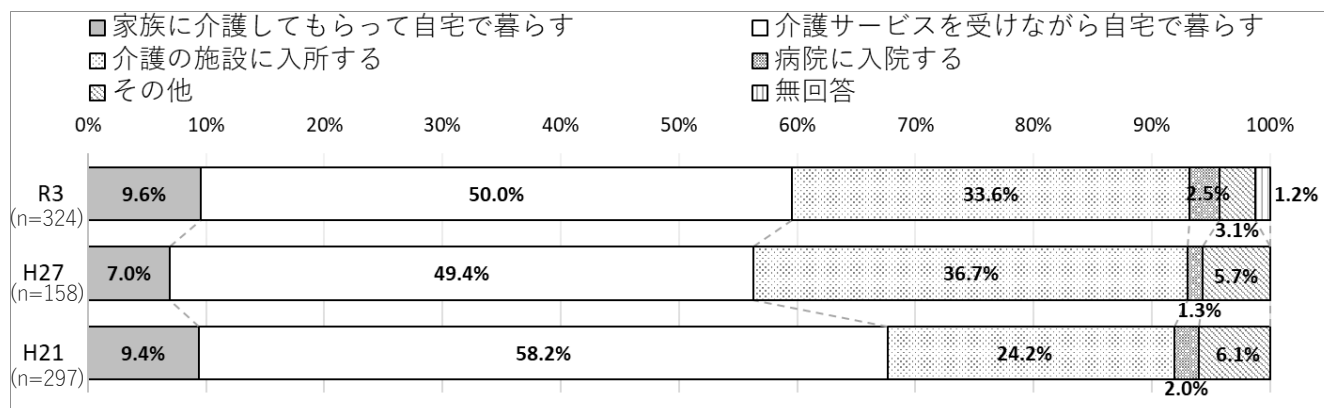
次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。

【全体】

“介護サービスを受けながら自宅で暮らす”と回答した割合が50.0%と最も高く、次いで“介護の施設に入所する”が33.6%、“家族に介護してもらって自宅で暮らす”が9.6%と続いている。

【過去数値との比較】

いずれも“介護サービスを受けながら自宅で暮らす”と回答した割合が最も高い。

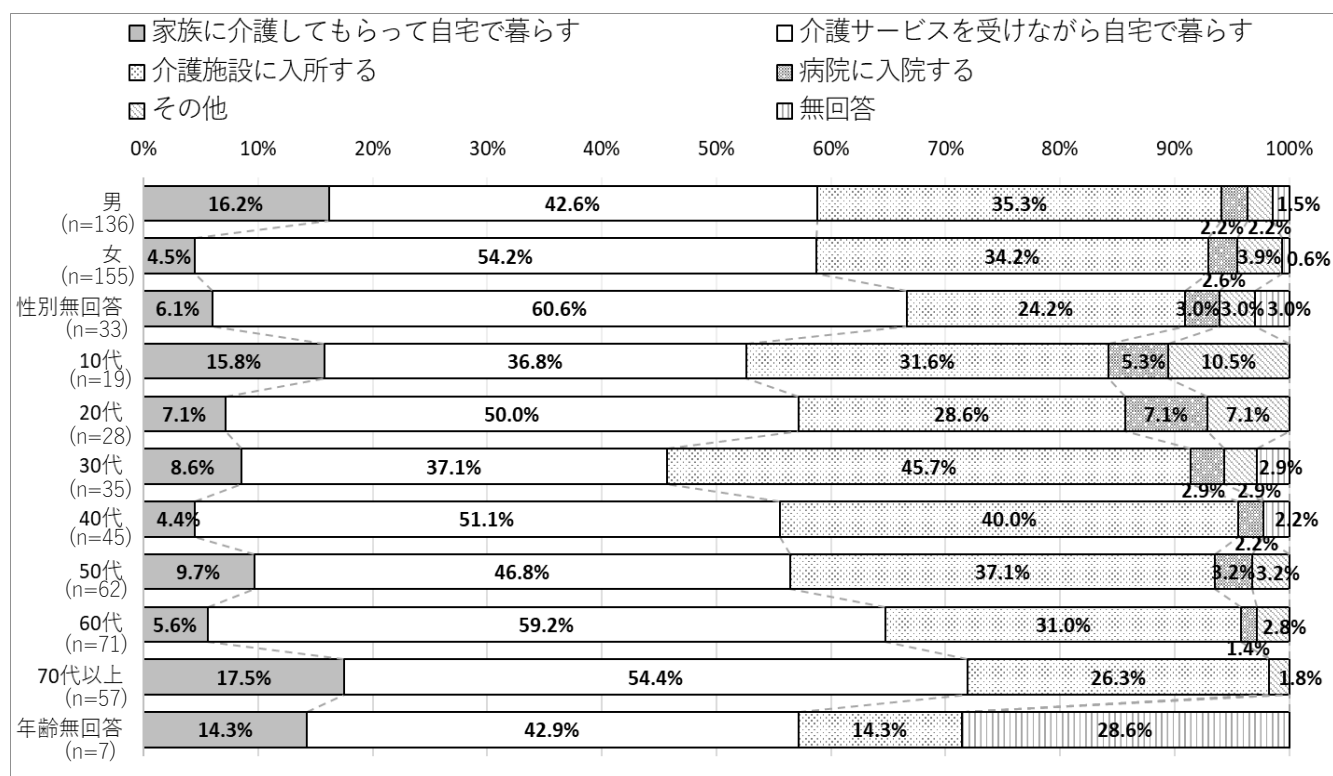


【男女別】

“家族に介護してもらって自宅で暮らす”と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“介護サービスを受けながら自宅で暮らす”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“介護の施設に入所する”と回答した割合は、30代が最も高い。



※問 9 で 1 「家族に介護してもらって自宅で暮らす」と答えた方にお聞きします

問 10. あなたは、家族、親族のどなたに介護してもらいたいですか。

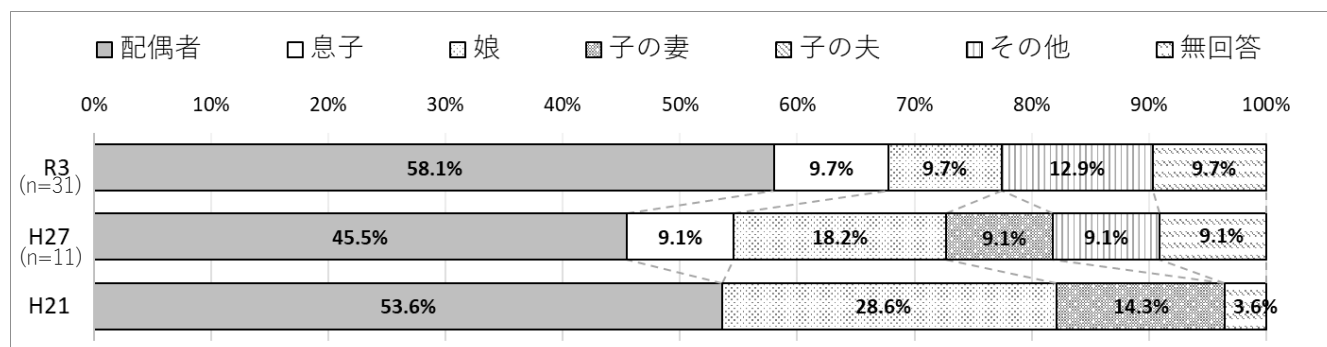
次の 1 ～ 5 の中から 1 つだけ 選んで○をしてください。

【全体】

“配偶者” と回答した割合が 58.1% と最も高く、次いで “その他” が 12.9%、 “息子” と “娘” が 9.7% と続いている。 “子の妻” と “子の夫” は 0 だった。

【過去数値との比較】

“配偶者” と回答した割合が、平成 27 年に比べて増加している。（R3 : 58.1%、H27 : 45.5%、H21 : 53.6%）

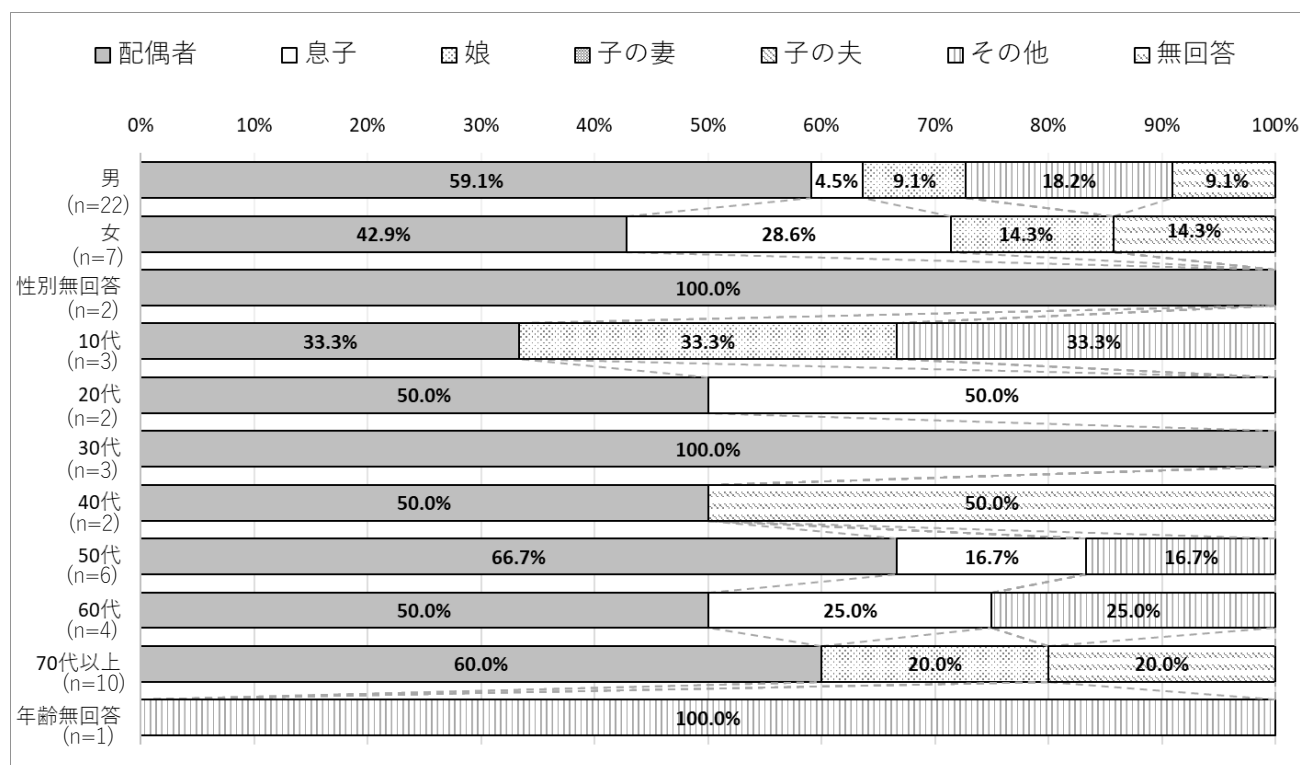


【男女別】

“配偶者” と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“息子” と回答した割合は男性より女性の方が高い。

【年代別】

“配偶者” と回答した割合が、30 代では 100% となっている。



(7) 就労について

問 11. 女性の就労について、どれが望ましいと思いますか。

次の 1～6 の中からあなたの考えに最も近いものを 1 つだけ 選んで○をしてください。

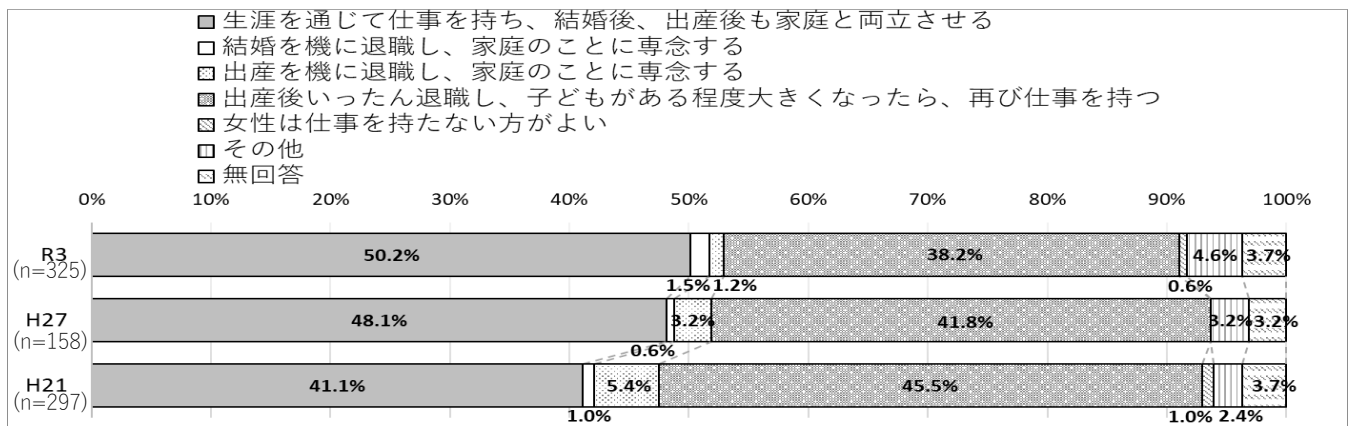
【全体】

“生涯を通じて仕事を持ち、結婚後、出産後も家庭と両立させる”と回答した割合が、50.2%と最も高く、次いで“ 出産後いったん退職し、子どもがある程度大きくなったら、再び仕事を持つ”が 38.2%、“その他”が 4.6%と続いている。

【過去数値との比較】

“生涯を通じて仕事を持ち、結婚後、出産後も家庭と両立させる”と回答した割合が増加している。

(R3 : 50.2%、H27 : 48.1%、H21 : 41.1%)

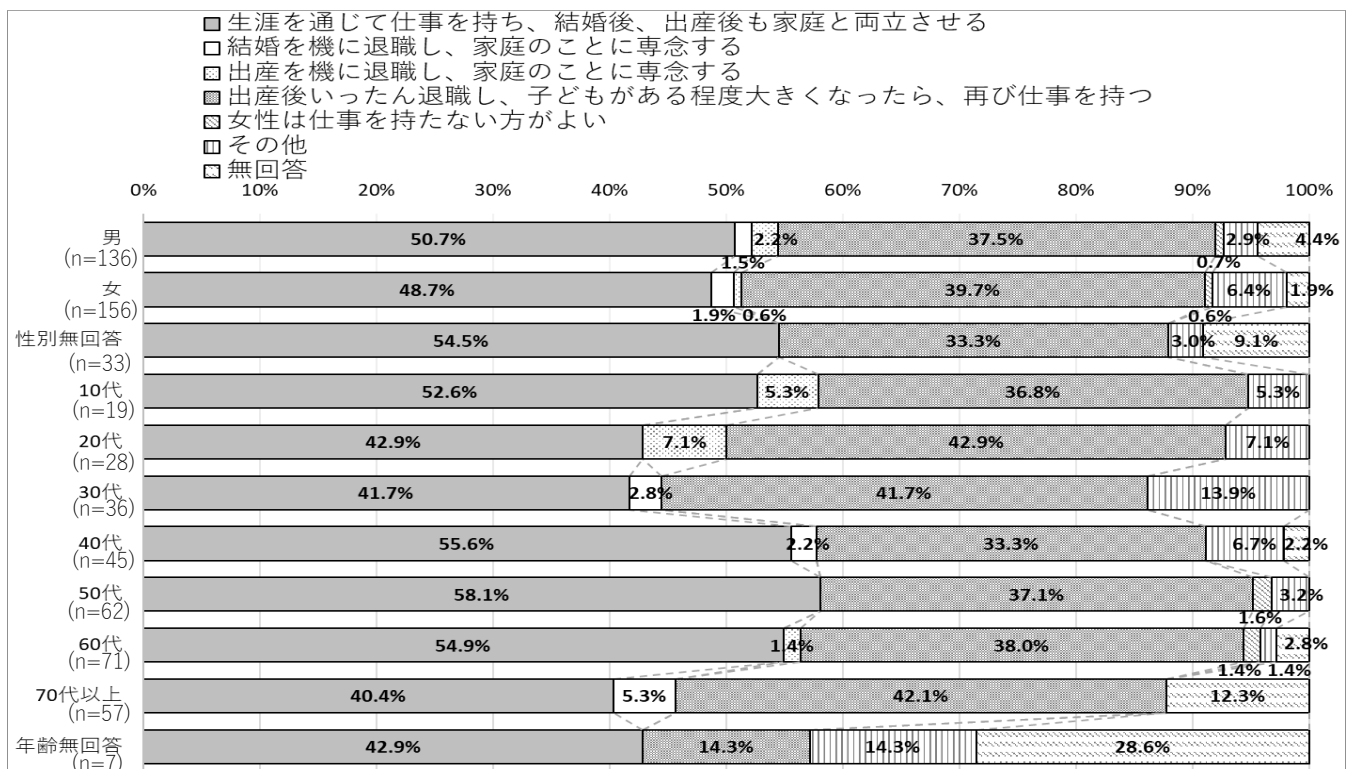


【男女別】

“生涯を通じて仕事を持ち、結婚後、出産後も家庭と両立させる”と回答した割合は、女性より男性の方が多い。

【年代別】

“生涯を通じて仕事を持ち、結婚後、出産後も家庭と両立させる”と回答した割合は、10代と、40代から60代では、5割を超えている。



問 12. 職場での女性の地位向上のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

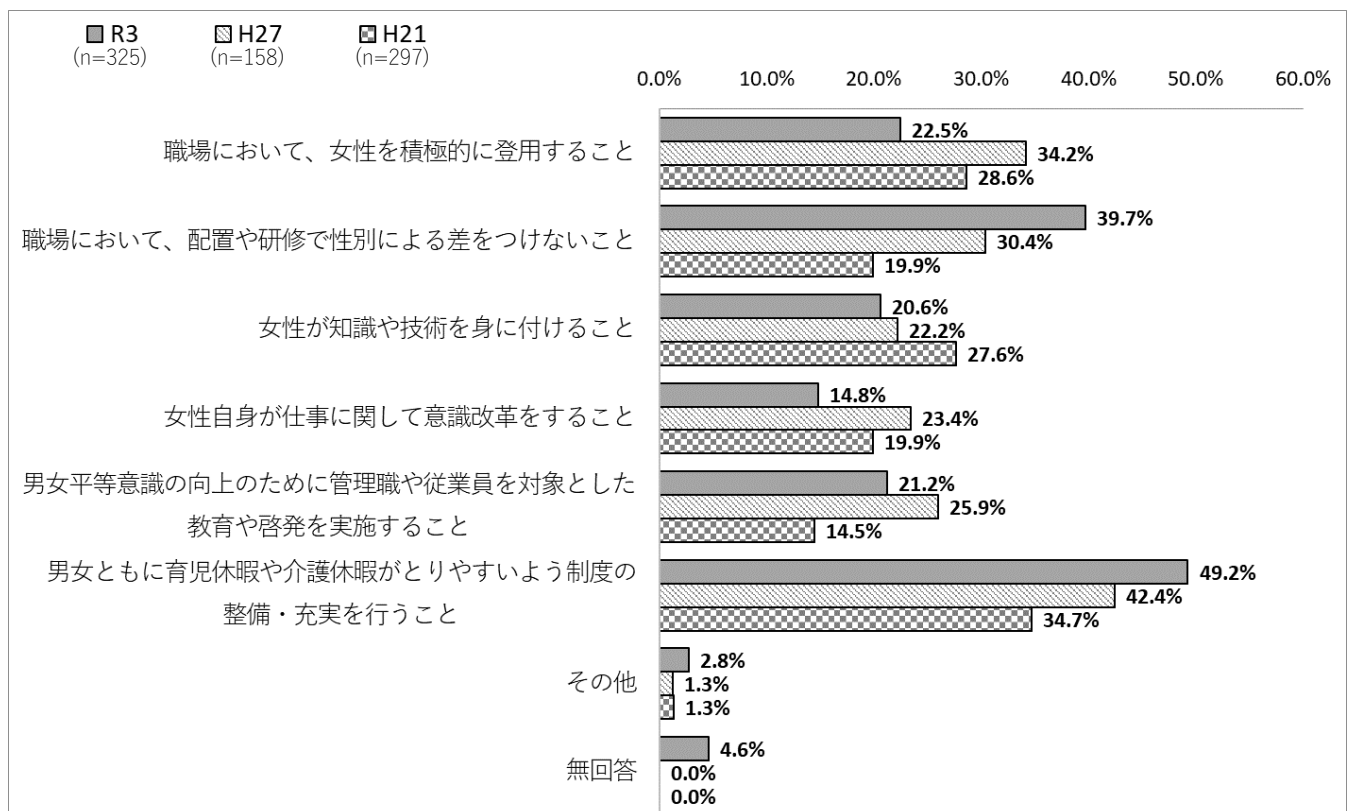
次の 1～7 の中からあなたの考えに近いものを 2 つ以内 で選んで○をしてください。

【全体】

“男女ともに育児休暇や介護休暇がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと”と回答した割合が、49.2%と最も高く、次いで“職場において、配置や研修で性別による差をつけないこと”が 39.7%、“職場において、女性を積極的に登用すること”が 22.5%と続いている。

【過去数値との比較】

“男女ともに育児休暇や介護休暇がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと”と回答した割合が増加している。（R3：49.2%、H27：42.4%、H21：34.7%）

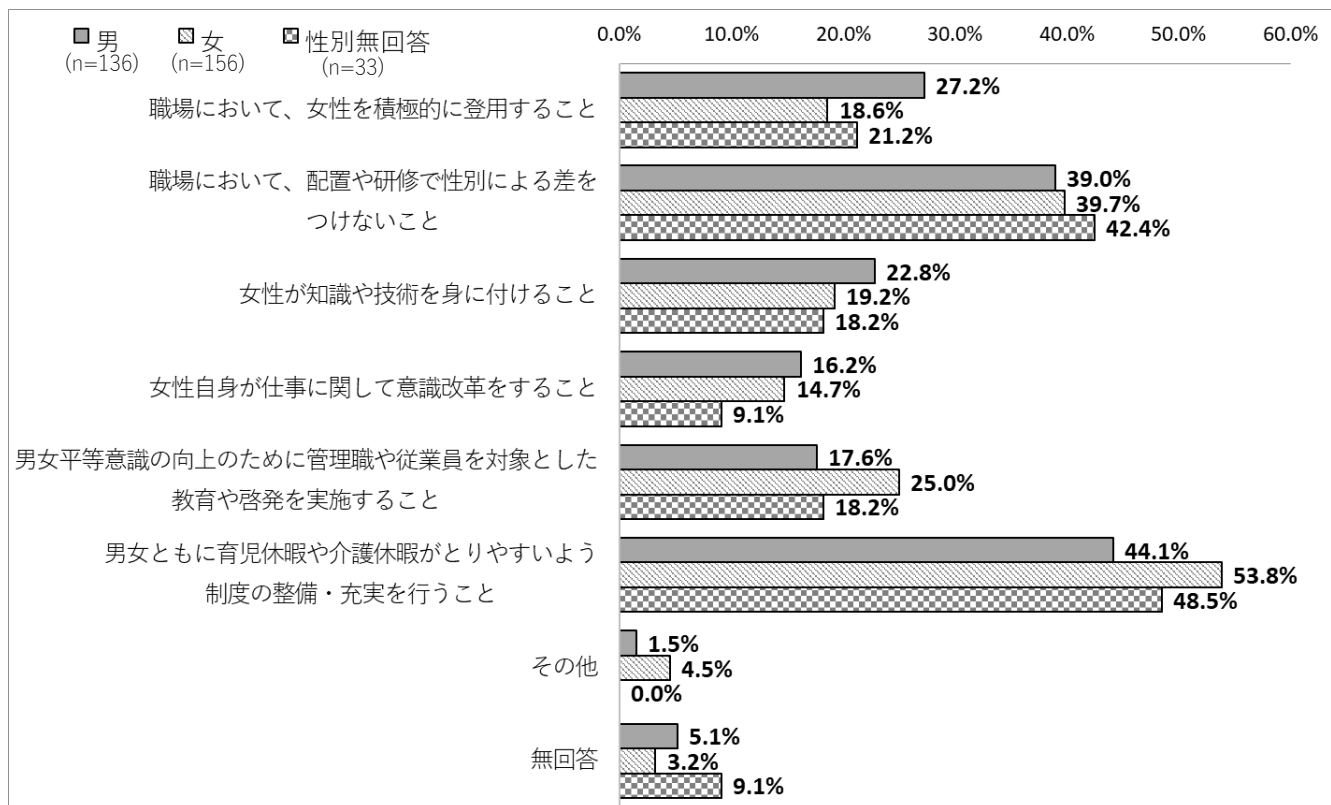


【男女別】

“職場において、女性を積極的に登用すること”と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“男女ともに育児休暇や介護休暇がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“男女ともに育児休暇や介護休暇がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと”と回答した割合は、30代以下では5割を超えており、30代が最も高い。



	職場において、女性を積極的に登用すること	職場において、配置や研修で性別による差をつけないこと	女性が知識や技術を身に付けること	女性自身が仕事に関して意識改革をすること	男女平等意識の向上のために管理職や従業員を対象とした教育や啓発を実施すること	男女ともに育児休暇や介護休暇がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと	その他	無回答
10代 (n=19)	21.1%	73.7%	15.8%	0.0%	21.1%	52.6%	0.0%	0.0%
20代 (n=28)	21.4%	46.4%	10.7%	14.3%	17.9%	67.9%	0.0%	0.0%
30代 (n=36)	22.2%	25.0%	16.7%	2.8%	33.3%	75.0%	2.8%	0.0%
40代 (n=45)	24.4%	33.3%	22.2%	17.8%	28.9%	44.4%	4.4%	2.2%
50代 (n=62)	29.0%	41.9%	22.6%	14.5%	19.4%	38.7%	6.5%	1.6%
60代 (n=71)	21.1%	42.3%	22.5%	21.1%	15.5%	47.9%	0.0%	5.6%
70代以上 (n=57)	17.5%	35.1%	22.8%	17.5%	21.1%	40.4%	1.8%	12.3%
年齢無回答 (n=7)	14.3%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%	28.6%

問 13. 女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いますか。

次の 1～11の中からあなたの考えに近いものを2つ以内で選んで○をしてください。

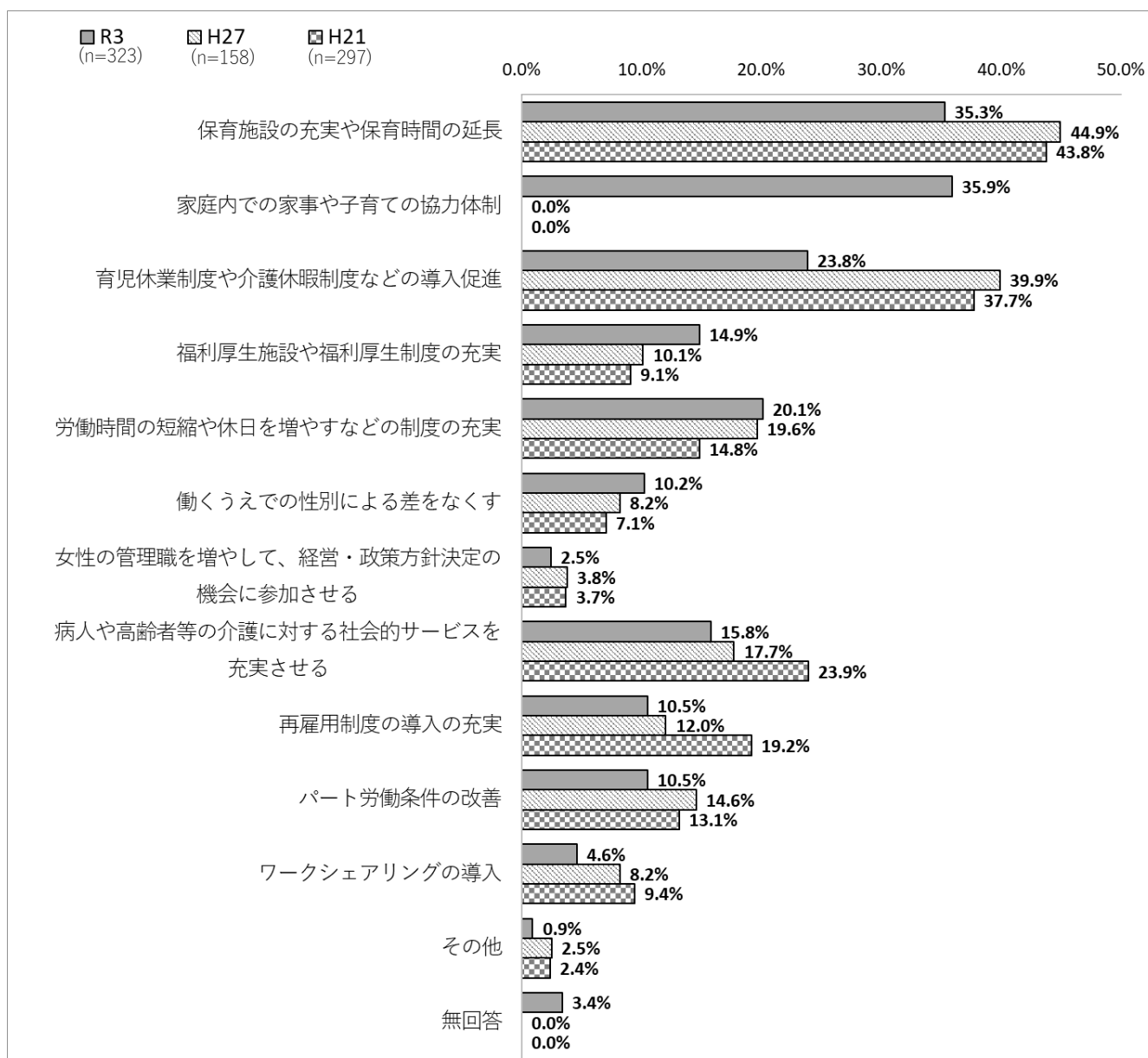
【全体】

“家庭内での家事や子育ての協力体制”と回答した割合が、35.9%と最も高く、次いで“保育施設の充実や保育時間の延長”が 35.3%、“育児休業制度や介護休暇制度などの導入促進”が 23.8%と続いている。

【過去数値との比較】

“労働時間の短縮や休日を増やすなどの制度の充実”と回答した割合が増加している。

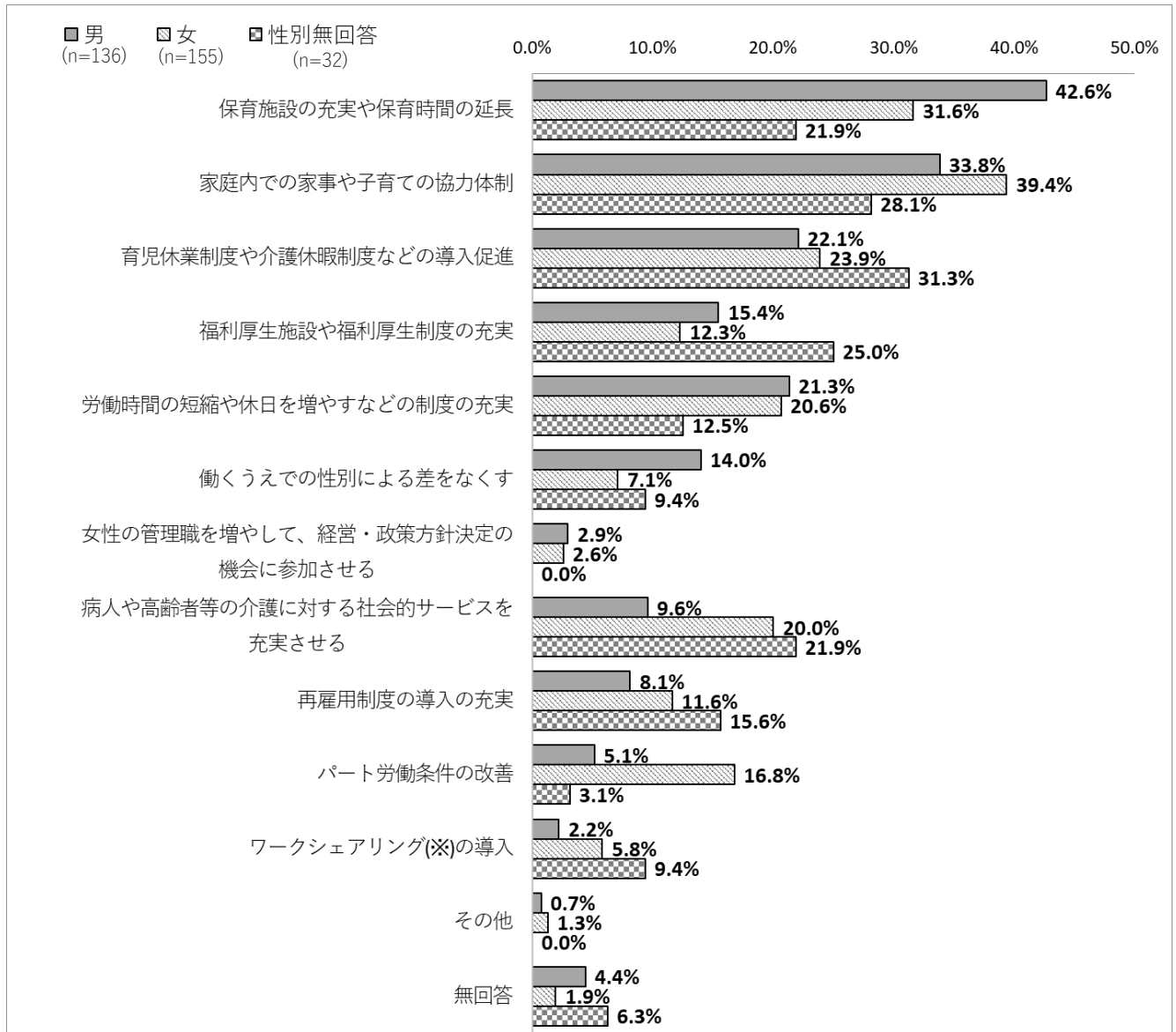
(R3 : 20.1%、H27 : 19.6%、H21 : 14.8%)



※選択肢“家庭内での家事や子育ての協力体制”は令和3年度より追加

【男女別】

男性は、“保育施設の充実や保育時間の延長”と回答した割合が最も高く、女性は“家庭内での家事や子育ての協力体制”と回答した割合が最も高い。



【年代別】

10代と、40代から60代では、“家庭内での家事や子育ての協力体制”と回答した割合が、約4割を超えている。

	保育施設の充実や保育時間の延長	家庭内での家事や子育ての協力体制	育児休業制度や介護休暇制度などの導入促進	福利厚生施設や福利厚生制度の充実	労働時間の短縮や休日を増やすなどの制度の充実	働くうえでの性別による差をなくす	女性の管理職を増やして、経営・政策方針決定の機会に参加させる
10代(n=19)	47.4%	42.1%	10.5%	10.5%	26.3%	21.1%	0.0%
20代(n=28)	42.9%	28.6%	35.7%	10.7%	32.1%	0.0%	7.1%
30代(n=36)	25.0%	33.3%	25.0%	22.2%	36.1%	11.1%	8.3%
40代(n=44)	45.5%	40.9%	18.2%	11.4%	20.5%	4.5%	0.0%
50代(n=62)	38.7%	40.3%	21.0%	17.7%	16.1%	16.1%	3.2%
60代(n=71)	32.4%	42.3%	28.2%	9.9%	16.9%	8.5%	0.0%
70代以上(n=56)	26.8%	23.2%	26.8%	16.1%	10.7%	12.5%	1.8%
年齢無回答(n=7)	28.6%	28.6%	0.0%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%

	病人や高齢者等の介護に対する社会的サービスを充実させる	再雇用制度の導入の充実	パート労働条件の改善	ワークシェアリングの導入	その他	無回答
10代(n=19)	0.0%	10.5%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%
20代(n=28)	10.7%	14.3%	10.7%	3.6%	3.6%	0.0%
30代(n=36)	8.3%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%
40代(n=44)	13.6%	9.1%	11.4%	13.6%	0.0%	2.3%
50代(n=62)	11.3%	11.3%	9.7%	3.2%	1.6%	0.0%
60代(n=71)	26.8%	8.5%	12.7%	1.4%	0.0%	4.2%
70代以上(n=56)	21.4%	16.1%	10.7%	3.6%	0.0%	10.7%
年齢無回答(n=7)	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%

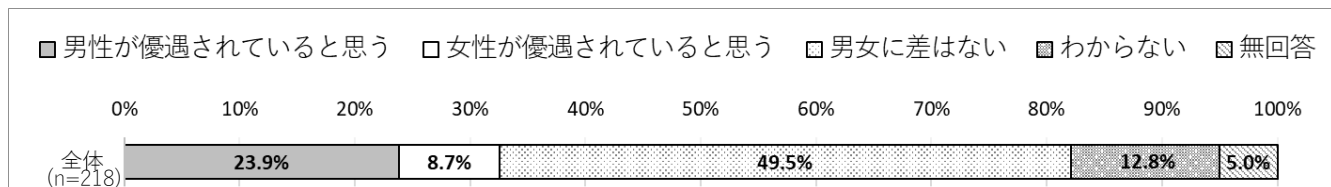
問 14. 現在働いている方におたずねします。

あなたの現在の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差があると思いますか。

次の 1～4 の中から 1つだけ選んで○をしてください。 （※令和 3 年度新設）

【全体】

“男女に差はない” と回答した割合が、49.5%と最も高く、次いで“男性が優遇されていると思う”が 23.9%、“わからない” と回答した割合が 12.8%と続いている。

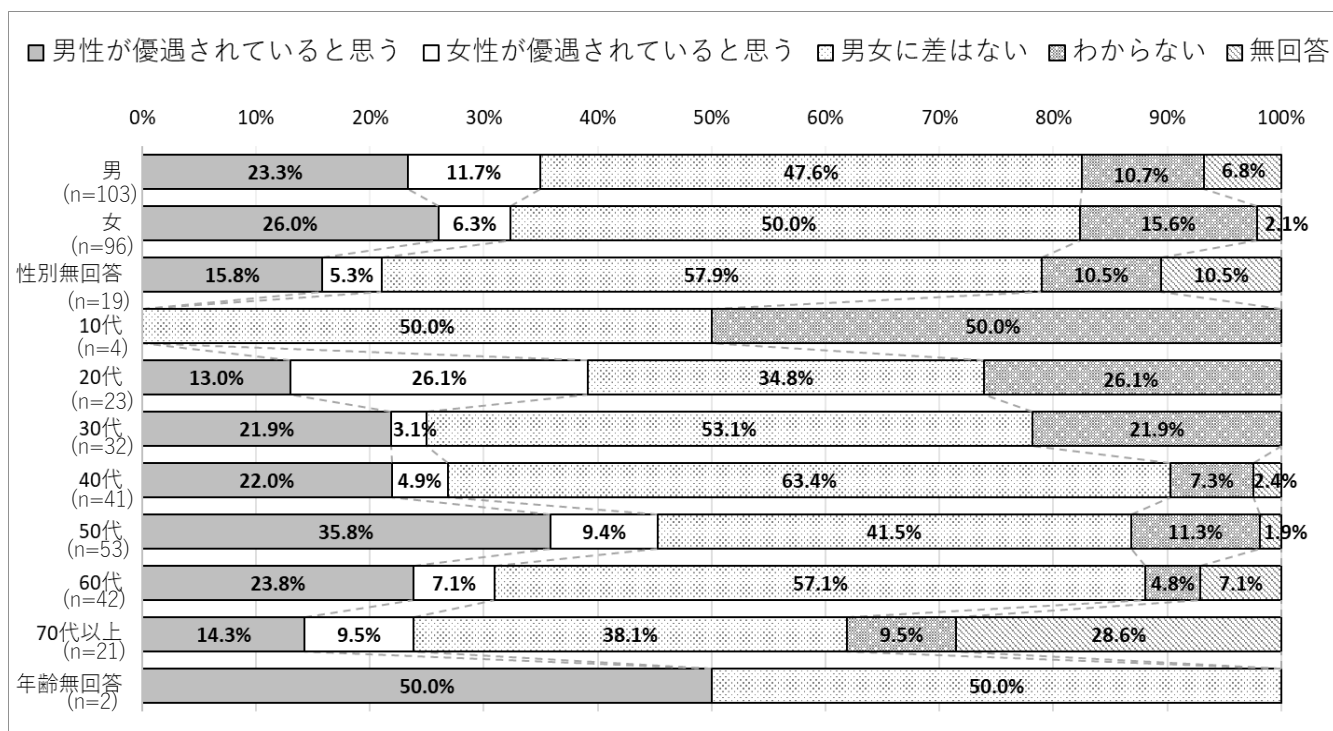


【男女別】

“男女に差はない” と回答した割合が、男女ともに最も高い。

【年齢】

“男性が優遇されている” と回答した割合は 50 代が最も高く、“女性が優遇されている” と回答した割合は 20 代が最も高い。



※問 14 で 1 または 2 「(男性・女性)が 優遇されていると思う」と答えた方にお聞きします。

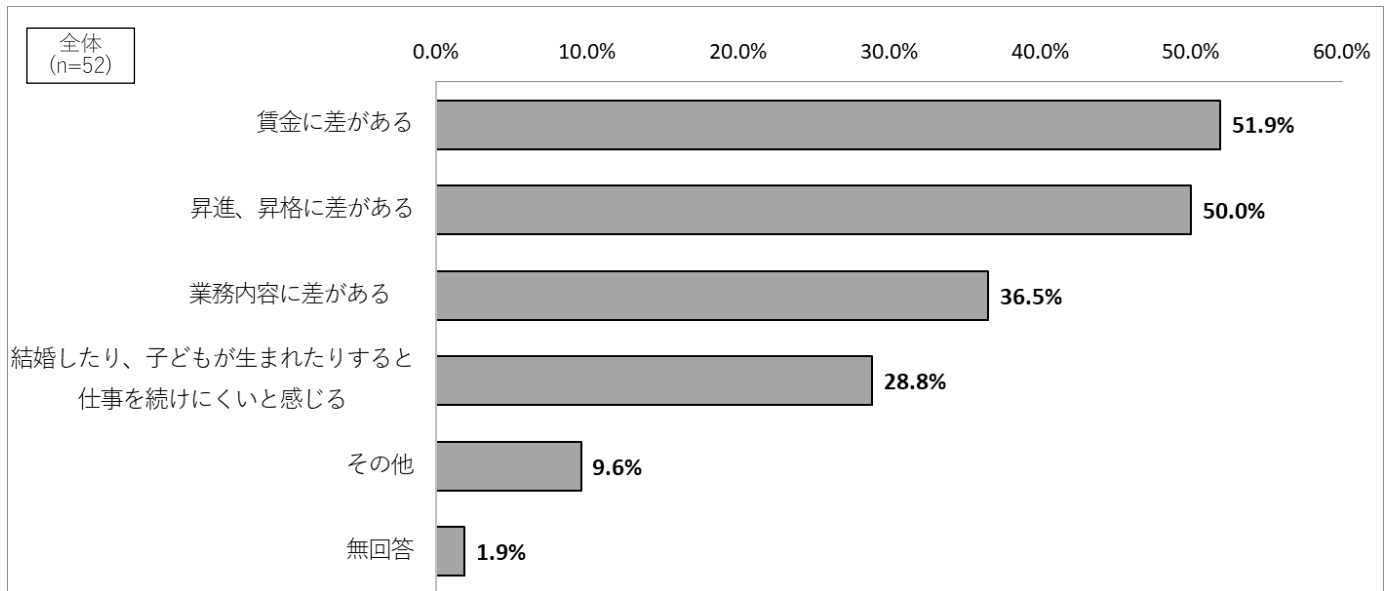
問 15. それは具体的にどのようなことですか。

次の 1 ～ 5 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。 (※令和 3 年度新設)

<男性が優遇されていると思う>

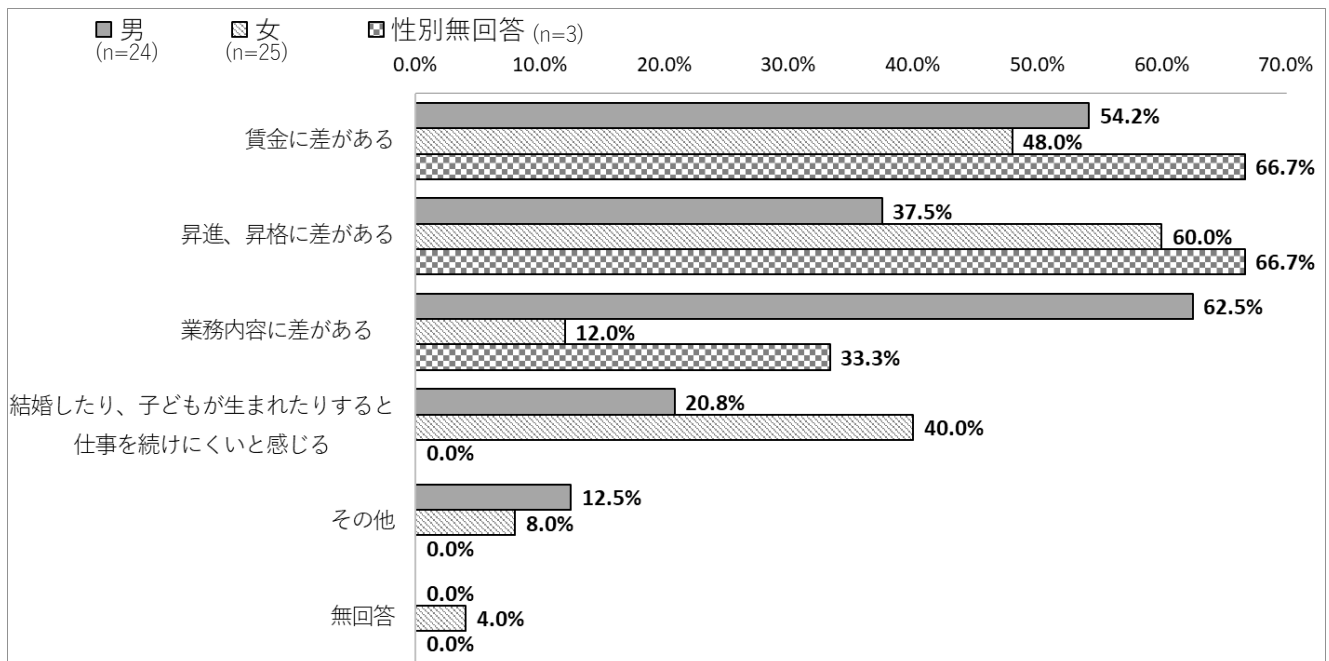
【全体】

“賃金に差がある”と回答した割合が 51.9%と最も高く、次いで“昇進、昇格に差がある”が 50.0%、“業務内容に差がある”が 36.5%と続いている。



【男女別】

男性は“業務内容に差がある”と回答した割合が最も高く、女性は“昇進、昇格に差がある”と回答した割合が最も高い。



【年代別】

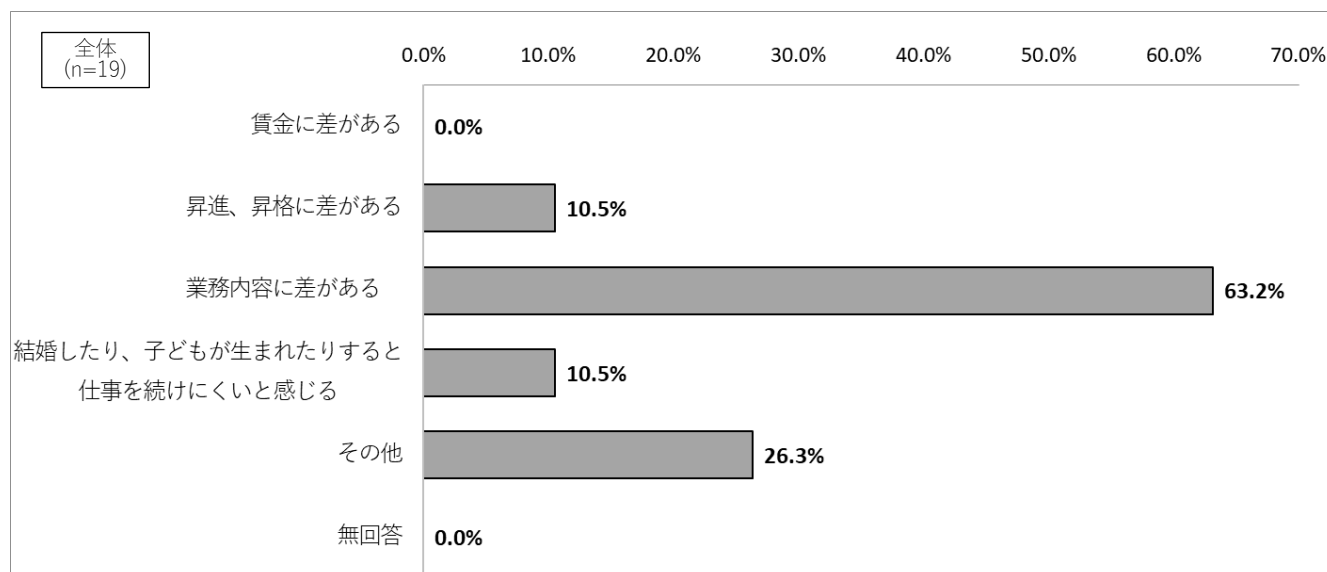
“賃金に差がある”と回答した割合は、40代から60代では5割を超えており、60代が最も高い。

	賃金に差がある	昇進、昇格に差がある	業務内容に差がある	結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくいと感じる	その他	無回答
20代 (n=3)	33.3%	33.3%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%
30代 (n=7)	28.6%	71.4%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%
40代 (n=9)	55.6%	55.6%	55.6%	55.6%	0.0%	0.0%
50代 (n=19)	57.9%	57.9%	31.6%	21.1%	5.3%	0.0%
60代 (n=10)	60.0%	30.0%	50.0%	10.0%	10.0%	0.0%
70代以上 (n=3)	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
年齢無回答 (n=1)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%

<女性が優遇されていると思う>

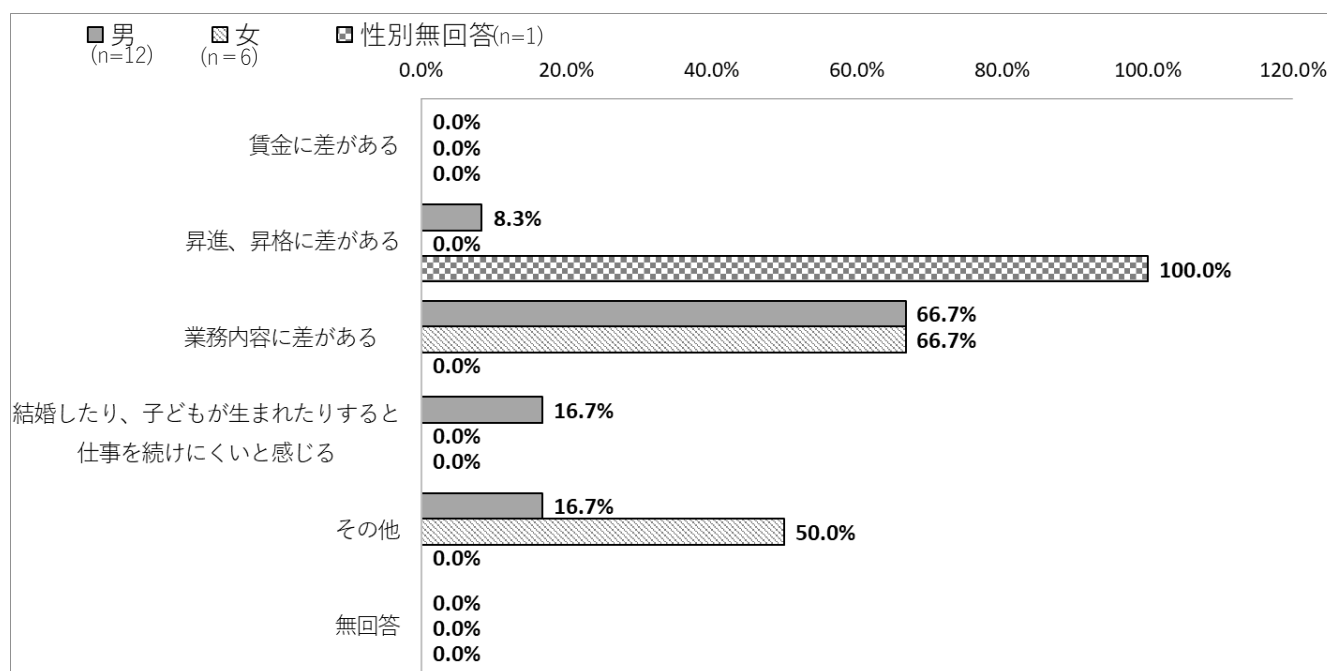
【全体】

“業務内容に差がある”と回答した割合が63.2%と最も高く、次いで“その他”が26.3%、“昇進、昇格に差がある”と“結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくいと感じる”が10.5%と続いている。“賃金に差がある”は0だった。



【男女別】

“業務内容に差がある”と回答した割合が、男女ともに最も高い。



【年代別】

“業務内容に差がある”と回答した割合は30代と70代以上で100%となっている。

	賃金に差がある	昇進、昇格に差がある	業務内容に差がある	結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくいと感じる	その他	無回答
20代 (n=6)	0.0%	16.7%	66.7%	0.0%	16.7%	0.0%
30代 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
40代 (n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%
50代 (n=5)	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%
60代 (n=3)	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
70代以上 (n=2)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

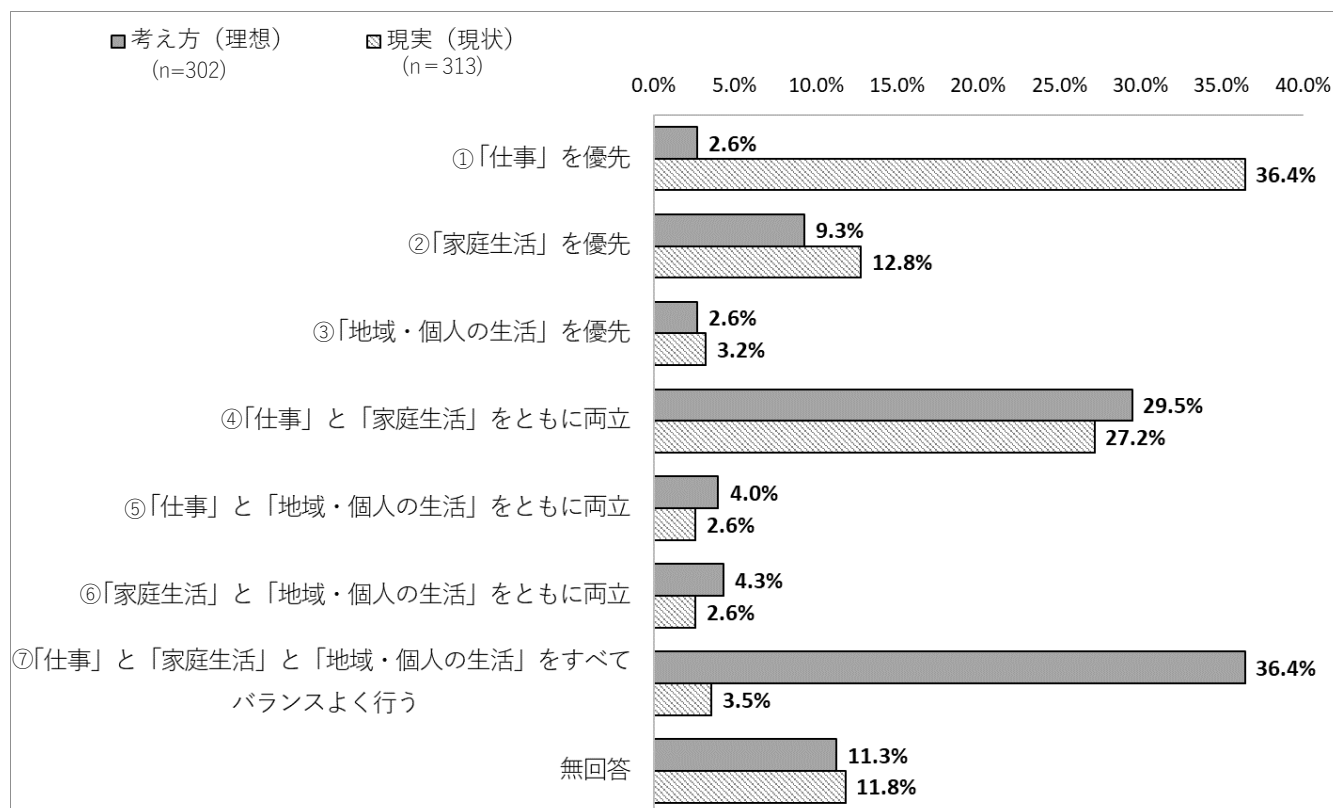
（８）ワーク・ライフ・バランスについて

問 16. 仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）に最も近いものはどれですか。
それぞれ次の１～７の中から１つずつ選んで○をしてください。（※令和３年度新設）

【全体】

〈考え方（理想）〉では、“⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う”が、36.4%と最も高く、次いで“④「仕事」と「家庭生活」をともに両立”が29.5%、“②「家庭生活」を優先”が9.3%と続いている。

〈現実（現状）〉では、“①「仕事」を優先”が36.4%と最も高く、次いで“④「仕事」と「家庭生活」をともに両立”が27.2%、“②「家庭生活」を優先”が12.8%と続いている。



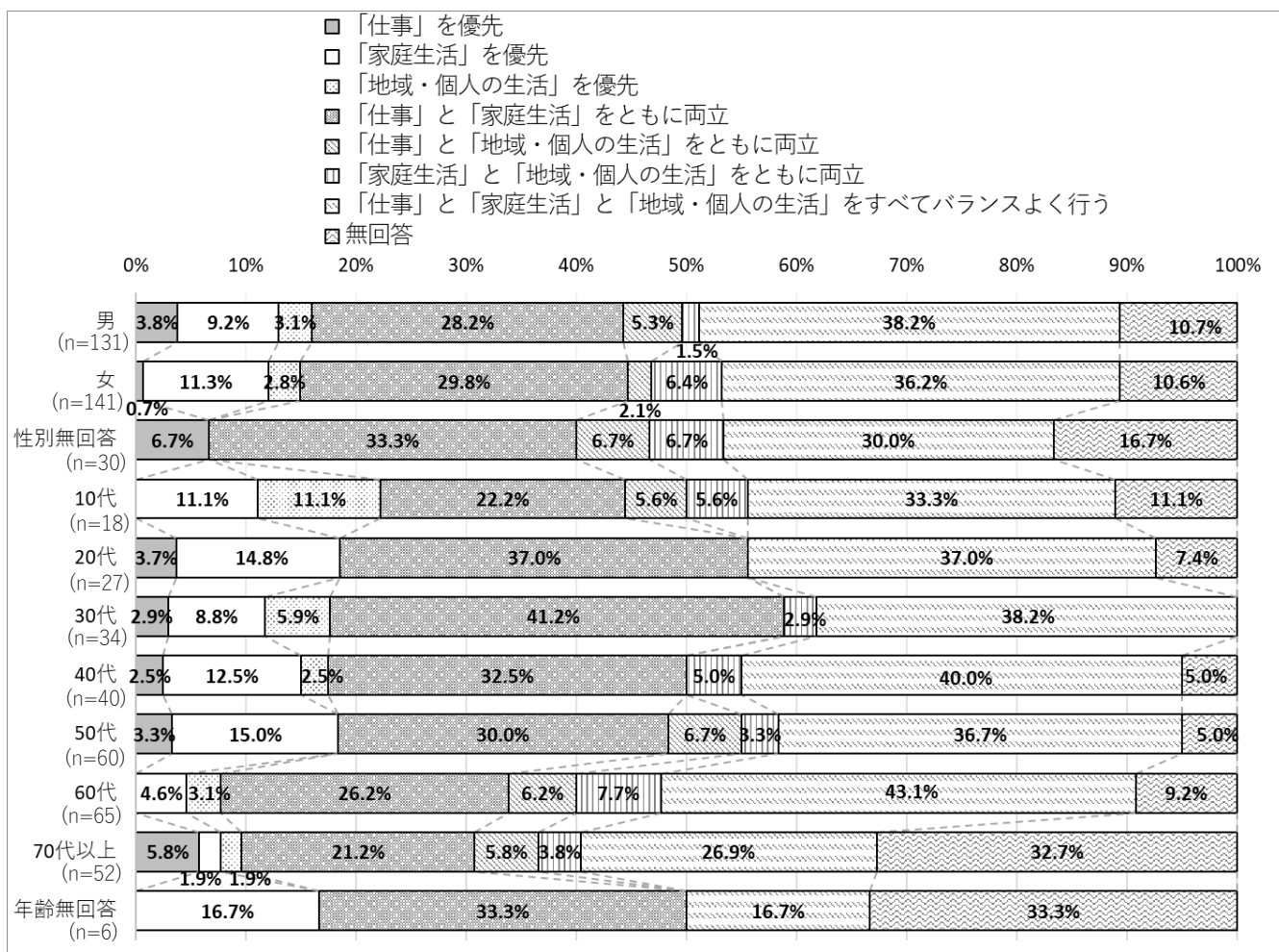
<考え方（理想）>

【男女別】

“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う”と回答した割合が、男女ともに最も高い。

【年代別】

“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う”と回答した割合は、60代が最も高い。



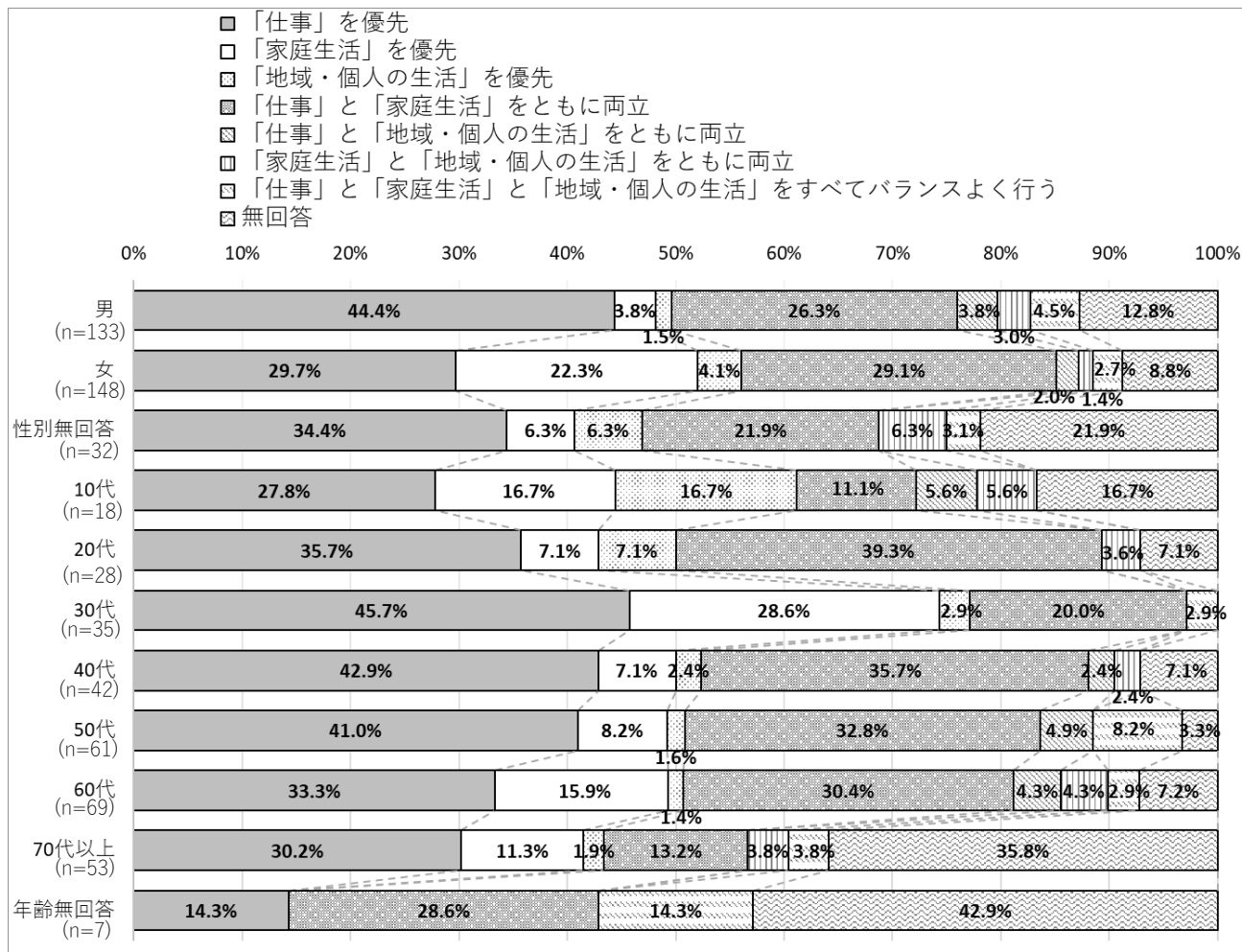
<現実（現状）>

【男女別】

“「仕事」を優先”と回答した割合は女性より男性の方が高く、“「家庭生活」を優先”と回答した割合は男性より女性の方が高い。

【年代別】

“「仕事」を優先”と回答した割合は、30代が最も高い。

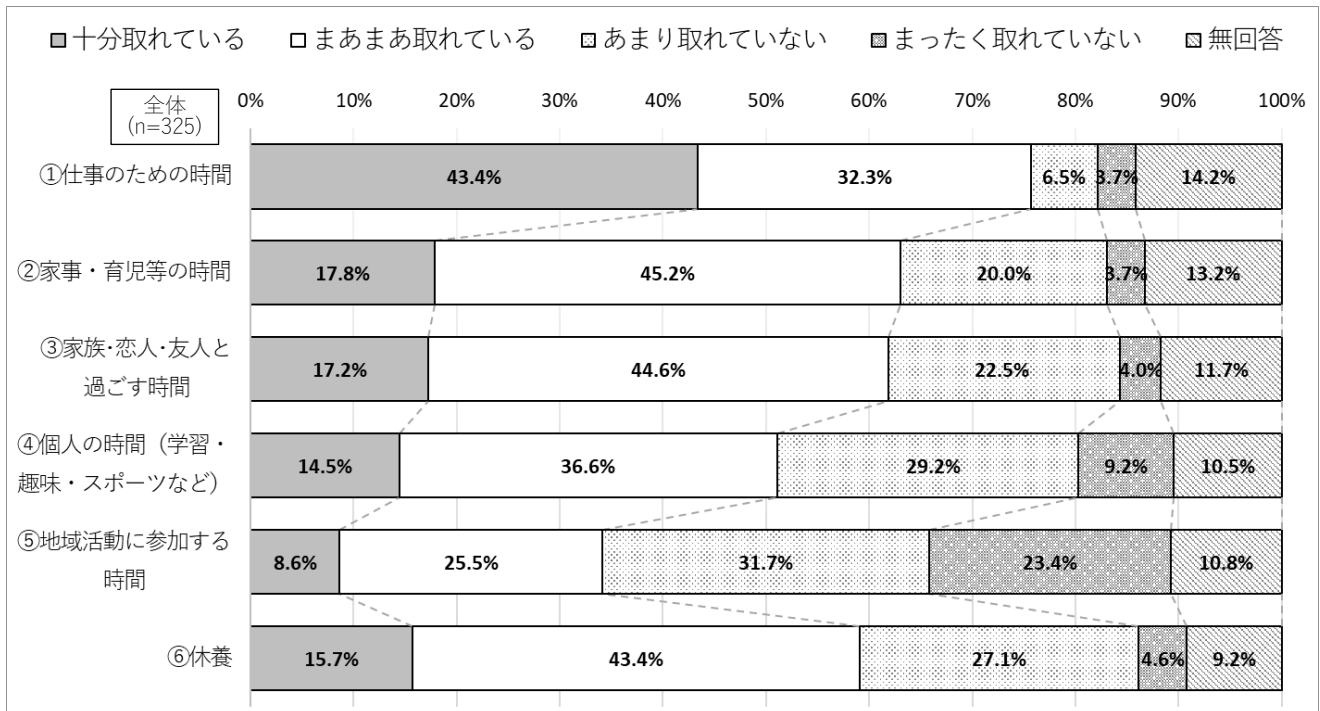


問 17. あなたは、日常生活の中で次の項目について満足する時間が取れていますか。

それぞれ 1～4 の中から 1つずつ 選んで○をしてください。

【全体】

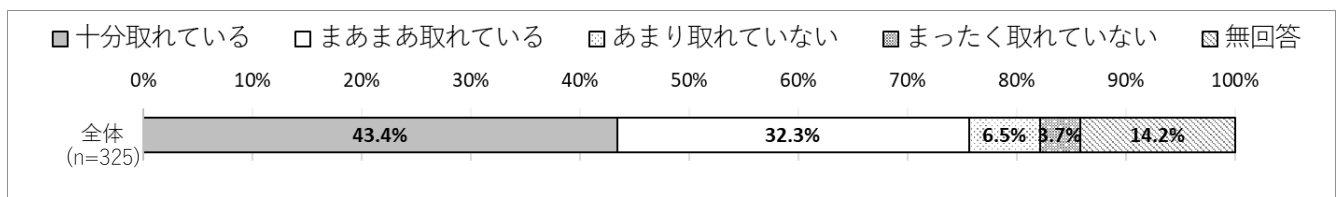
“十分取れている”又は“まあまあ取れている”と回答した割合は、〈仕事のための時間〉が 75.7%と最も高く、次いで〈家事・育児等の時間〉が 63.0%、〈家族・恋人・友人と過ごす時間〉が 61.8%と、6割を超えている。一方、“あまり取れていない”又は“まったく取れていない”と回答した割合は、〈地域活動に参加する時間〉が 55.1%と最も高く、次いで〈個人の時間（学習・趣味・スポーツなど）〉が 38.4%、〈休養〉が 31.7%と続いている。



<問 17-①仕事のための時間>

【全体】

“十分取れている”と回答した割合が43.4%と最も高く、次いで“まあまあ取れている”が32.3%、“あまり取れていない”が6.5%と続いている。

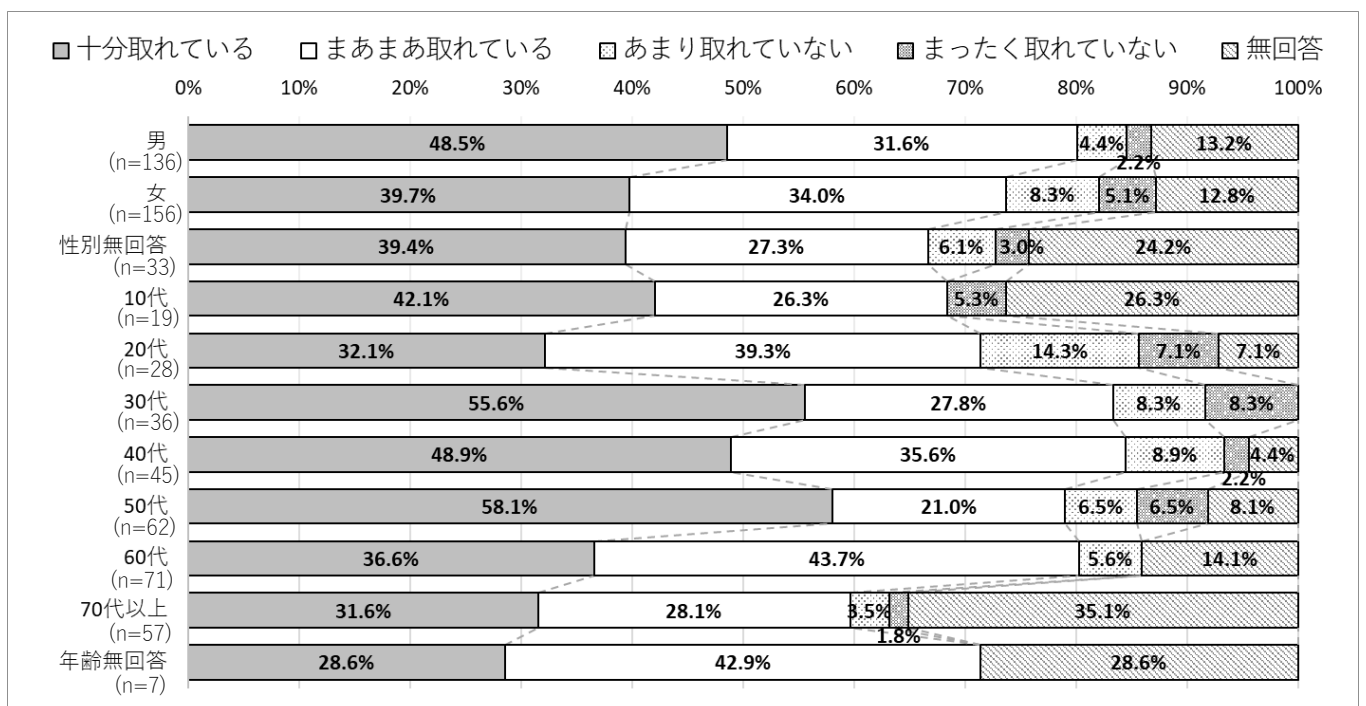


【男女別】

“十分取れている”と回答した割合は、女性より男性の方が高い。

【年代別】

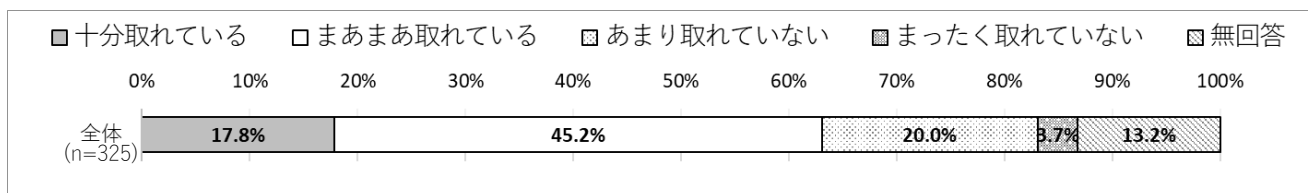
“十分取れている”又は“まあまあ取れている”と回答した割合は、30代と40代では8割を超えている。



<問 17-②家事・育児等の時間>

【全体】

“まあまあ取れている”と回答した割合が45.2%と最も高く、次いで“あまり取れていない”が20.0%、“十分取れている”が17.8%と続いている。

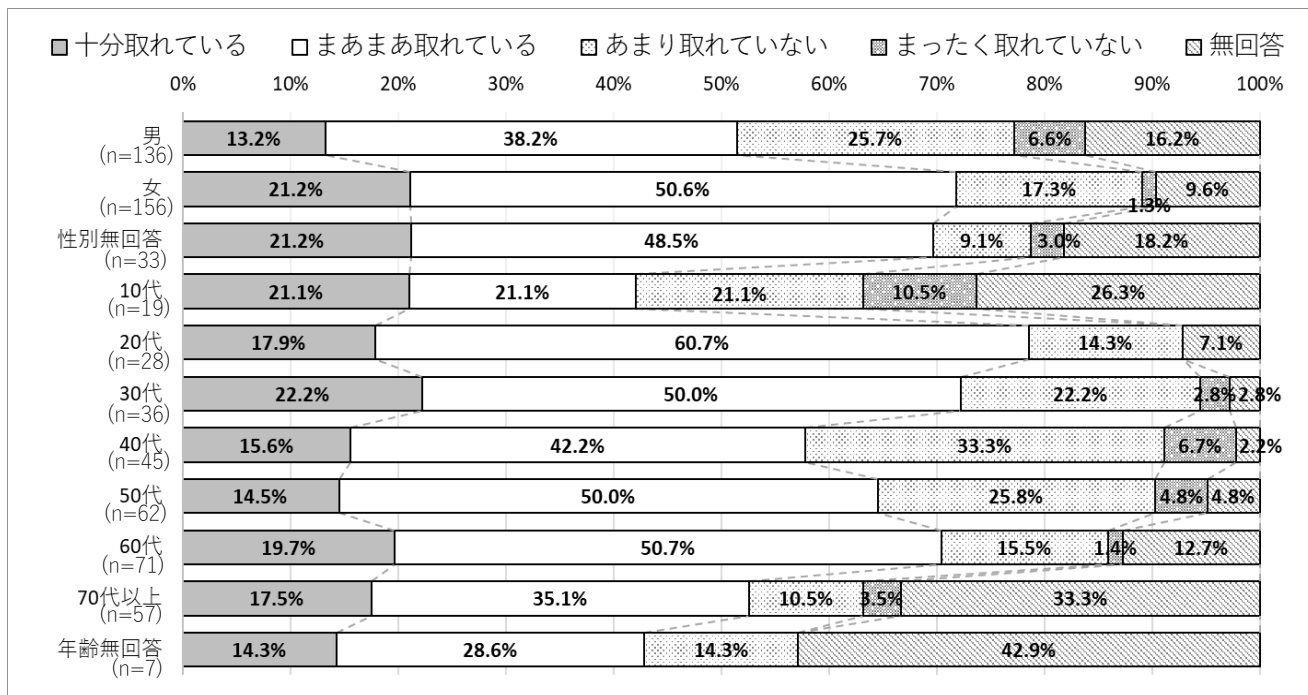


【男女別】

“十分取れている”又は“まあまあ取れている”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

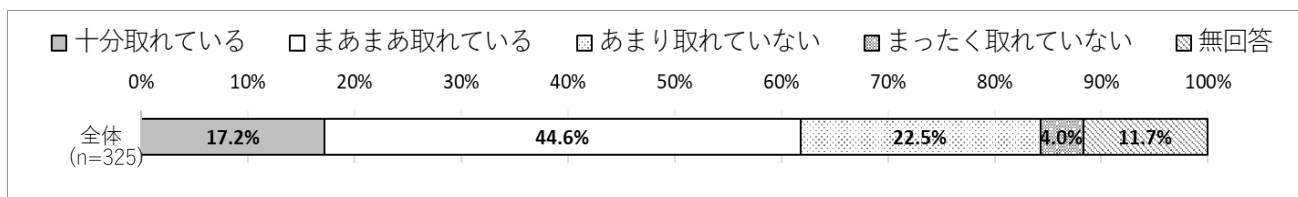
“十分取れている”又は“まあまあ取れている”と回答した割合は、20代が最も高く、“あまり取れていない”又は“まったく取れていない”と回答した割合は、40代が最も高い。



<問 17-③家族・恋人・友人と過ごす時間>

【全体】

“まあまあ取れている”と回答した割合が 44.6%と最も高く、次いで“あまり取れていない”が 22.5%、“十分取れている”が 17.2%と続いている。

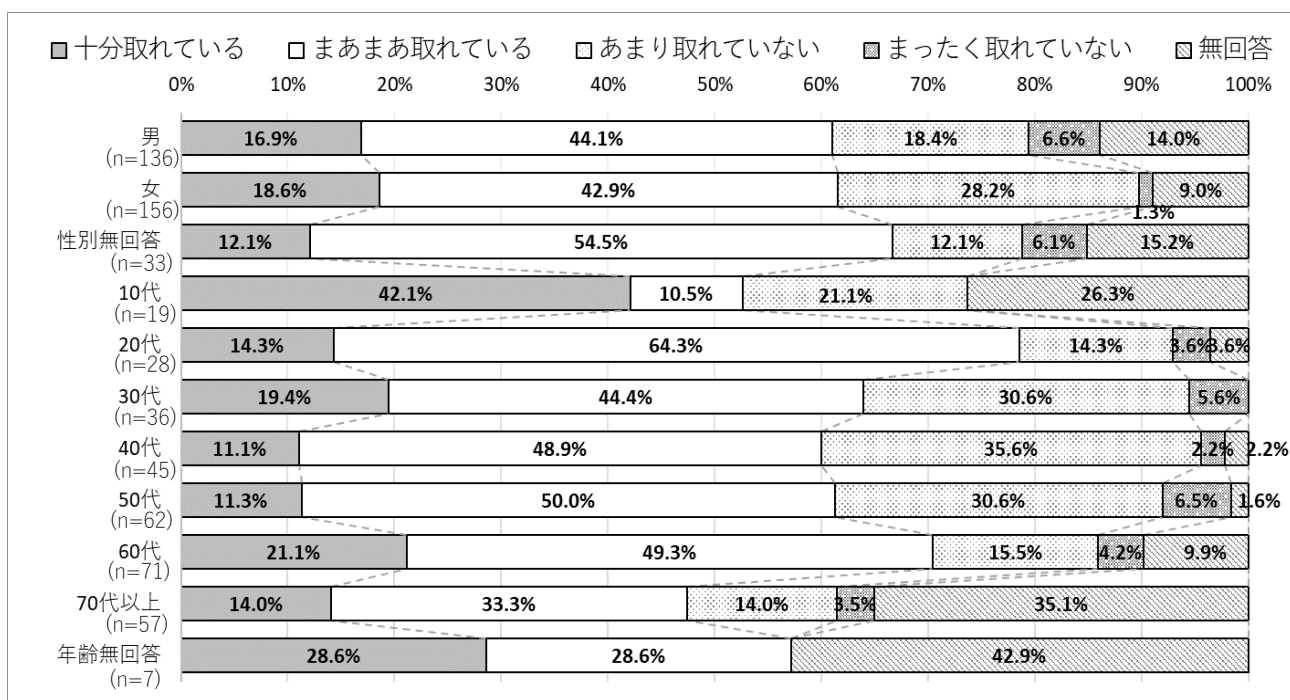


【男女別】

“あまり取れていない”又は“まったく取れていない”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

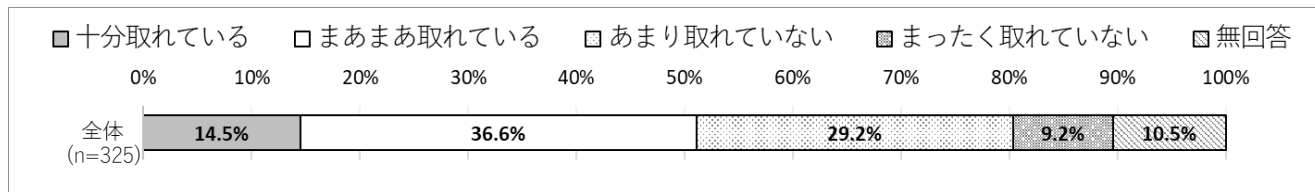
“十分取れている”又は“まあまあ取れている”と回答した割合は、20代が最も高い。



<問 17-④個人の時間（学習・趣味・スポーツなど）>

【全体】

“まあまあ取れている”と回答した割合が 36.6%と最も高く、次いで“あまり取れていない”が 29.2%、“十分取れている”が 14.5%と続いている。

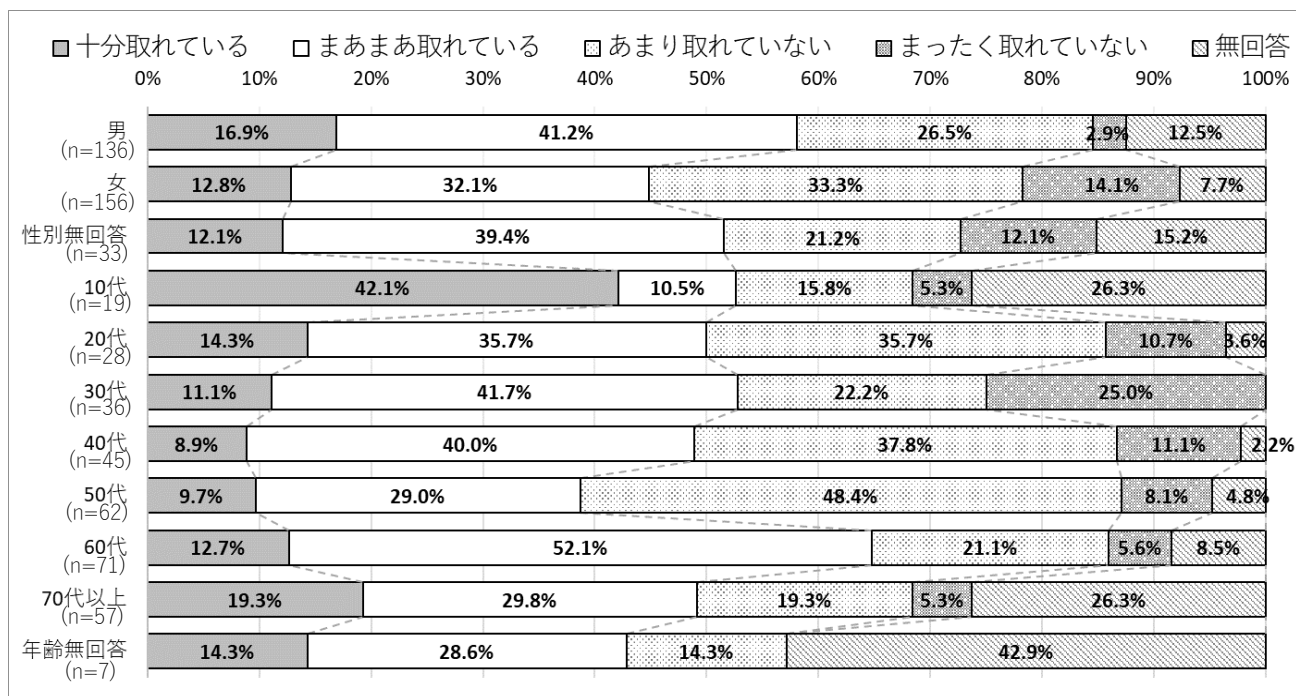


【男女別】

“あまり取れていない”又は“まったく取れていない”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

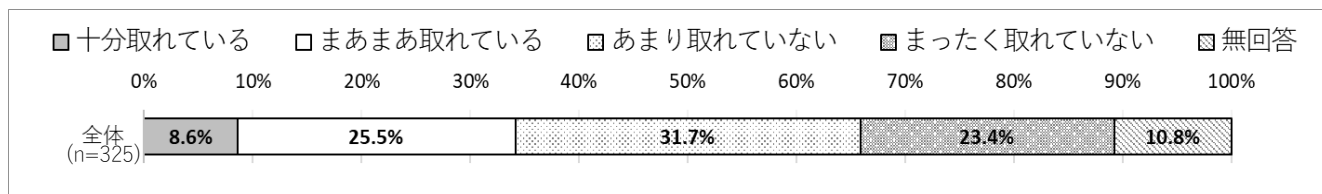
“あまり取れていない”又は“まったく取れていない”と回答した割合は、50代が最も高い。



<問 17ー⑤地域活動に参加する時間>

【全体】

“あまり取れていない”が31.7%と最も高く、次いで“まあまあ取れている”が25.5%、“まったく取れていない”が23.4%と続いている。

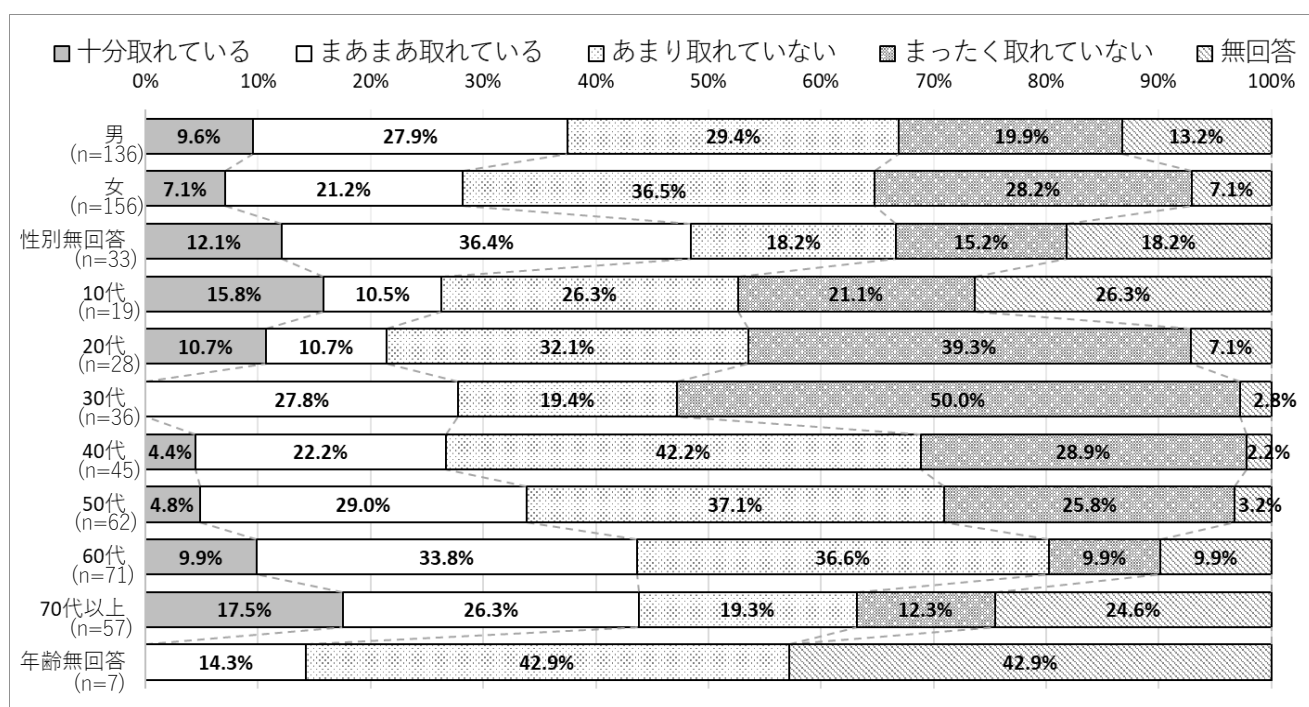


【男女別】

“あまり取れていない”、又は“まったく取れていない”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

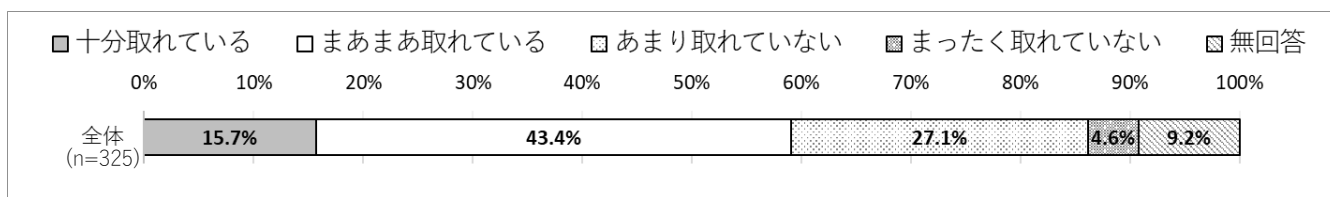
“あまり取れていない”、又は“まったく取れていない”と回答した割合は、20代から50代では5割を超えている。



<問 17-⑥休養>

【全体】

“まあまあ取れている”と回答した割合が43.4%と最も高く、次いで“あまり取れていない”が27.1%、“十分取れている”が15.7%と続いている。

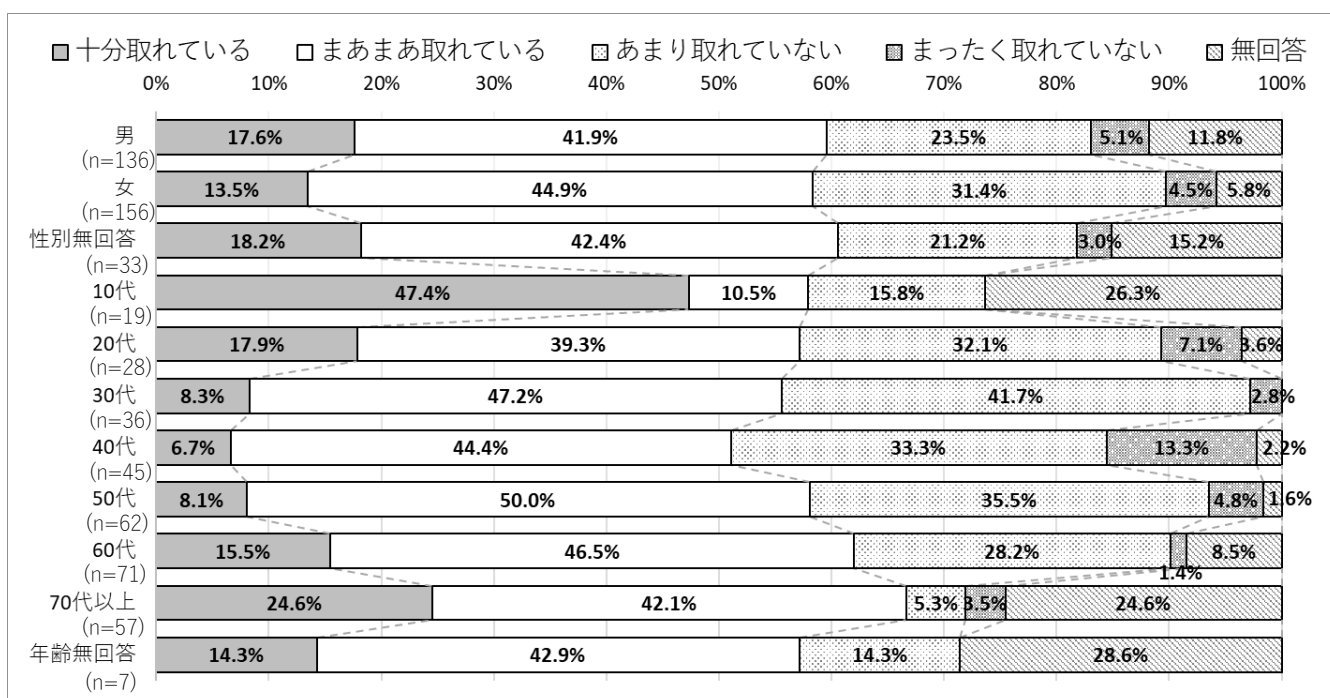


【男女別】

“あまり取れていない”、又は“まったく取れていない”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“あまり取れていない”、又は“まったく取れていない”と回答した割合は、40代が最も高い。



（９）社会参加について

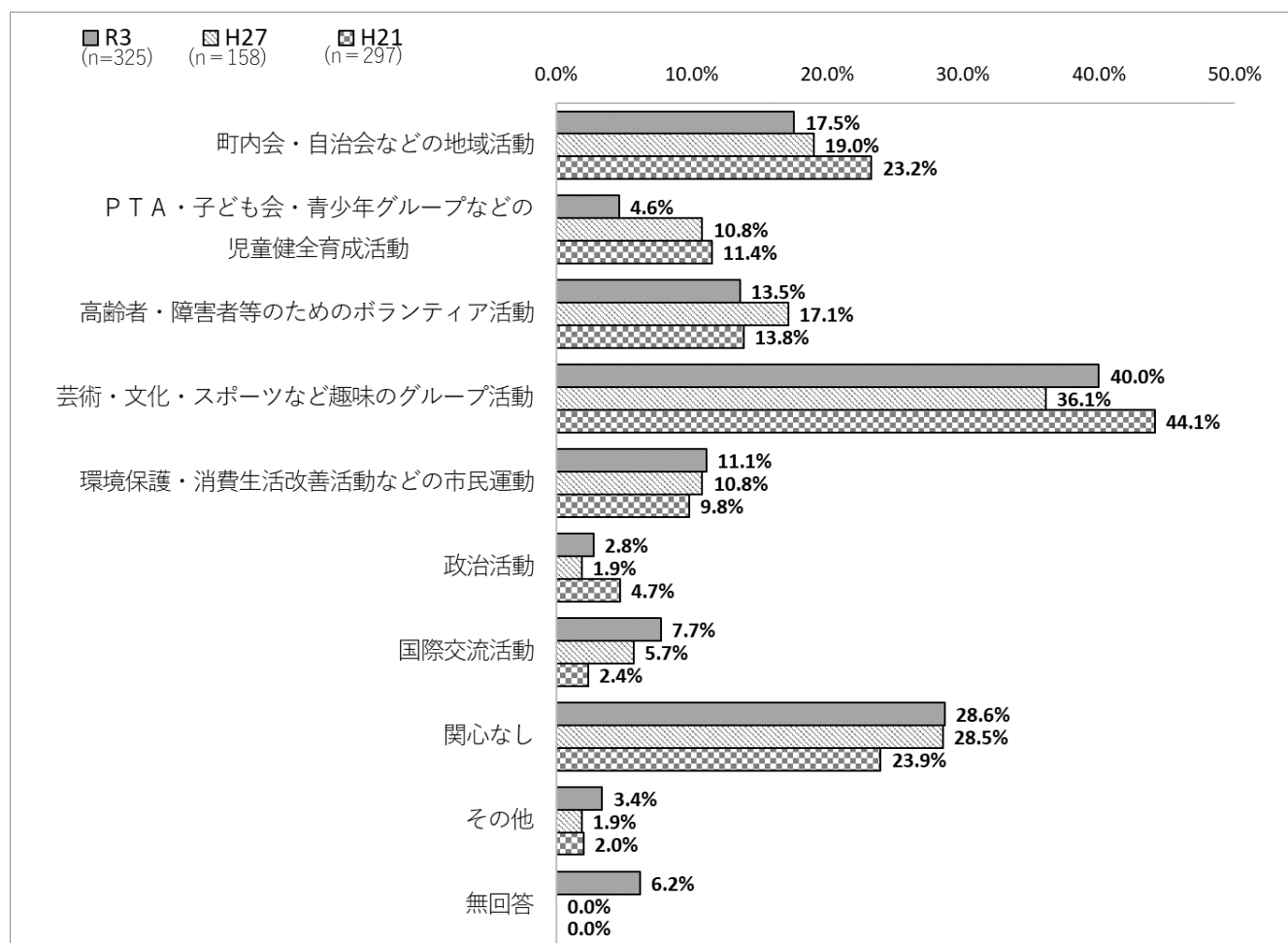
問 18. あなたが現在、関心のある活動は何ですか。次の 1～9 の中から 2 つ以内 で選んで○をしてください。

【全体】

“芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動”と回答した割合が 40.0%と最も高く、次いで“関心なし” 28.6%、“町内会・自治会などの地域活動”が 17.5%と続いている。

【過去数値との比較】

“町内会・自治会などの地域活動”と回答した割合が減少している。（R3：17.5%、H27：19.0%、H21：23.2%）

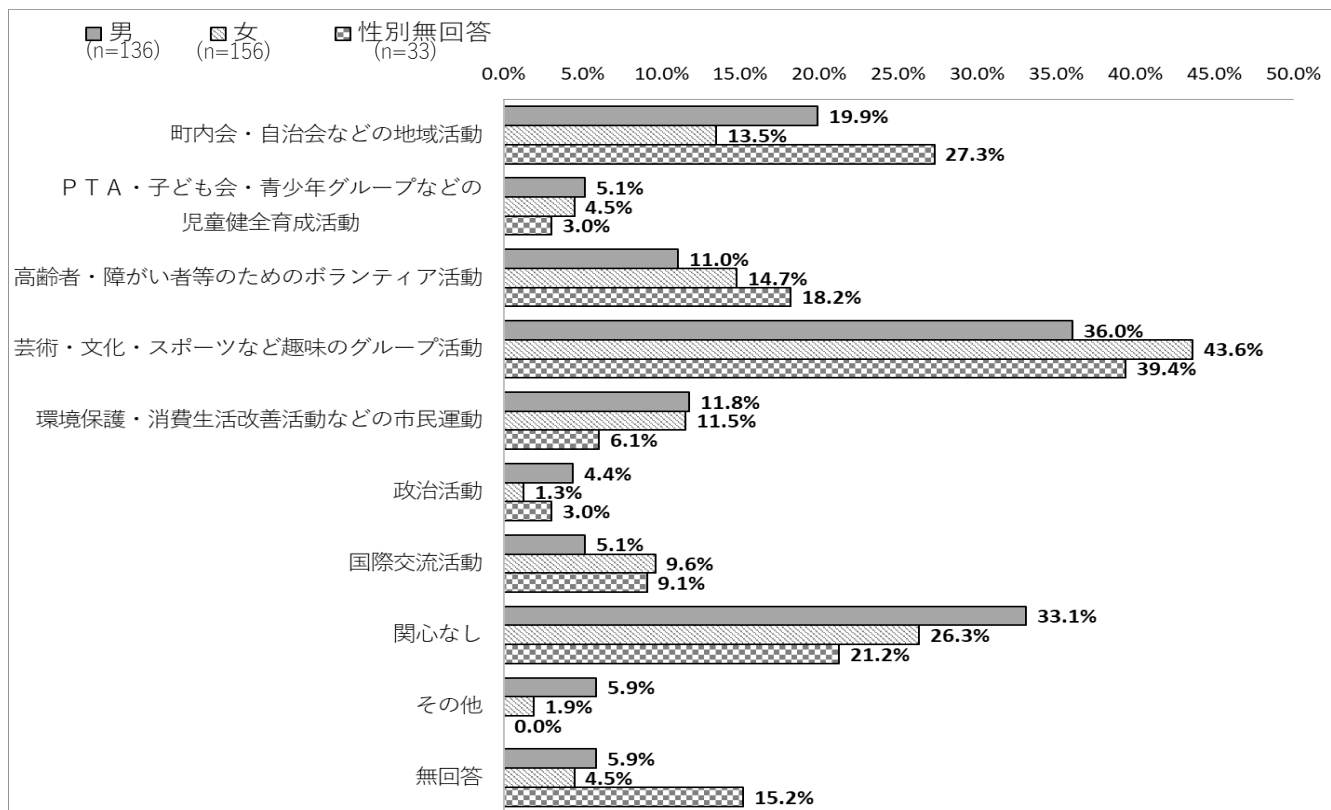


【男女別】

“芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動”と回答した割合が、男女ともに最も高い。

【年代別】

“芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動”と回答した割合は、30代と70代以上を除く年代で最も高く、30代は5割以上が“関心なし”と回答している。



	町内会・自治会 などの地域活動	P T A・子ども会・ 青少年グループなど の児童健全育成 活動	高齢者・障がい者 等のためのボラン ティア活動	芸術・文化・スポー ツなど趣味のグル ープ活動	環境保護・消費生 活改善活動などの 市民運動
10代 (n=19)	15.8%	5.3%	5.3%	42.1%	5.3%
20代 (n=28)	17.9%	7.1%	7.1%	50.0%	17.9%
30代 (n=36)	5.6%	2.8%	5.6%	33.3%	0.0%
40代 (n=45)	6.7%	4.4%	6.7%	42.2%	13.3%
50代 (n=62)	9.7%	6.5%	17.7%	40.3%	11.3%
60代 (n=71)	22.5%	1.4%	19.7%	46.5%	14.1%
70代以上 (n=57)	38.6%	7.0%	19.3%	28.1%	12.3%
年齢無回答 (n=7)	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%

	政治活動	国際交流活動	関心なし	その他	無回答
10代 (n=19)	5.3%	10.5%	36.8%	0.0%	0.0%
20代 (n=28)	0.0%	28.6%	21.4%	0.0%	3.6%
30代 (n=36)	2.8%	13.9%	55.6%	0.0%	0.0%
40代 (n=45)	4.4%	6.7%	33.3%	8.9%	4.4%
50代 (n=62)	0.0%	8.1%	35.5%	3.2%	0.0%
60代 (n=71)	4.2%	2.8%	16.9%	4.2%	5.6%
70代以上 (n=57)	3.5%	0.0%	15.8%	3.5%	19.3%
年齢無回答 (n=7)	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%

問 19. あなたが、問 18 の活動に参加しようとするとき、障害となるものがありますか。

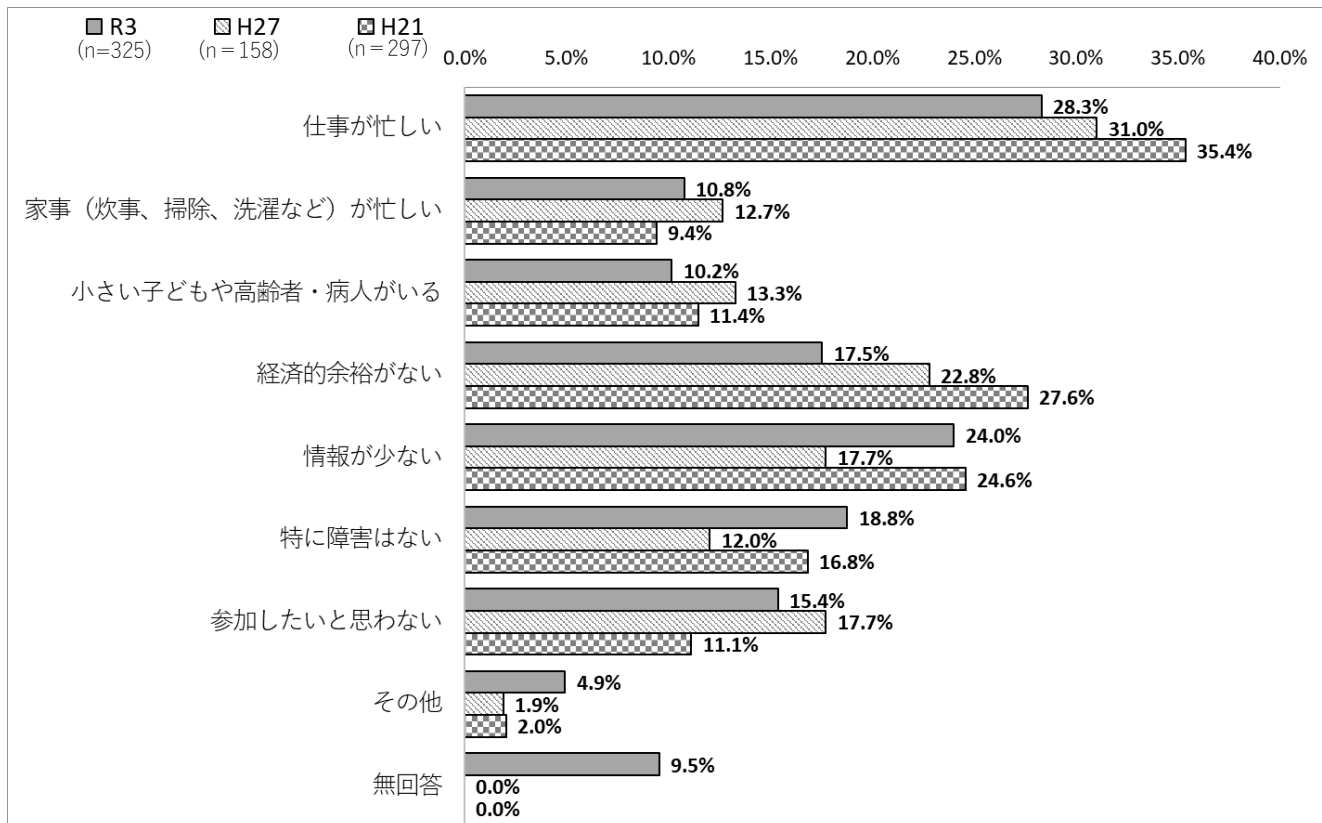
次の 1～8 の中から **2 つ以内** で選んで○をしてください。

【全体】

“仕事が忙しい”と回答した割合が、28.3%と最も高く、次いで“情報が少ない”が24.0%、“特に障害はない”が18.8%と続いている。

【過去数値との比較】

“仕事が忙しい”と回答した割合が減少している。（R3：28.3%、H27：31.0%、H21：35.4%）

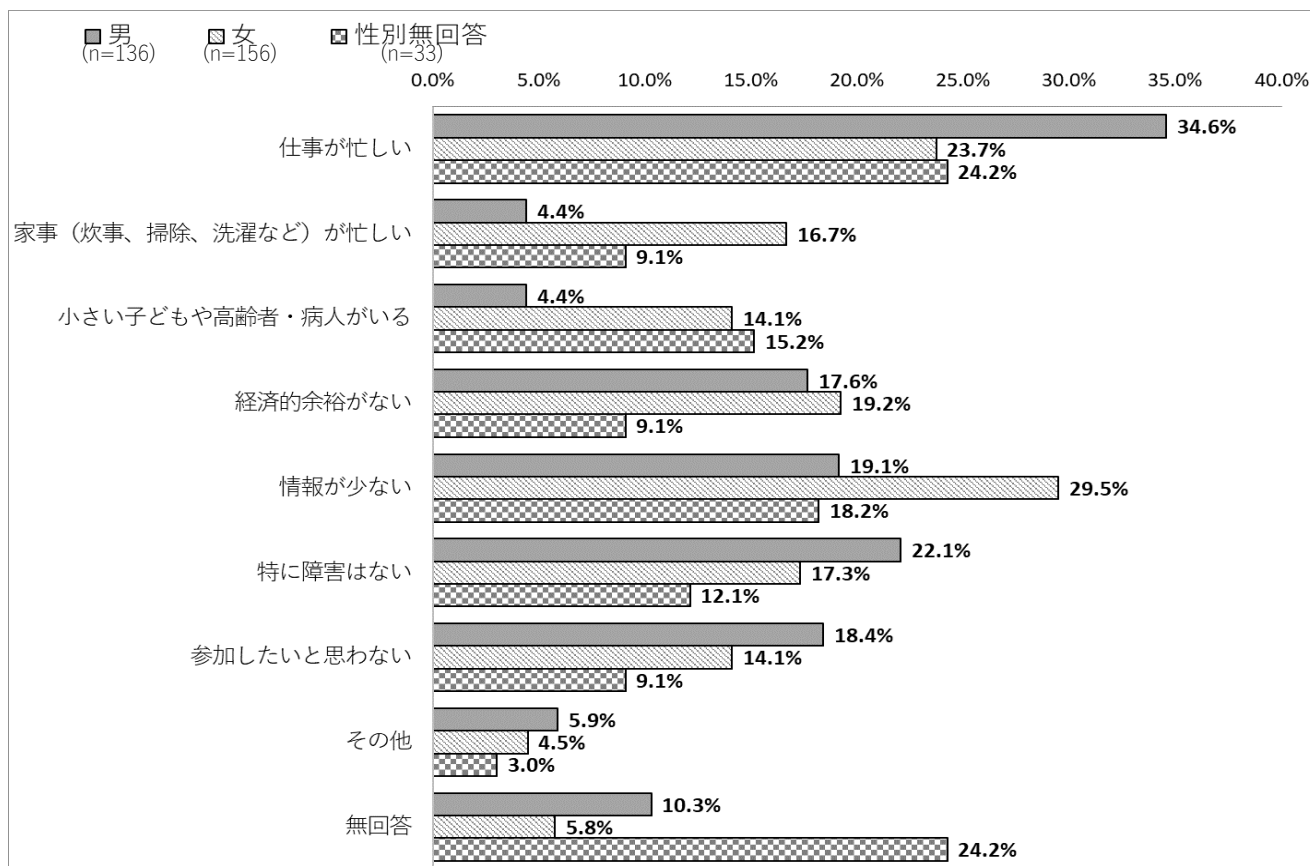


【男女別】

“仕事が忙しい”と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“家事（炊事、洗濯、掃除）が忙しい”、“小さい子どもや高齢者・病人がいる”と回答した割合は男性より女性の方が高い。

【年齢別】

“仕事が忙しい”と回答した割合は、20代が最も高い。



	仕事が忙しい	家事（炊事、掃除、洗濯など）が忙しい	小さい子どもや高齢者・病人がいる	経済的余裕がない	情報が少ない
10代 (n=19)	26.3%	10.5%	0.0%	10.5%	10.5%
20代 (n=28)	42.9%	21.4%	21.4%	14.3%	25.0%
30代 (n=36)	27.8%	19.4%	25.0%	11.1%	22.2%
40代 (n=45)	40.0%	15.6%	11.1%	22.2%	15.6%
50代 (n=62)	29.0%	8.1%	8.1%	16.1%	35.5%
60代 (n=71)	28.2%	5.6%	8.5%	23.9%	22.5%
70代以上 (n=57)	15.8%	7.0%	3.5%	17.5%	28.1%
年齢無回答 (n=7)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	特に障害はない	参加したいと思わない	その他	無回答
10代 (n=19)	42.1%	15.8%	0.0%	5.3%
20代 (n=28)	3.6%	17.9%	0.0%	10.7%
30代 (n=36)	16.7%	25.0%	2.8%	0.0%
40代 (n=45)	15.6%	13.3%	4.4%	8.9%
50代 (n=62)	9.7%	24.2%	6.5%	6.5%
60代 (n=71)	21.1%	7.0%	7.0%	8.5%
70代以上 (n=57)	26.3%	12.3%	3.5%	19.3%
年齢無回答 (n=7)	42.9%	0.0%	28.6%	28.6%

(10) セクシュアル・ハラスメント、DVについて

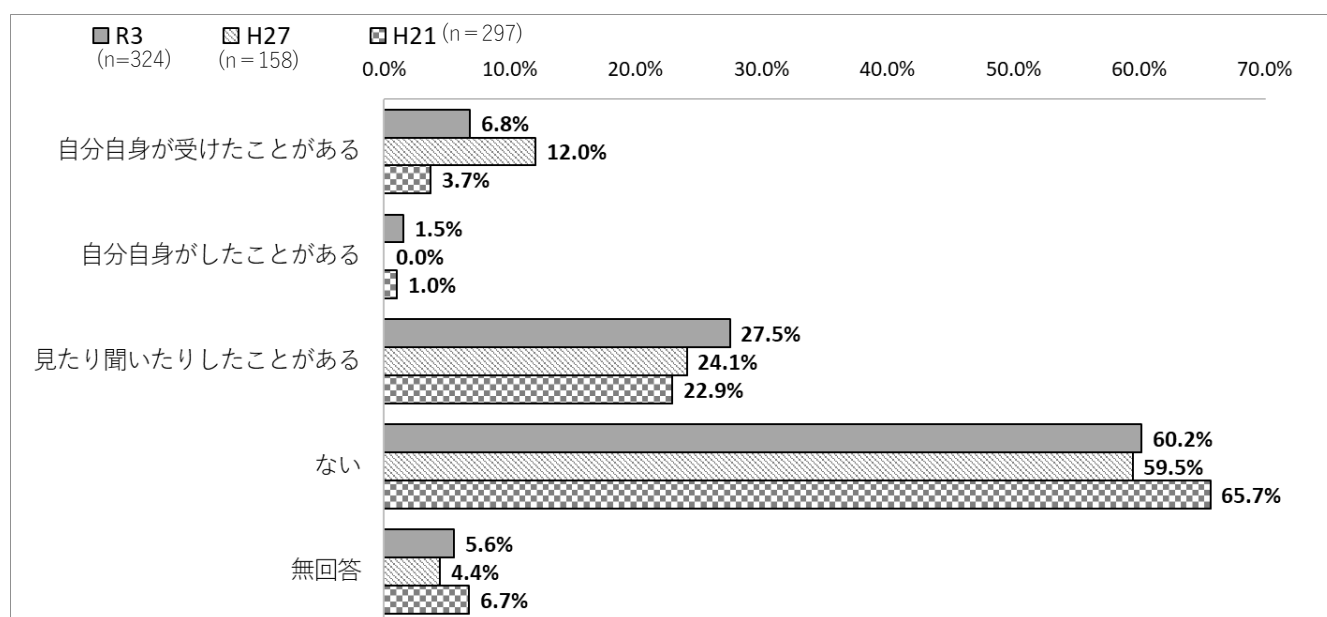
問 20. あなたの身近なところ（職場・地域・学校）にセクシュアル・ハラスメントがありますか。
次の 1～4 の中からあてはまるものを選んで○をしてください。

【全体】

“自分自身が受けたことがある”と回答した割合が 6.8%、“自分自身がしたことがある”が 1.5%、“見たり聞いたりしたことがある”が 27.5%、“ない”が 60.2%となっている。

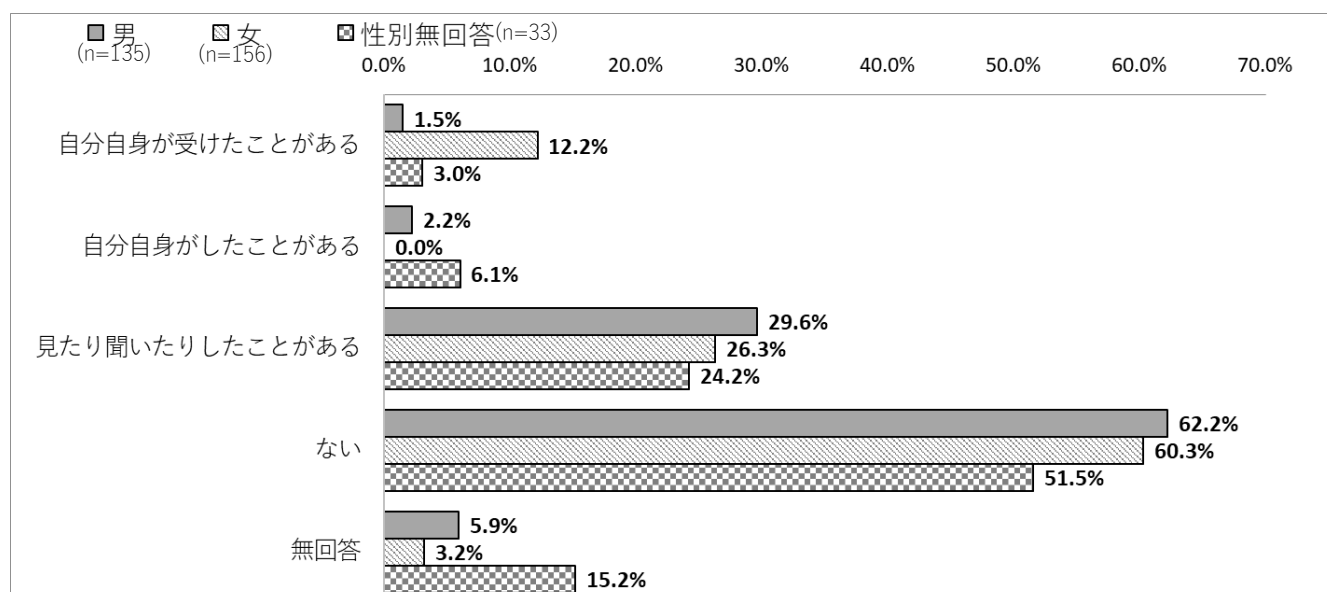
【過去数値との比較】

“自分自身が受けたことがある”と回答した割合が、平成 27 年と比べて減少しているものの、平成 21 年と比べると増加している。（R3：6.8%、H27：12.0%、H21：3.7%）



【男女別】

“自分自身が受けたことがある”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。



【年代別】

“自分自身が受けたことがある”と回答した割合は50代が最も高い。

	自分自身が受けたことがある	自分自身がしたことがある	見たり聞いたりしたことがある	ない	無回答
10代 (n=19)	5.3%	0.0%	10.5%	84.2%	0.0%
20代 (n=28)	10.7%	3.6%	21.4%	60.7%	3.6%
30代 (n=36)	8.3%	0.0%	38.9%	55.6%	0.0%
40代 (n=45)	8.9%	2.2%	28.9%	62.2%	2.2%
50代 (n=62)	11.3%	1.6%	35.5%	53.2%	0.0%
60代 (n=70)	5.7%	0.0%	25.7%	65.7%	4.3%
70代以上 (n=57)	0.0%	3.5%	19.3%	56.1%	21.1%
年齢無回答 (n=7)	0.0%	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%

※問 20 で 1 「自分自身が受けたことがある」と答えられた方にお聞きます。

問 21. その内容はどんなものだったのでしょうか。

次の 1～11 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

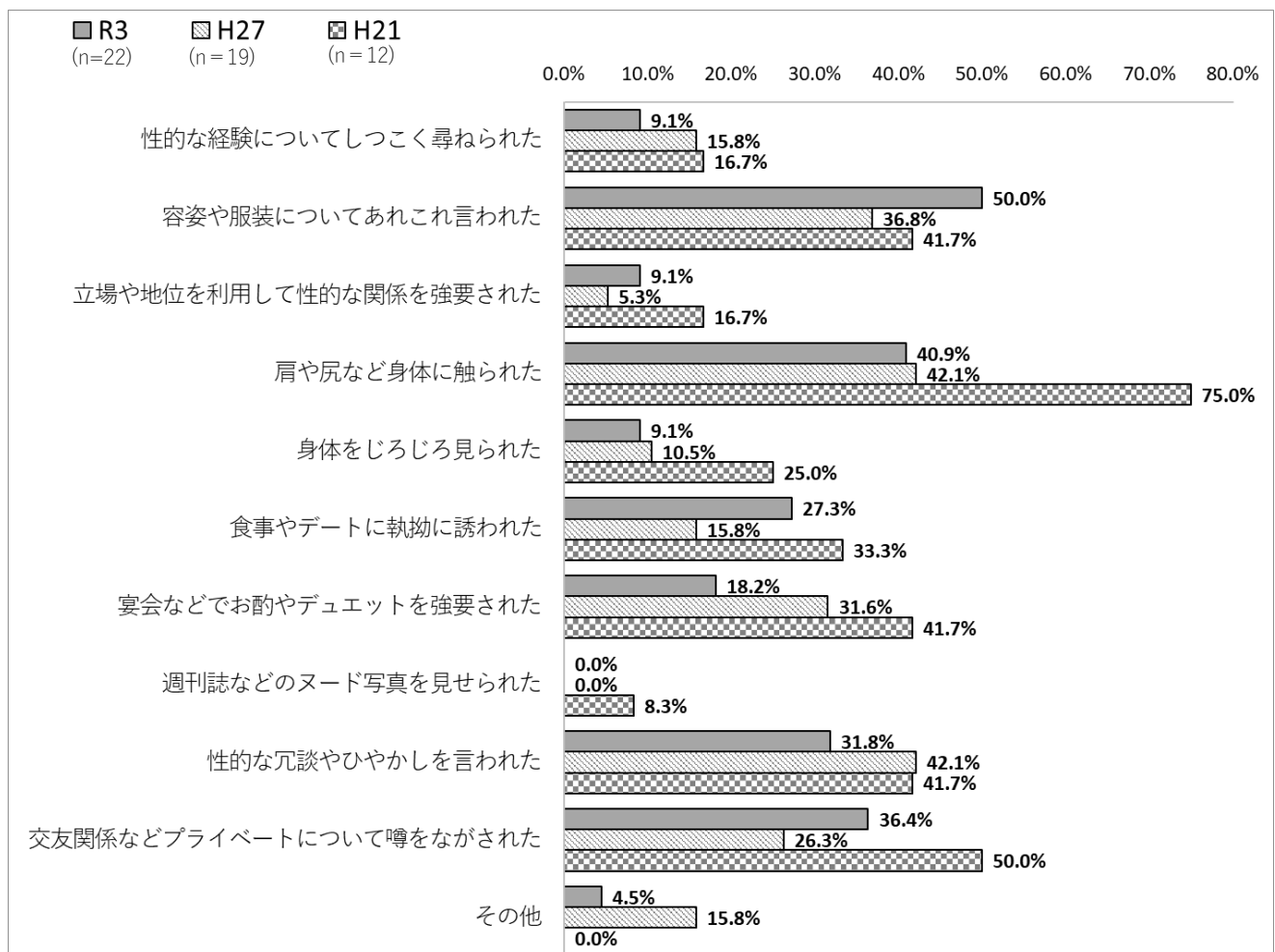
【全体】

“容姿や服装についてあれこれ言われた”と回答した割合が、50.0%と最も高く、次いで“肩や尻など身体に触られた”が 40.9%、“交友関係などプライベートについて噂をながされた”が 36.4%と続いている。

【過去数値との比較】

“容姿や服装についてあれこれ言われた”と回答した割合が、平成 27 年では減少していたが、今回の調査では増加している。（R3：50.0%、H27：36.8%、H21：41.7%）

“肩や尻など身体に触られた”と回答した割合が減少している（R3：40.9%、H27：42.1%、H23：75.0%）

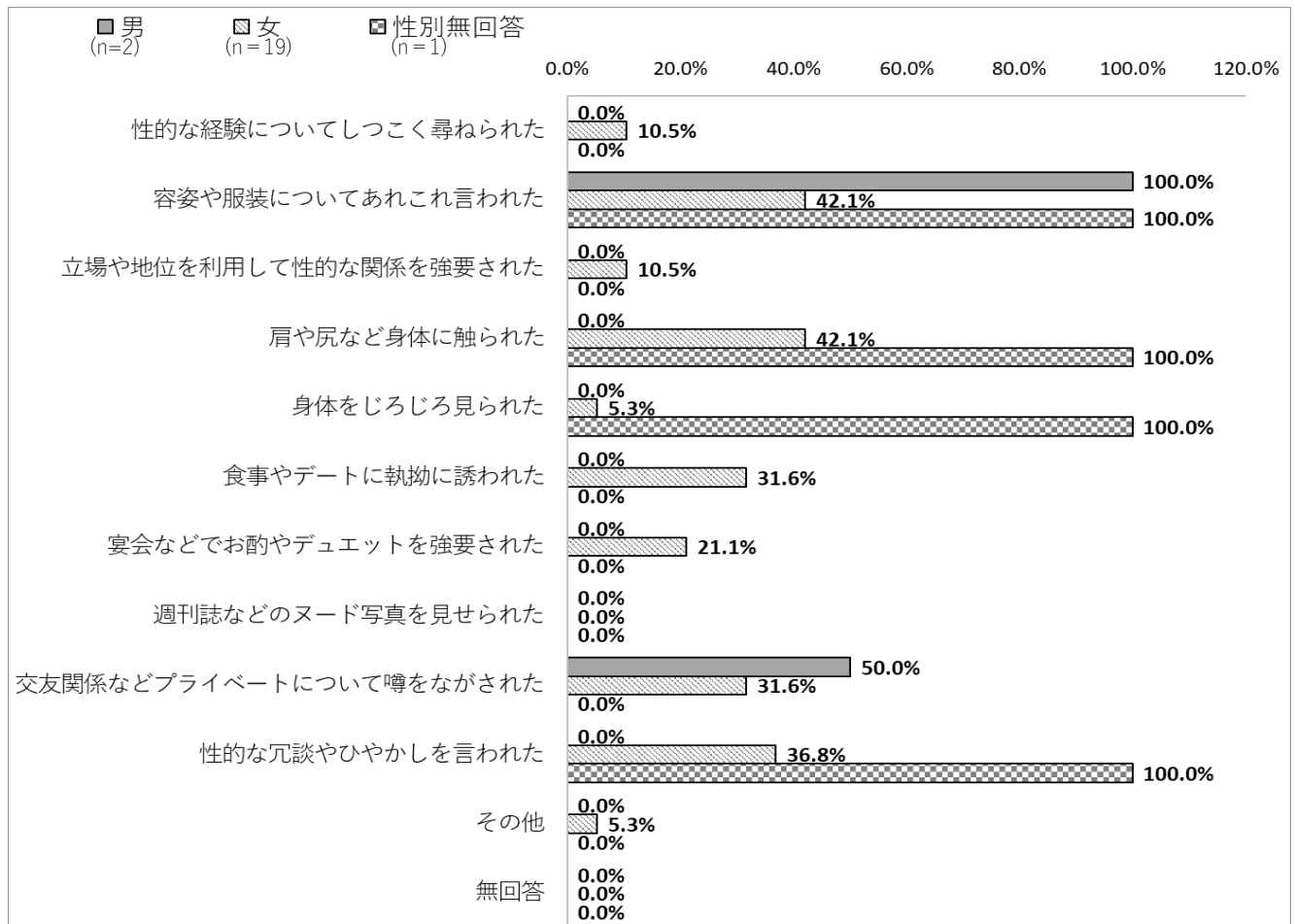


【男女別】

“容姿や服装についてあれこれ言われた”と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“肩や尻など身体に触られた”と回答した割合は、男性が 0 に対し、女性は約 4 割となっている。

【年代別】

“容姿や服装についてあれこれ言われた”と回答した割合は、20 代と 60 代で 100%となっている。



	性的な経験についてしつこく尋ねられた	容姿や服装についてあれこれ言われた	立場や地位を利用して性的な関係を強要された	肩や尻など身体に触られた	身体をじろじろ見られた	食事やデートに執拗に誘われた
10代 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20代 (n=3)	33.3%	100.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%
30代 (n=3)	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
40代 (n=4)	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
50代 (n=7)	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%
60代 (n=4)	0.0%	100.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%

	宴会などでお酌やデュエットを強要された	週刊誌などのヌード写真を見せられた	交友関係などプライベートについて噂をながされた	性的な冗談やひやかしを言われた	その他	無回答
10代 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代 (n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
30代 (n=3)	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
40代 (n=4)	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
50代 (n=7)	28.6%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
60代 (n=4)	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%

問 22. DVが社会問題になっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか。

次の1～4の中からあてはまるものを選んで○をしてください。

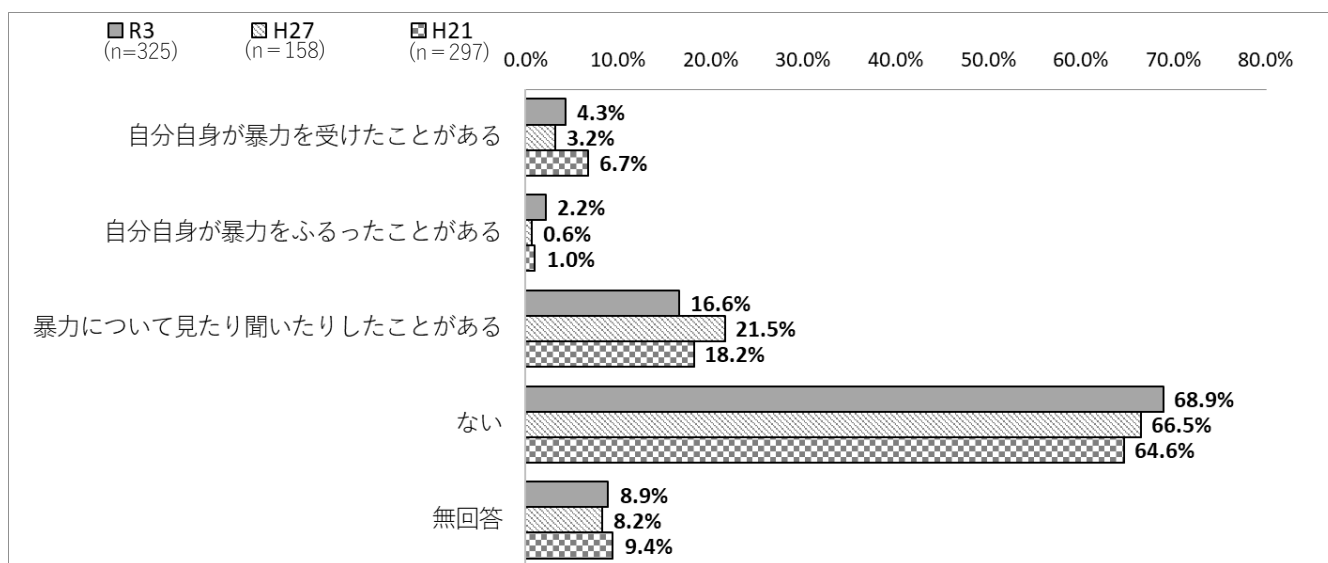
【全体】

“自分自身が暴力を受けたことがある”と回答した割合が4.3%、“自分自身が暴力をふるったことがある”が2.2%、“暴力について見たり聞いたりしたことがある”が16.6%、“ない”が68.9%となっている。

【過去数値との比較】

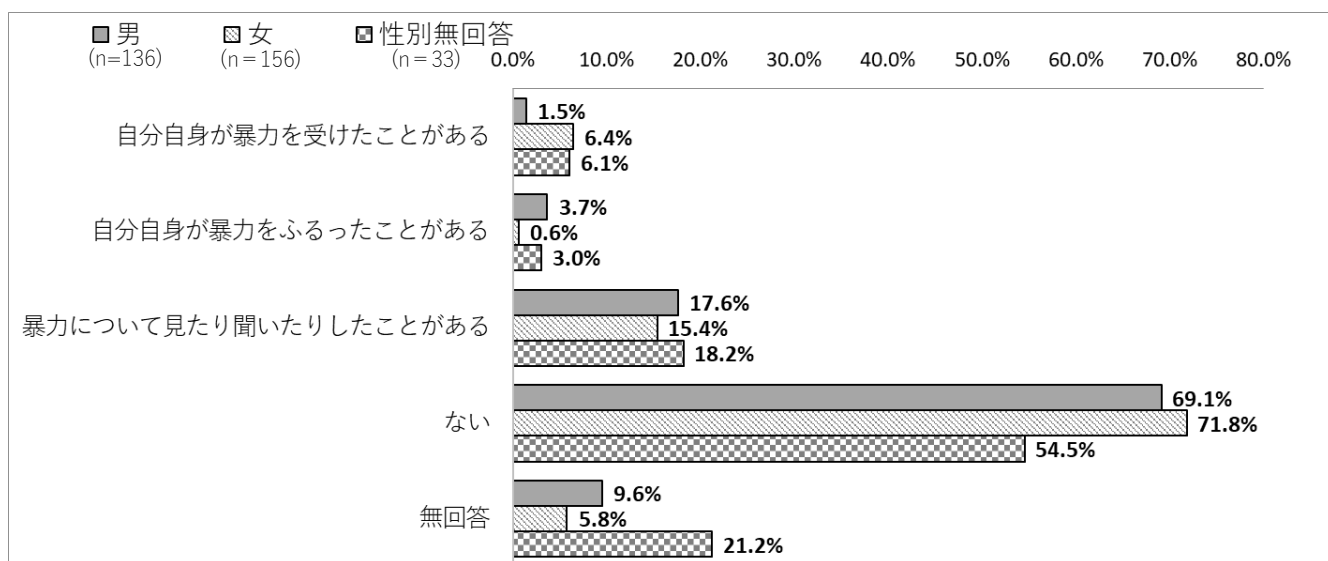
“自分自身が暴力を受けたことがある”と回答した割合が、平成27年では減少していたが、今回の調査では増加している。

(R3 : 4.3%、H27 : 3.2%、H21 : 6.7%)



【男女別】

“自分自身が暴力を受けたことがある”と回答した割合は、男性より女性のほうが高い。



【年代別】

“自分自身が暴力を受けたことがある”と回答した割合は、60代が最も高い。

	自分自身が暴力を受けたことがある	自分自身が暴力をふるったことがある	暴力について見た り聞いたりしたこと がある	ない	無回答
10代 (n=19)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代 (n=28)	3.6%	0.0%	10.7%	78.6%	7.1%
30代 (n=36)	2.8%	0.0%	25.0%	72.2%	0.0%
40代 (n=45)	4.4%	4.4%	24.4%	66.7%	2.2%
50代 (n=62)	4.8%	3.2%	19.4%	72.6%	0.0%
60代 (n=71)	8.5%	0.0%	16.9%	64.8%	11.3%
70代以上 (n=57)	1.8%	5.3%	8.8%	57.9%	28.1%
年齢無回答 (n=7)	0.0%	0.0%	28.6%	42.9%	28.6%

※問 22 で 1 「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 23. その内容はどんなものだったのでしょうか。

次の 1～10の中から あてはまるものすべて選んで○をしてください。

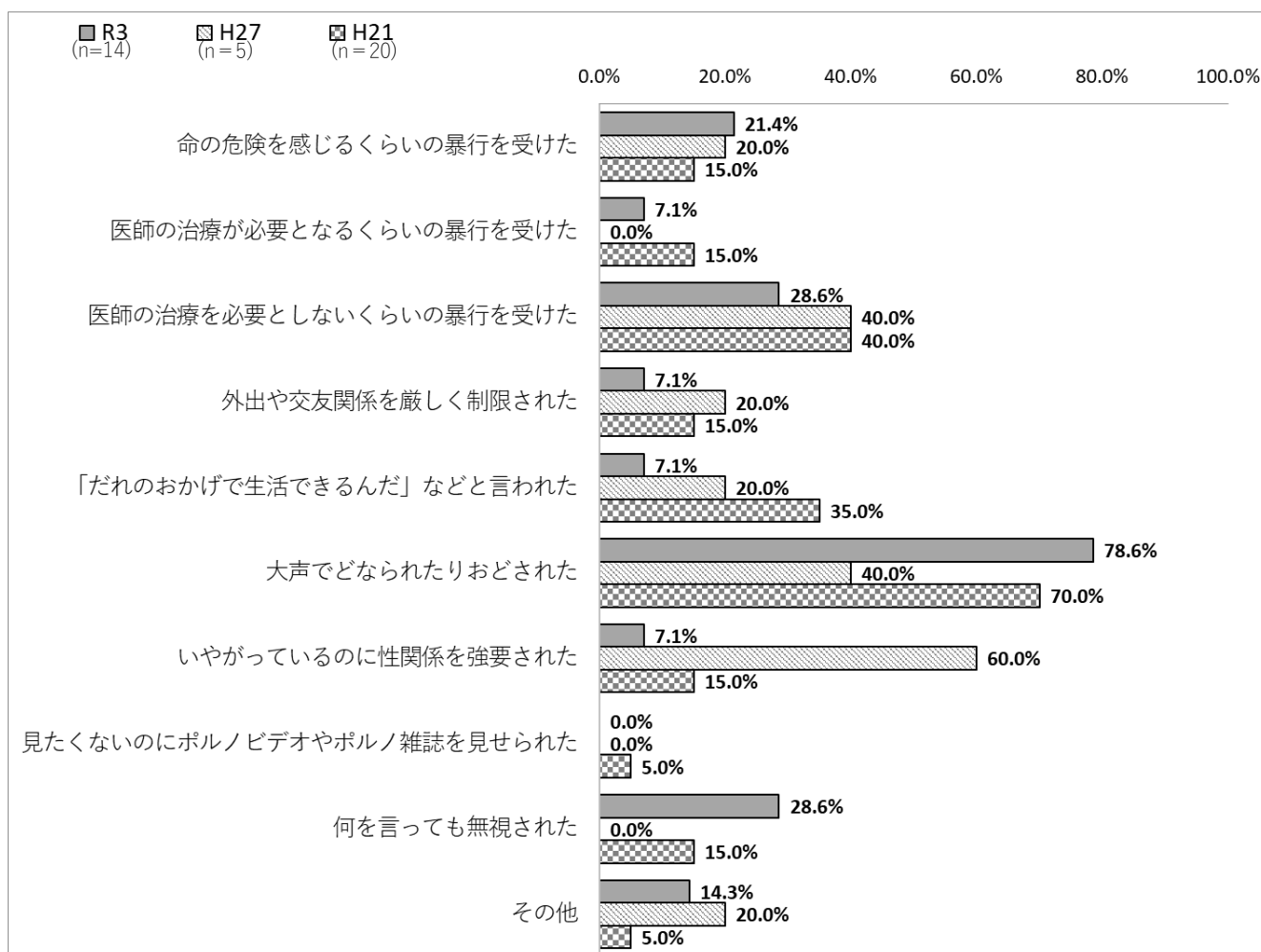
【全体】

“大声でどなられたりおどされた”が 78.6%と最も高く、次いで“医師の治療を必要としないくらい
の暴行を受けた”、“何を言っても無視された”が 28.6%、“命の危険を感じるくらいの暴行を受け
た”が 21.4%と続いている。

【過去数値との比較】

“命の危険を感じるくらいの暴行を受けた”と回答した割合が増加している。

(R3 : 21.4%、H27 : 20.0%、H21 : 15.0%)

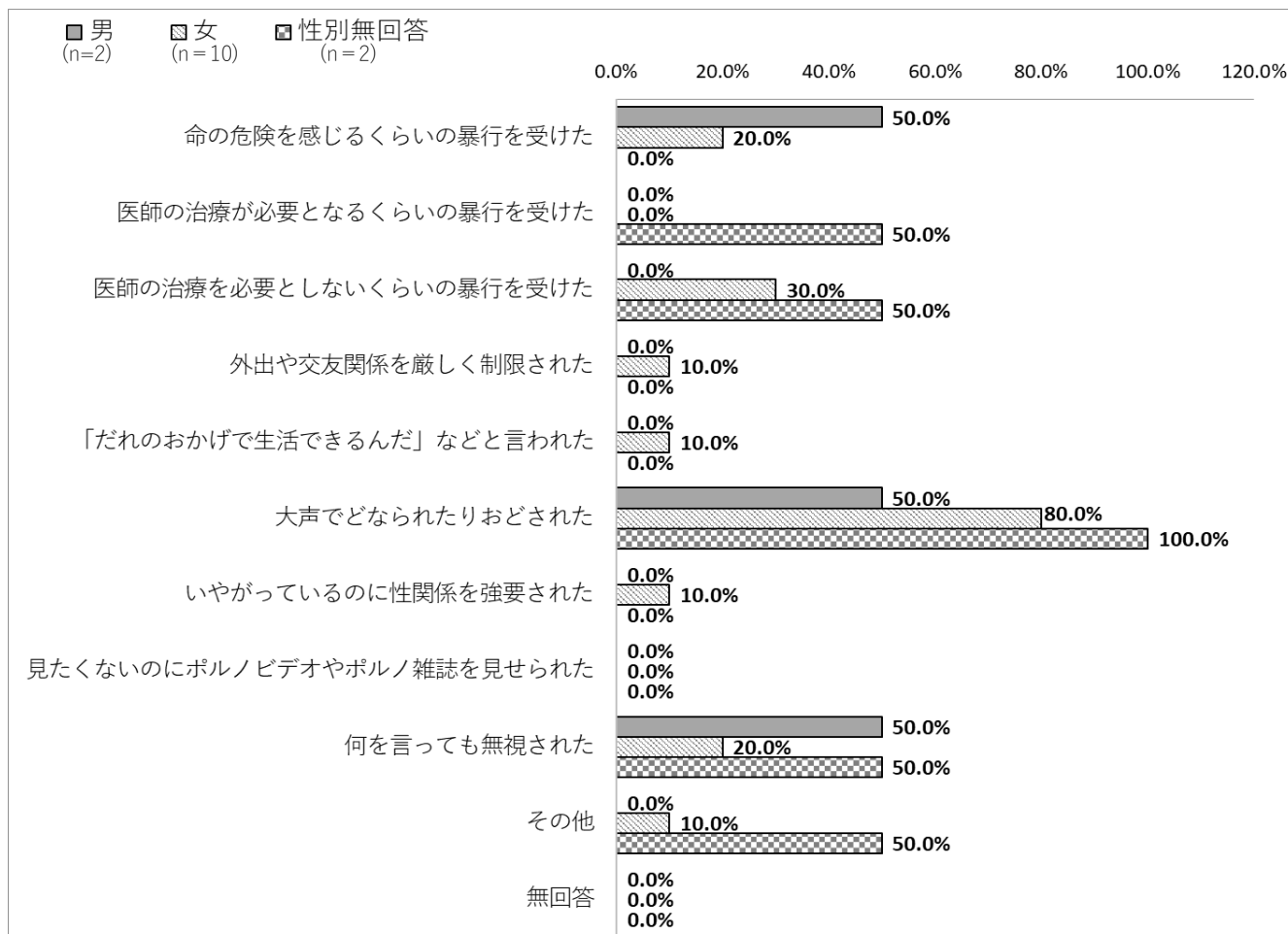


【男女別】

“命の危険を感じるくらいの暴行を受けた”と回答した割合は、女性より男性の方が高く、“大声で
どなられたりおどされた”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“大声でどなられたりおどされた”と回答した割合は、30代以上の年代で6割を超えている。



	命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	医師の治療が必要となるくらいの暴行を受けた	医師の治療を必要としないくらいの暴行を受けた	外出や交友関係を厳しく制限された	「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われた	大声でどなられたりおどされた
20代 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40代 (n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
50代 (n=3)	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%
60代 (n=6)	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	83.3%
70代以上 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

	いやがっているのに性関係を強要された	見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	何を言っても無視された	その他	無回答
20代 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
40代 (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50代 (n=3)	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
60代 (n=6)	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
70代以上 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※問 22 で 1 「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 24. 暴力を受けたことについて、誰かに相談しましたか。相談先はどこでしたか。

次の 1～8 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

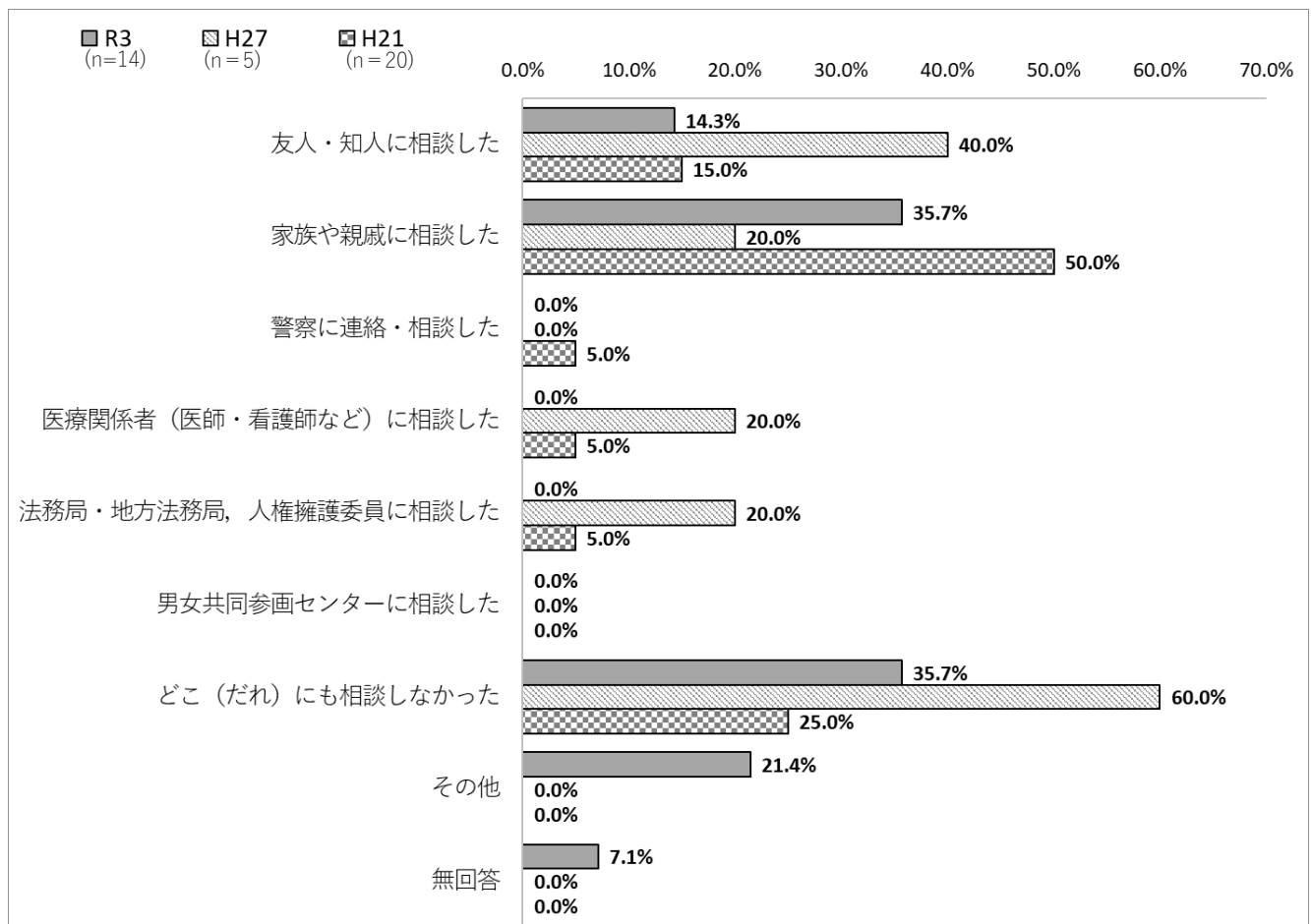
【全体】

“家族や親戚に相談した”、“どこ（だれ）にも相談しなかった”が 35.7%と最も高く、次いで“その他”が 21.4%、“友人・知人に相談した”が 14.3%と続いている。

【過去数値との比較】

“どこ（だれ）にも相談しなかった”と回答した割合が、平成 27 年と比べ減少している。

(R3 : 35.7%、H27 : 60.0%、H21 : 25.0%)

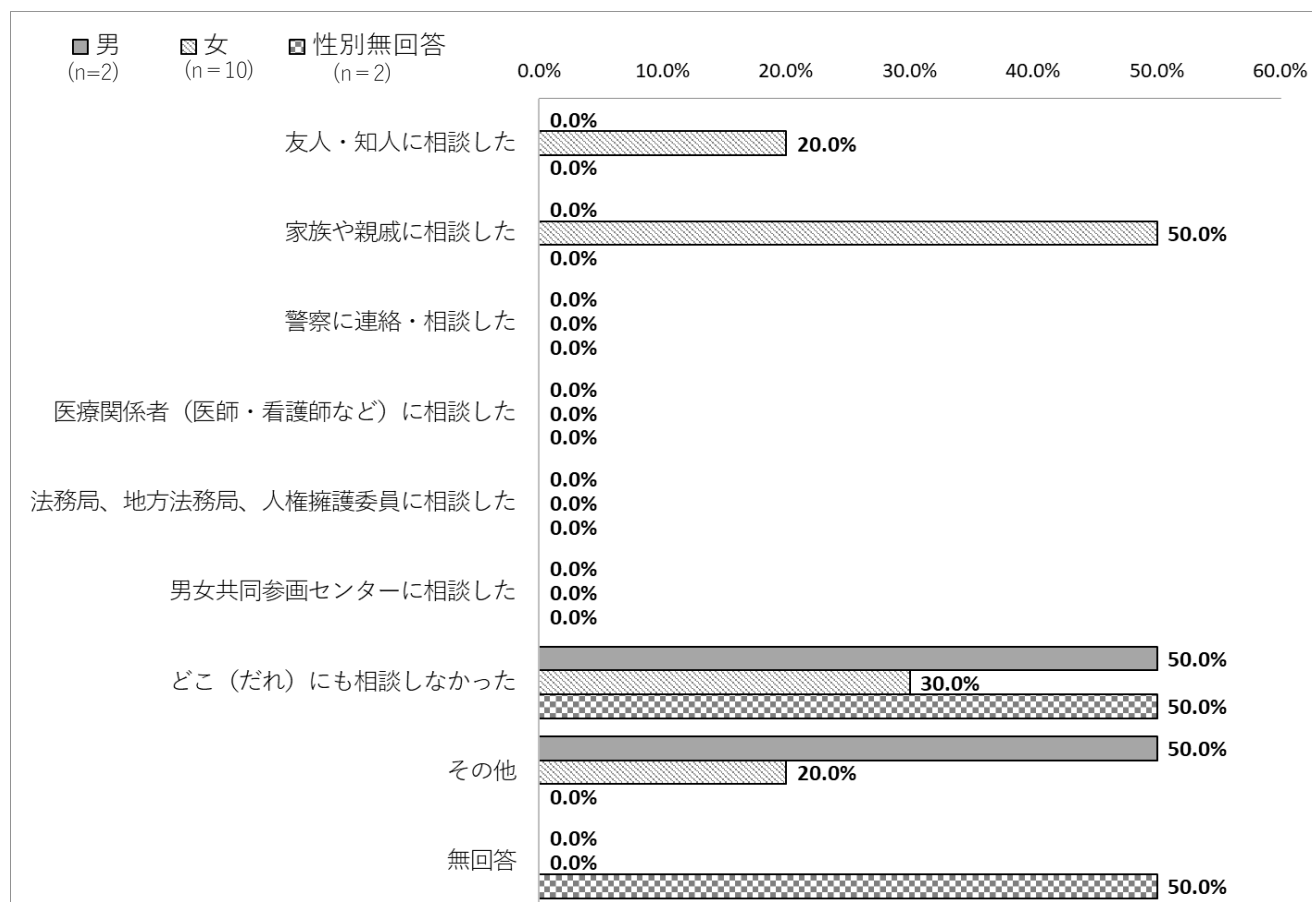


【男女別】

“どこ（だれ）にも相談しなかった”と回答した割合は、女性より男性の方が高い。

【年代別】

50 代と 60 代では、“どこ（だれ）にも相談しなかった”と回答した割合が 5 割を超えている。



	友人・知人に相談した	家族や親戚に相談した	警察に連絡・相談した	医療関係者（医師・看護師など）に相談した	法務局、地方法務局、人権擁護委員に相談した
20代 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代 (n=2)	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50代 (n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60代 (n=6)	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
70代以上 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

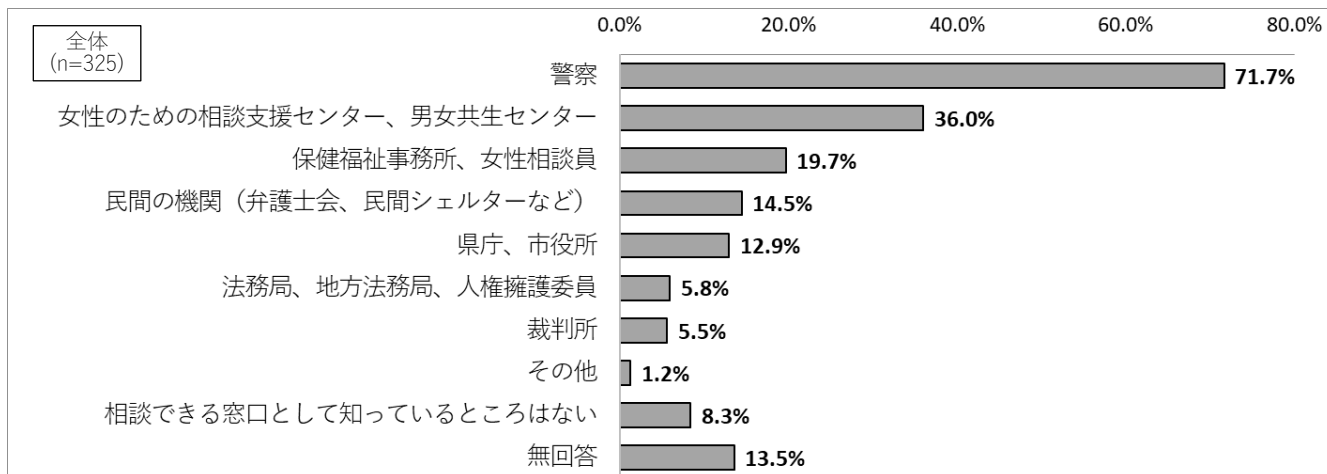
	男女共同参画センターに相談した	どこ（だれ）にも相談しなかった	その他	無回答
20代 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
40代 (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50代 (n=3)	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%
60代 (n=6)	0.0%	50.0%	16.7%	16.7%
70代以上 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 25. あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。次の１～９の中からあなたが知っているものをすべて選んで○をしてください。

(※令和３年度新設)

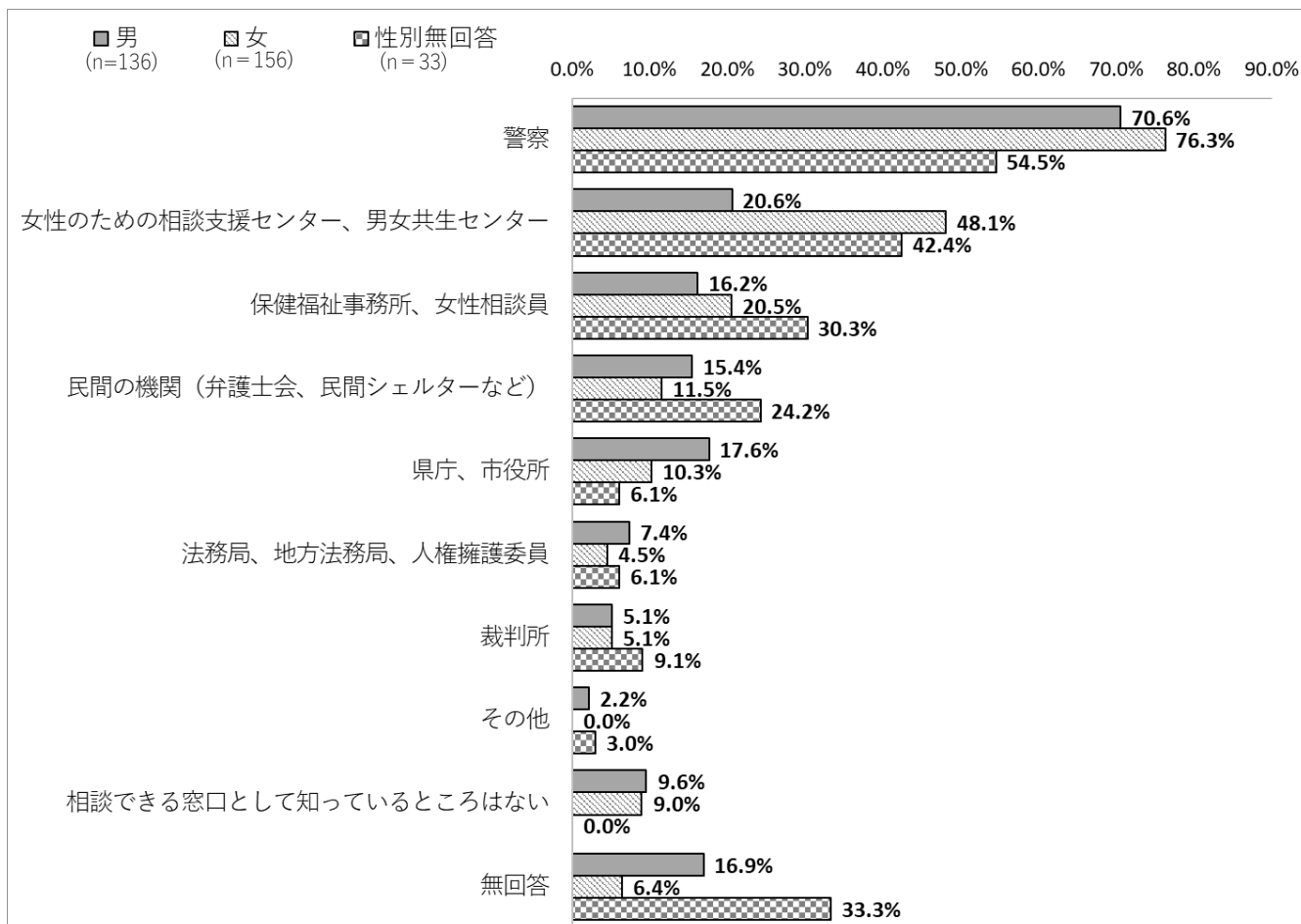
【全体】

“警察”と回答した割合が71.7%と最も高く、次いで“女性のための相談支援センター、男女共生センター”が36.0%、“保健福祉事務所、女性相談員”が19.7%と続いている。



【男女別】

男女ともに“警察”と回答した割合が最も高い。



【年代別】

60 代以下の年代では、“警察”と回答した割合が6 割を超えている。“相談できる窓口として知っているところはない”と回答した割合は、40 代が最も高い。

	警察	女性のための相談 支援センター、男 女共生センター	保健福祉事務所、 女性相談員	民間の機関（弁護 士会、民間シェル ターなど）	県庁、市役所
10 代 (n=19)	63. 2%	26. 3%	26. 3%	5. 3%	15. 8%
20 代 (n=28)	82. 1%	28. 6%	14. 3%	10. 7%	17. 9%
30 代 (n=36)	83. 3%	41. 7%	11. 1%	8. 3%	11. 1%
40 代 (n=45)	77. 8%	57. 8%	15. 6%	13. 3%	8. 9%
50 代 (n=62)	90. 3%	35. 5%	25. 8%	24. 2%	22. 6%
60 代 (n=71)	66. 2%	33. 8%	22. 5%	14. 1%	12. 7%
70 代以上 (n=57)	45. 6%	24. 6%	17. 5%	14. 0%	3. 5%
年齢無回答 (n=7)	57. 1%	42. 9%	28. 6%	14. 3%	14. 3%

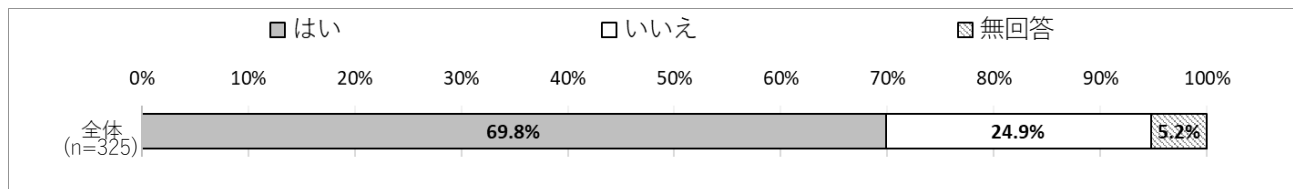
	法務局、地方法務 局、人権擁護委員	裁判所	その他	相談できる窓口と して知っていると ころはない	無回答
10 代 (n=19)	10. 5%	15. 8%	0. 0%	10. 5%	5. 3%
20 代 (n=28)	0. 0%	10. 7%	0. 0%	3. 6%	10. 7%
30 代 (n=36)	2. 8%	2. 8%	0. 0%	8. 3%	2. 8%
40 代 (n=45)	2. 2%	4. 4%	0. 0%	13. 3%	2. 2%
50 代 (n=62)	6. 5%	8. 1%	3. 2%	3. 2%	3. 2%
60 代 (n=71)	5. 6%	4. 2%	1. 4%	9. 9%	18. 3%
70 代以上 (n=57)	10. 5%	1. 8%	1. 8%	8. 8%	36. 8%
年齢無回答 (n=7)	14. 3%	0. 0%	0. 0%	14. 3%	28. 6%

(11) 性的マイノリティについて

問 26. あなたは、性的マイノリティ（またはL G B T等）という言葉を知っていますか。
 1、2 どちらかに○をしてください。 (※令和3年度新設)

【全体】

“はい”と回答した割合が69.8%、“いいえ”と回答した割合が24.9%となっている。

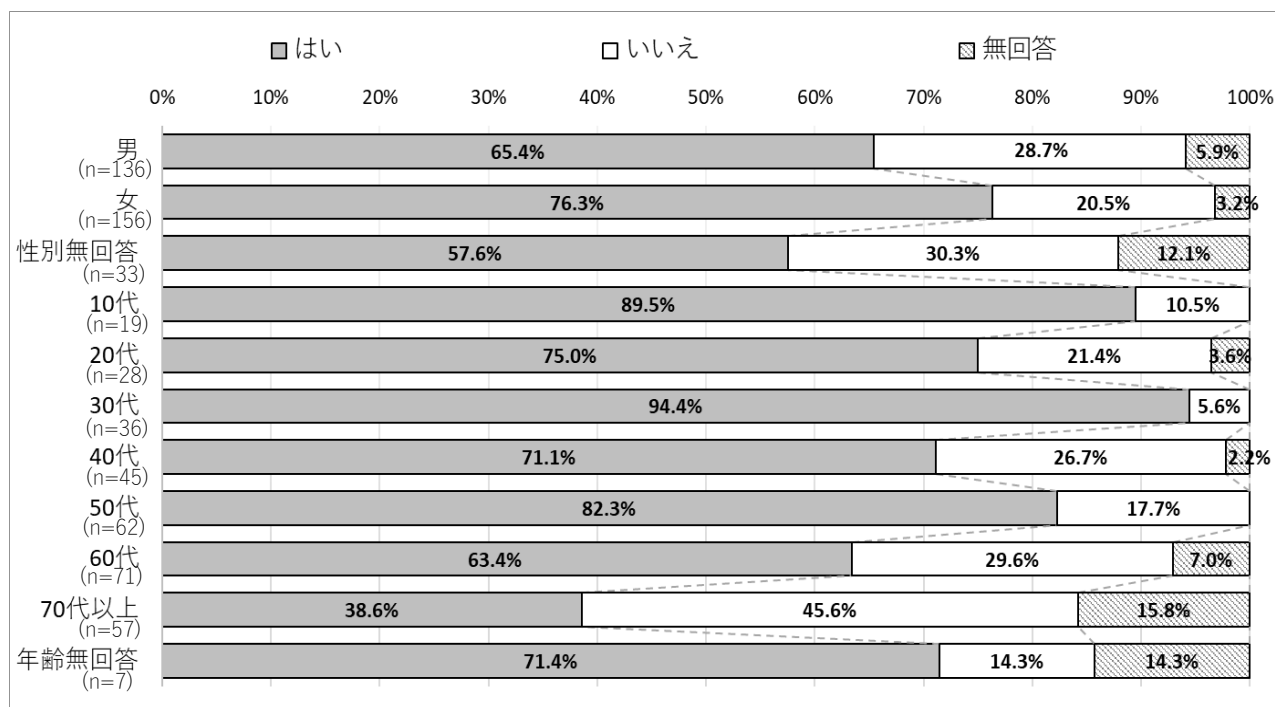


【男女別】

“はい”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年齢別】

50代以下では、“はい”と回答した割合が7割を超えているが、70代以上では4割以下となっている。



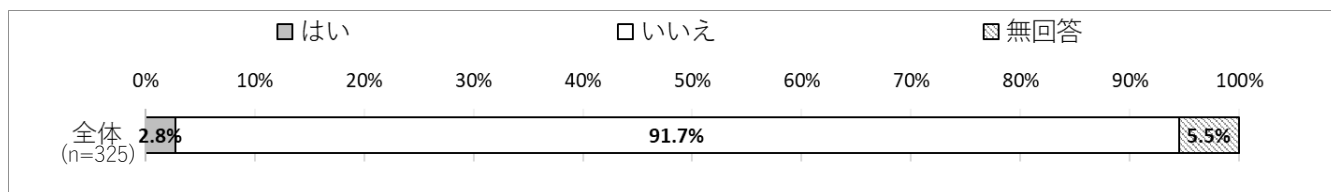
問 27. あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。

1、2 どちらかに○をしてください。

(※令和3年度新設)

【全体】

“はい” と回答した割合が 2.8%、“いいえ” と回答した割合が 91.7%となっている。



【男女別】

“はい” と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“はい” と回答した割合は、10 代が最も高い。



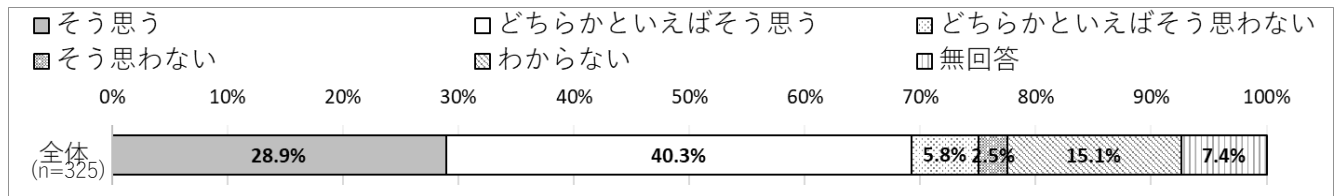
問 28. 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。

（※令和3年度新設）

【全体】

“どちらかと思う”と回答した割合が40.3%と最も高く、次いで“そう思う”が28.9%と、合わせて6割を超えている。

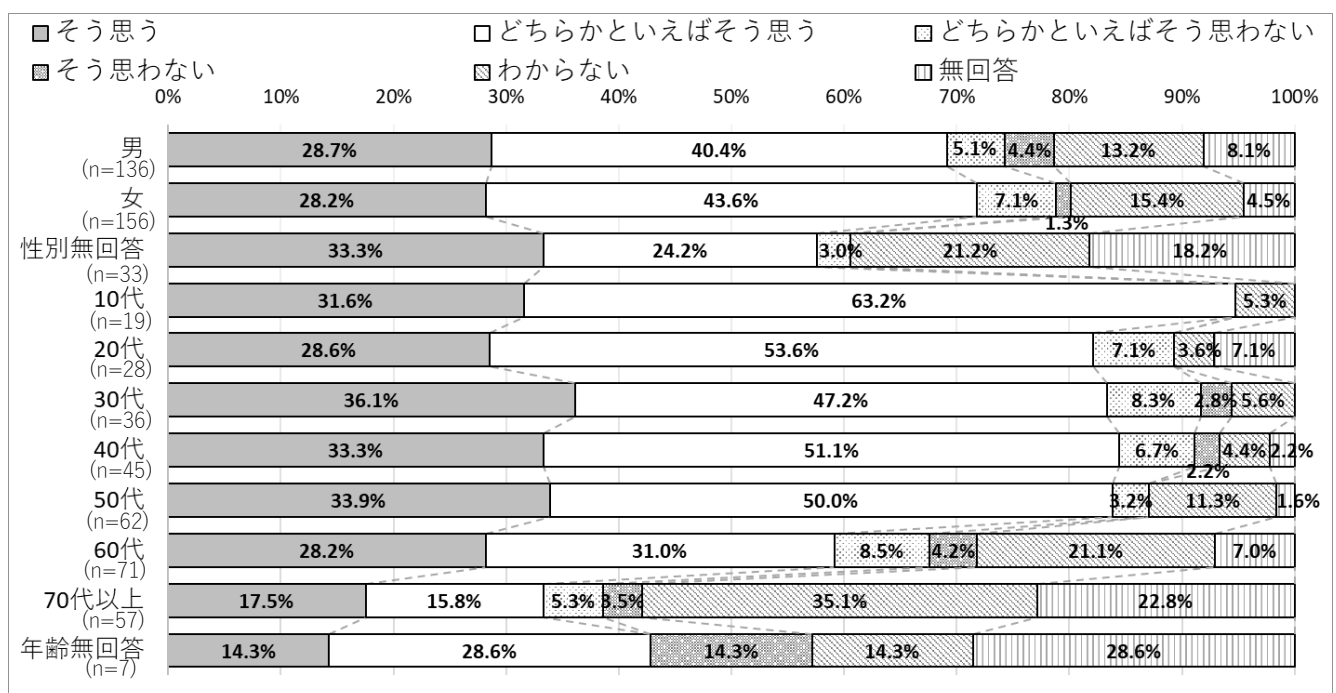


【男女別】

男女ともに“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が約7割となっている。

【年齢別】

50代以下の年代では、“そう思う”又は“どちらかといえばそう思う”と回答した割合が8割以上を占めている。



※問 28 で、1「そう思う」または2「どちらかといえばそう思う」を回答した方にお聞きします。

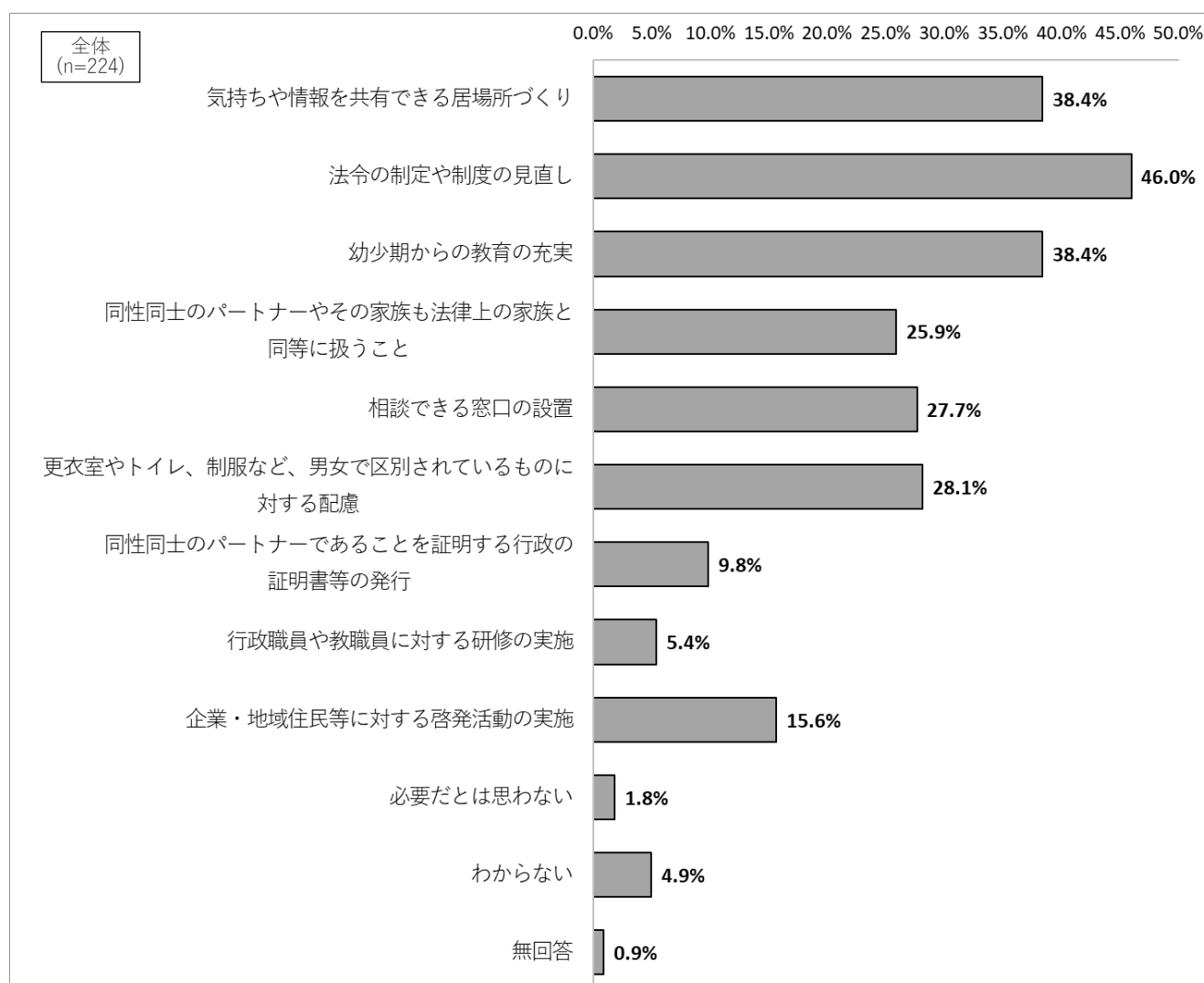
問 29. 性的マイノリティ（またはL G B T等）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

次の1～11の中から3つ以内で選んで○をしてください。

（※令和3年度新設）

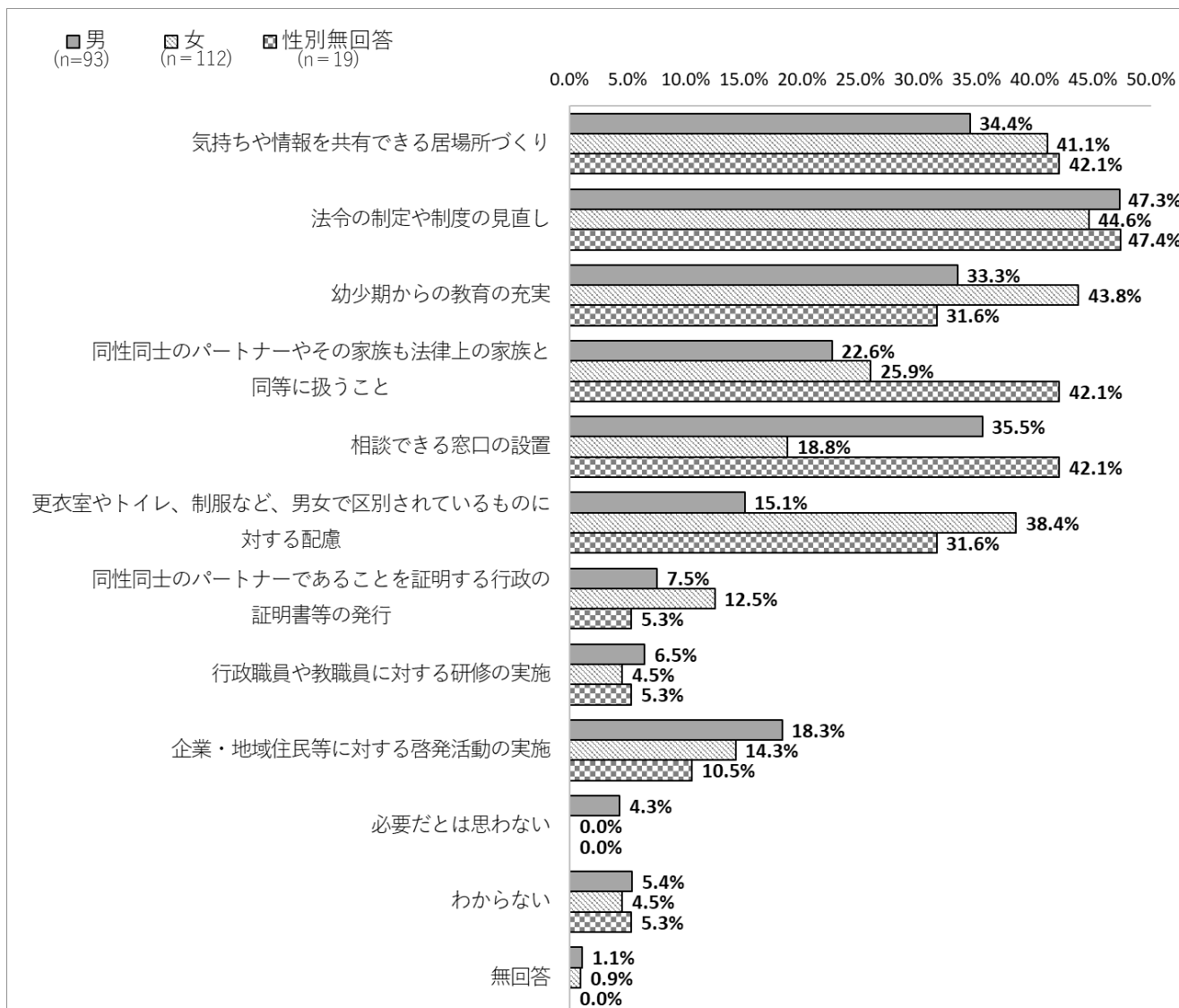
【全体】

“法令の制定や制度の見直し”と回答した割合が46.0%と最も高く、次いで“気持ちや情報を共有できる居場所づくり”、“幼少期からの教育の充実”が38.4%、“更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮”が28.1%と続いている。



【男女別】

男女ともに“法令の制定や制度の見直し”と回答した割合が最も高い。次いで、男性は“相談できる窓口の設置”、女性は“幼少期からの教育の充実”が高くなっている。



【年代別】

60 代以下の年代では、“法令の制定や制度の見直し”と回答した割合が4 割を超えており、30 代が最も高く、7 割となっている。

	気持ちや情報を共有できる居場所づくり	法令の制定や制度の見直し	幼少期からの教育の充実	同性同士のパートナーやその家族も法律上の家族と同等に扱うこと	相談できる窓口の設置	更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮
10 代 (n=18)	38. 9%	44. 4%	44. 4%	33. 3%	33. 3%	16. 7%
20 代 (n=22)	54. 5%	54. 5%	22. 7%	27. 3%	27. 3%	36. 4%
30 代 (n=30)	36. 7%	70. 0%	40. 0%	23. 3%	13. 3%	43. 3%
40 代 (n=38)	42. 1%	47. 4%	42. 1%	21. 1%	34. 2%	28. 9%
50 代 (n=52)	34. 6%	40. 4%	40. 4%	26. 9%	26. 9%	21. 2%
60 代 (n=42)	38. 1%	40. 5%	35. 7%	28. 6%	28. 6%	28. 6%
70 代以上 (n=19)	31. 6%	21. 1%	36. 8%	26. 3%	31. 6%	21. 1%
年齢無回答 (n=3)	0. 0%	66. 7%	66. 7%	0. 0%	33. 3%	33. 3%

	同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行	行政職員や教職員に対する研修の実施	企業・地域住民等に対する啓発活動の実施	必要だとは思わない	わからない	無回答
10 代 (n=18)	22. 2%	16. 7%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
20 代 (n=22)	4. 5%	4. 5%	9. 1%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
30 代 (n=30)	13. 3%	0. 0%	13. 3%	3. 3%	3. 3%	0. 0%
40 代 (n=38)	15. 8%	5. 3%	13. 2%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
50 代 (n=52)	3. 8%	5. 8%	19. 2%	1. 9%	3. 8%	1. 9%
60 代 (n=42)	11. 9%	0. 0%	21. 4%	4. 8%	7. 1%	2. 4%
70 代以上 (n=19)	0. 0%	15. 8%	15. 8%	0. 0%	26. 3%	0. 0%
年齢無回答 (n=3)	0. 0%	0. 0%	66. 7%	0. 0%	0. 0%	0. 0%

(12) 防災について

問 30. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。

次の 1～5 の中から 1 つだけ 選んで○をしてください。

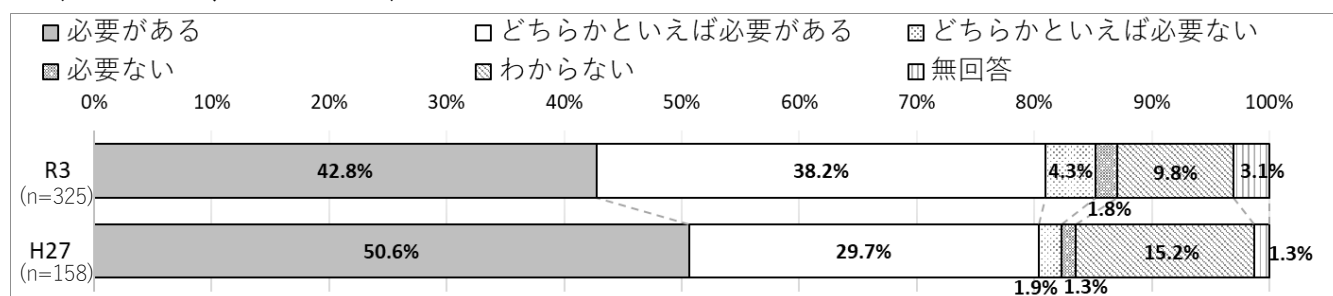
【全体】

“必要がある”と回答した割合が 42.8%と最も高く、次いで“どちらかといえば必要がある”が 38.2%と、合わせて 8 割を超えている。

【過去数値との比較】

いずれも“必要がある”又は“どちらかといえば必要がある”と回答した割合が 8 割を超えている。

(R3 : 81.0%、H27 : 80.3%)

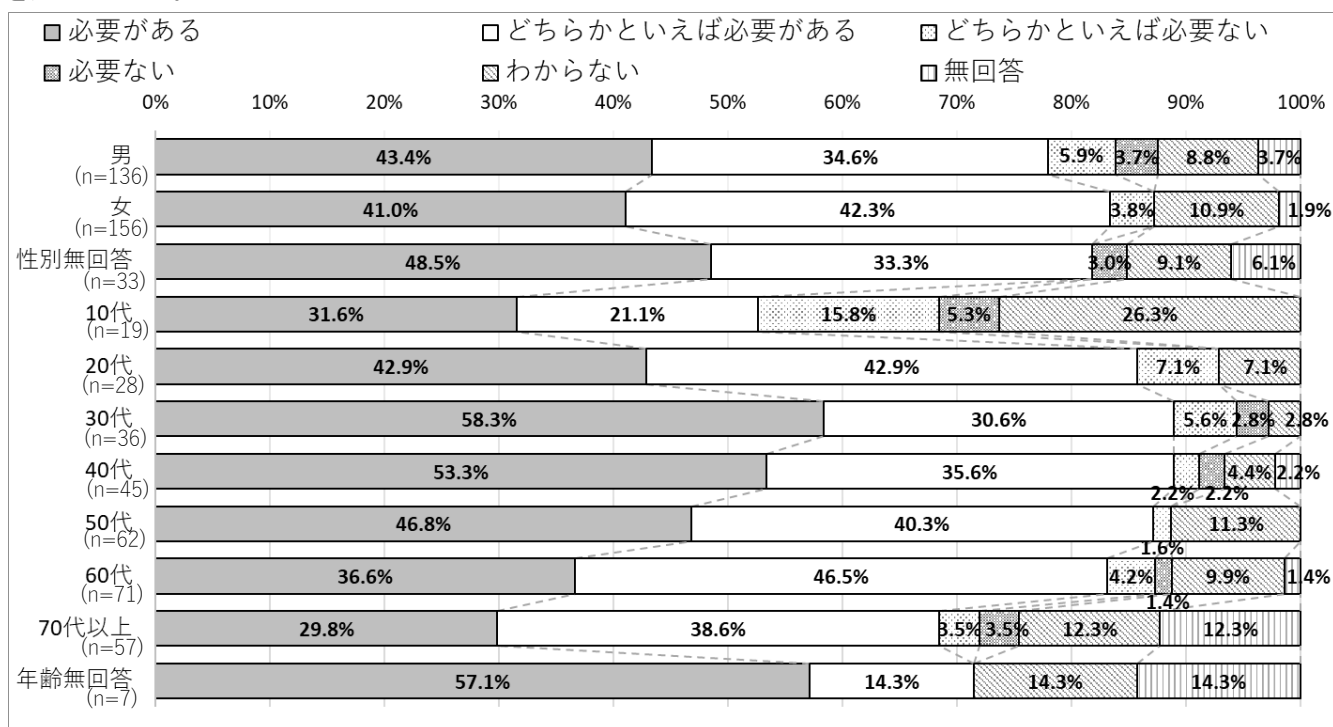


【男女別】

“必要がある”又は“どちらかといえば必要がある”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

20 代から 70 代以上では、“必要がある”又は“どちらかといえば必要がある”と回答した割合が 6 割を超えている。



※問 30 で 1「必要がある」または 2「どちらかといえば必要がある」と答えられた方にお聞きします。

問 31. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。

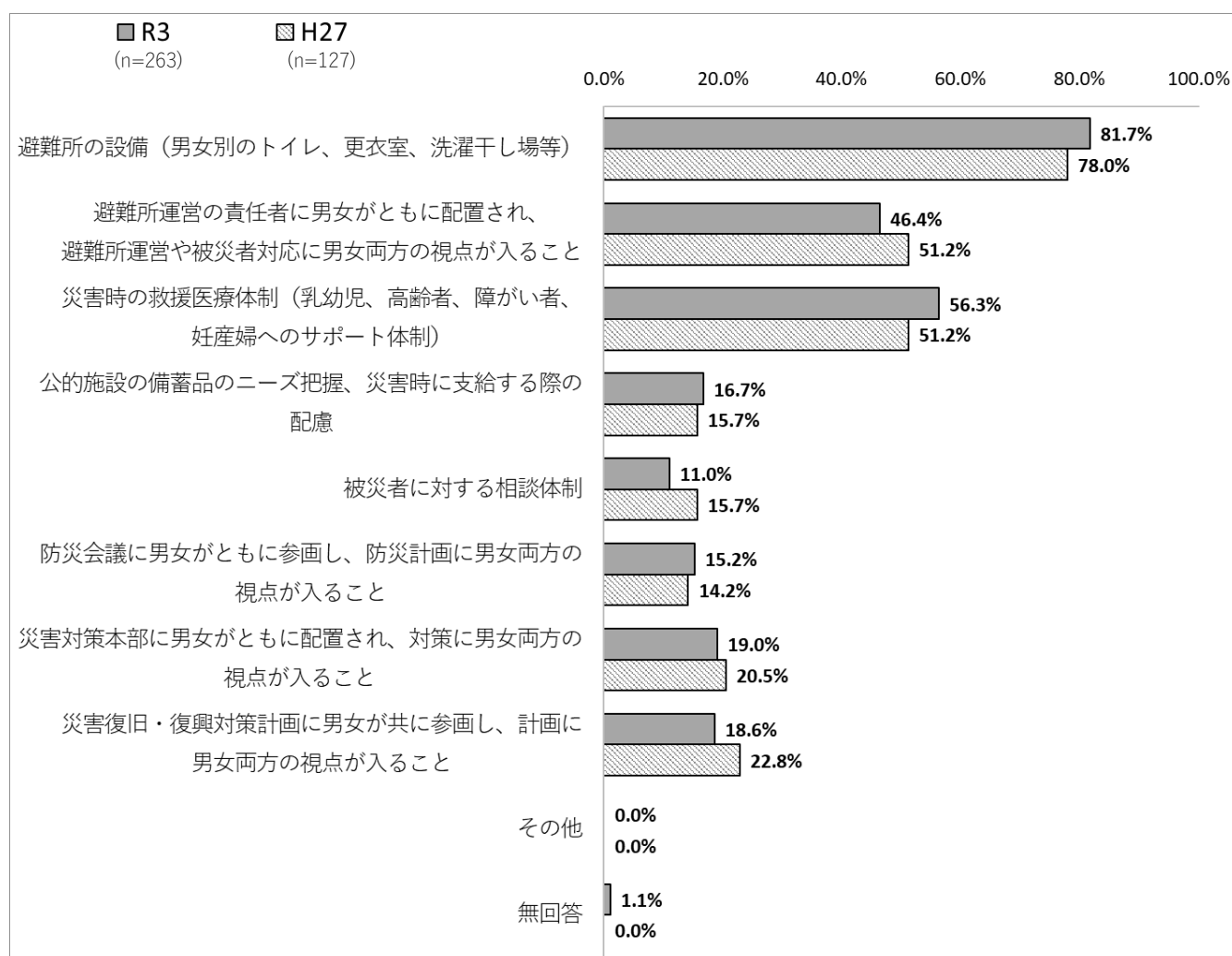
次の 1～9の中から3つ以内で選んで○をしてください。

【全体】

“避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等）”と回答した割合が、81.7%と最も高く、次いで“災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）”が 56.3%、“避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること”が 46.4%と続いている。

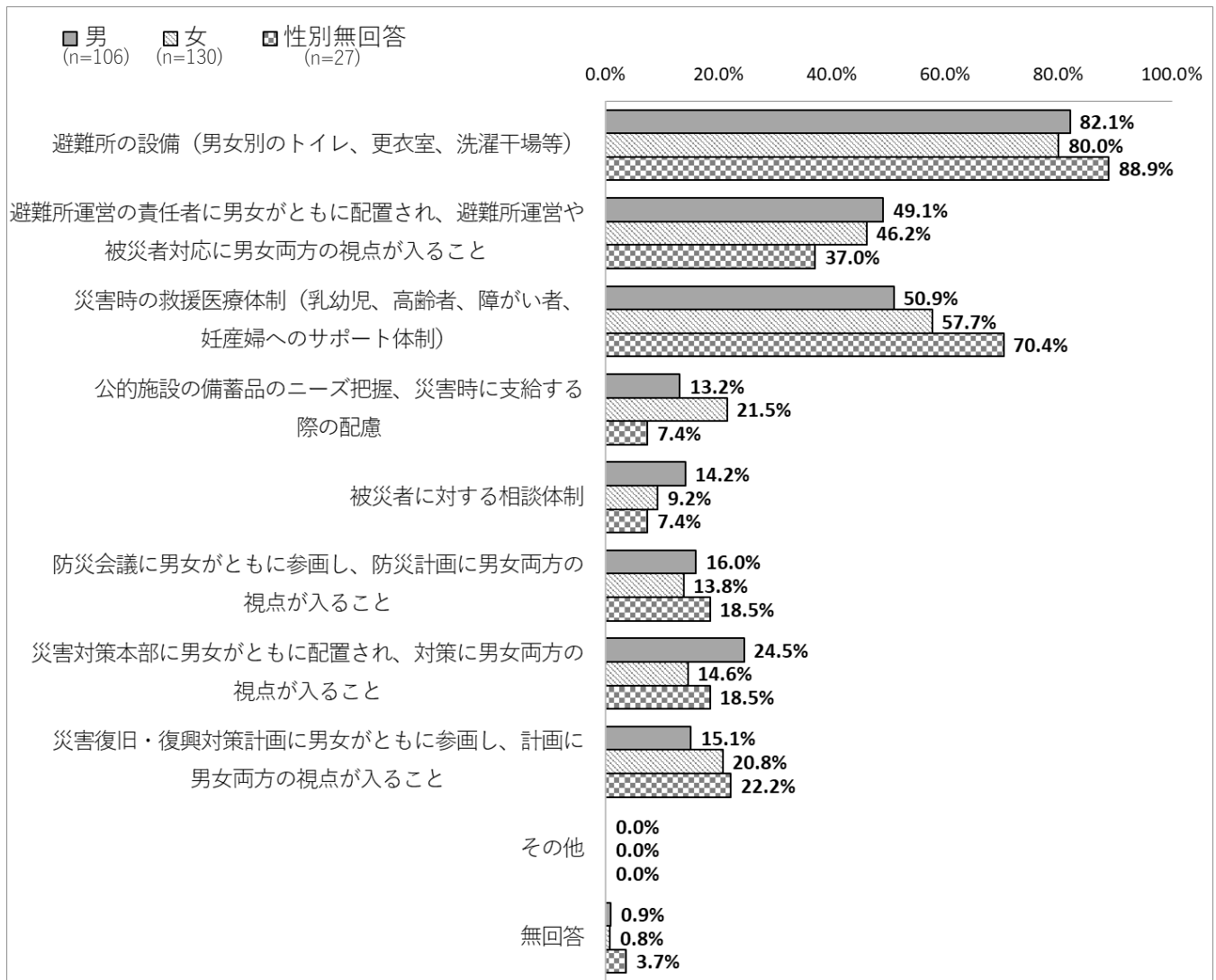
【過去数値との比較】

平成 27 年においても“避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等）”と回答した割合が最も高く、今回の調査では増加している。（R3：81.7%、H27：78.0%）



【男女別】

男女ともに“避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等）”と回答した割合が最も高く、次いで“災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）”が高くなっている。



【年代別】

全ての年代で、“避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等）”と回答した割合が7割を超えている。

	避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等)	避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制)	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制
10代(n=10)	70.0%	50.0%	50.0%	20.0%	10.0%
20代(n=24)	83.3%	50.0%	58.3%	12.5%	12.5%
30代(n=32)	81.3%	40.6%	62.5%	31.3%	9.4%
40代(n=40)	87.5%	55.0%	42.5%	10.0%	5.0%
50代(n=54)	85.2%	50.0%	50.0%	16.7%	9.3%
60代(n=59)	79.7%	44.1%	61.0%	18.6%	13.6%
70代以上(n=39)	74.4%	38.5%	66.7%	10.3%	15.4%
年齢無回答(n=5)	100.0%	40.0%	60.0%	20.0%	20.0%

	防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること	災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること	その他	無回答
10代(n=10)	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%
20代(n=24)	8.3%	16.7%	12.5%	0.0%	0.0%
30代(n=32)	15.6%	15.6%	18.8%	0.0%	0.0%
40代(n=40)	15.0%	27.5%	17.5%	0.0%	0.0%
50代(n=54)	14.8%	18.5%	22.2%	0.0%	0.0%
60代(n=59)	16.9%	18.6%	20.3%	0.0%	3.4%
70代以上(n=39)	17.9%	20.5%	17.9%	0.0%	2.6%
年齢無回答(n=5)	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%

(13) 行政の役割について

問 32. 男女共同参画社会の実現のため、行政に対してどのようなことを要望しますか。

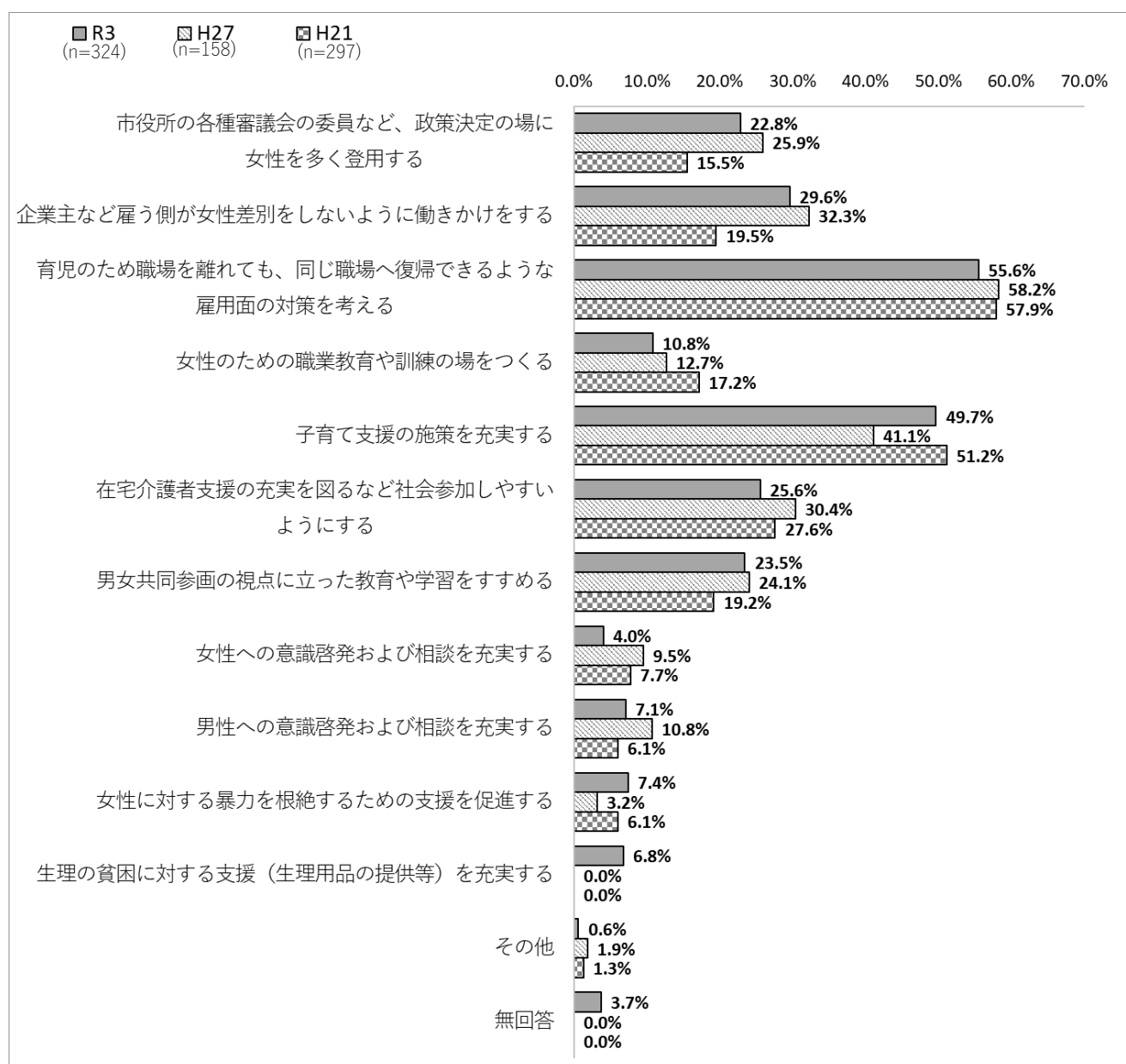
次の 1～11 の中から **3つ以内** で選んで○をしてください。

【全体】

“育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”と回答した割合が 55.6%と最も高く、次いで“子育て支援の施策を充実する”が 49.7%、“企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする”が 29.6%と続いている。

【過去数値との比較】

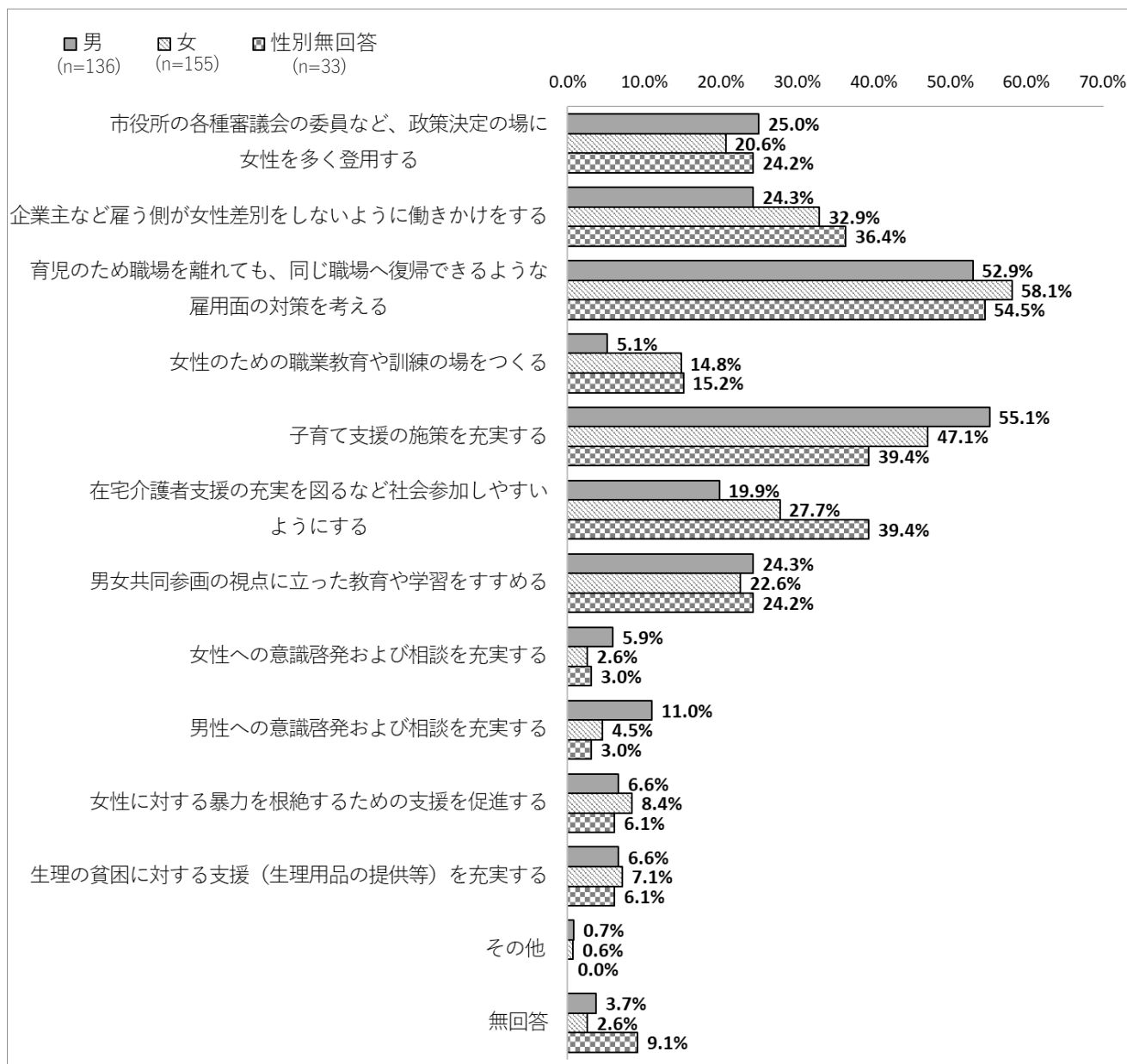
いずれも“育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”と回答した割合が最も高い。(R3：55.6%、H27：58.2%、H21：57.9%)



※選択肢“生理の貧困に対する支援（生理用品の提供等）を充実する”は令和3年から追加

【男女別】

女性は“育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”と回答した割合が最も高く、男性は“子育て支援の施策を充実する”が最も高い。



【年代別】

50 代以下の年代では、“育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”と回答した割合が5割を超えている。

	市役所の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する	企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする	育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える	女性のための職業教育や訓練の場をつくる	子育て支援の施策を充実する	在宅介護者支援の充実を図るなど社会参加しやすいようにする	男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる
10代 (n=19)	5.3%	42.1%	57.9%	5.3%	52.6%	15.8%	21.1%
20代 (n=28)	21.4%	25.0%	67.9%	10.7%	64.3%	3.6%	28.6%
30代 (n=34)	22.2%	25.0%	66.7%	13.9%	66.7%	22.2%	22.2%
40代 (n=44)	13.6%	25.0%	61.4%	13.6%	50.0%	29.5%	20.5%
50代 (n=62)	27.4%	29.0%	59.7%	12.9%	37.1%	25.8%	14.5%
60代 (n=71)	25.4%	32.4%	47.9%	9.9%	54.9%	35.2%	32.4%
70代以上 (n=71)	28.1%	28.1%	47.4%	8.8%	40.4%	29.8%	24.6%
年齢無回答 (n=7)	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%

	女性への意識啓発および相談を充実する	男性への意識啓発および相談を充実する	女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する	生理の貧困に対する支援（生理用品の提供等）を充実する	その他	無回答
10代 (n=19)	5.3%	5.3%	5.3%	21.1%	0.0%	0.0%
20代 (n=28)	3.6%	3.6%	3.6%	17.9%	0.0%	3.6%
30代 (n=34)	0.0%	8.3%	5.6%	8.3%	0.0%	0.0%
40代 (n=44)	2.3%	2.3%	9.1%	6.8%	0.0%	2.3%
50代 (n=62)	3.2%	9.7%	6.5%	3.2%	3.2%	0.0%
60代 (n=71)	5.6%	4.2%	8.5%	1.4%	0.0%	1.4%
70代以上 (n=71)	5.3%	12.3%	10.5%	7.0%	0.0%	10.5%
年齢無回答 (n=7)	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%

Ⅲ 各設問の自由回答記述内容

※明らかな誤字・脱字の修正を除き、原文のまま掲載。

問 6. 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- 育児・介護制度の充実した企業の誘致（男性、20代）
- 制度があっても活用できない。（女性、50代）
- 育児、介護休職すると収入が大幅に減る。休職しても収入が減らない様にする。（男性、50代）

問 9. あなたが、もし、援助や介護が必要になったら、どうしたいと思いますか。

- 程度による。（男性、10代）
- 家族の意思を尊重する。（男性、10代）
- できるだけ迷惑をかけず、夫と一緒に環境（女性、20代）
- 介護度によるので決められない。（女性、30代）
- 介護施設と自宅、出来る範囲で介護したい。（女性、50代）
- 一部分な軽度のうちは家族にお願いしたいが、重度になって来たら介護サービスを利用したい。（女性、50代）
- わからない。（女性、60代）
- うばすて山希望（男性、60代）
- 子の思うようにする。（性別無回答、70代以上）

問 10. あなたは、家族、親族のどなたに介護してもらいたいですか。

- 親（男性、10代）
- 兄弟（男性、60代）
- 出来るときにできる人であり、誰とは決めない。（男性、年齢無回答）

問 11. 女性の就労について、どれが望ましいと思いますか。

- それぞれの環境に応じて決断することが望ましい。（女性、10代）
- 仕事をするか家庭に専念するかはそれぞれ個人が選択することだと思う。そこに結婚や出産はあまり関係のないことのように感じる。（女性、20代）
- 出産後、女性が働かなくても生活できる収入があれば家事育児専念でも良いと思う。（女性、30代）
- 仕事をしたい時に仕事ができる。仕事を持つことを女子の意思で選択し働くことができる。（女性、30代）
- 個人による。（男性、30代）
- 女次第（男性、30代）
- 結婚、出産後も関係なく、仕事しやすい事が大切（女性、30代）
- 生涯を通じ仕事を持ち、産休育休等活用し夫婦で協力していく。（女性、40代）
- その人によって違うので人それぞれの考えでよい。（女性、40代）
- 生涯仕事をしても、家庭に専念しても、個人が思うようにするのが望ましい。（女性、40代）
- 女性の仕事内容、家庭の収入状況など、それぞれなので、上記からは選べない。ただ子供のことを考えると③がよいと思う。（男性、50代）
- 仕事を持つことは大事だが、どこで退職し再就職するかはケースバイケース（性別無回答、60代）
- それぞれの家庭環境に合わせるだけではないか。（男性、年齢無回答）

問 12. 職場での女性の地位向上のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- 教育が必要（女性、30代）
- 制度はあっても利用できない事の改善（女性、50代）
- 男性より優位に立ちたいとは思わない。（女性、50代）
- 企業（仕事）中心の生活が男女問わず、全ての人間の「生活の質」を低下させている事を自覚する。（女性、50代）
- 仕事の実績を上げれば男女関係ない。（男性、70代）
- 2に加える形で本人が何をやりたいか、どうしたいかなりたいのは何か。（男性、年齢無回答）

問 13. 女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いますか。

- 女性でも時給が高いなど。残業なしで定時で帰ることができて周りの目を気にすることがなく、気楽に帰れる。休める。（女性、20代）
- 海外を参考に良い制度をとり入れる。（女性、50代）
- 本人が働きたいかどうかが一番大きいのではないかと。（男性、年齢無回答）

※問 14 で 1 または 2 「(男性・女性が) 優遇されていると思う」と答えた方にお聞きします。

問 15. それは具体的にどのようなことですか。

（職場において、男性、又は女性が優遇されていると感じる内容）

- 大学を出た男性は特に有利。頭が良くても、仕事ができる、できないは人それぞれ。（女性、20代）

問 18. あなたが現在、関心のある活動は何ですか。

- 町内会、PTA、政治活動などやられている。（男性、40代）
- 消防団活動（男性、40代）
- 地域貢献（男性、40代）
- 生涯学習（女性、40代）
- 健康作り体操に参加すること。関心を持つこと。（女性、60代）
- 野菜作り（男性、60代）
- 年齢的無理（男性、70代）

問 19. あなたが、問 18 の活動に参加しようとするとき、障害となるものがありますか。

- 気持ち、時間の余裕がない。（男性、30代）
- きっかけの場がない。（男性、40代）
- コロナの時期のため、思うように動けない、行動範囲が狭くなっている。（女性、40代）
- 介護のため。（女性、50代）
- 年（男性、50代）
- 介護が忙しい。（女性、50代）
- 無職と高齢のため、関心はあるが活動に参加しようとは思わない。TVを見るだけで活動の方向をみている。（男性、60代）
- 参加者が少ない。（女性、60代）
- 体力がない。（女性、60代）
- 体力（男性、60代）
- グループ的に偏りすぎて地域活動を補助金でまかなおうとしているため、参加しないと仲間外れになりがちで重圧感がありすぎ。（性別無回答、60代）
- 健康問題（男性、70代）
- 介護（親）（女性、年齢無回答）
- コロナがとても気になる。（女性、年齢無回答）

※問 20 で 1 「自分自身が受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 21. その内容はどんなものだったのでしょうか。（セクシュアル・ハラスメントを受けた内容）

- 毎日長文で気持ち悪いメールが送られてきた。上司だとしても本当に気持ち悪い。ほぼストーカーだった。（女性、30代）

※問 22 で 1 「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 23. その内容はどんなものだったのでしょうか。（DVを受けた内容）

- 心理面なので。（女性、60代）
- 今までの経歴をバカにされ、集中的にののしられ、影である事ない事を言われてた。（性別無回答、60代）

※問 22 で 1 「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 24. 暴力を受けたことについて、誰かに相談しましたか。相談先はどこでしたか。

- 電話相談で相談した。（女性、30代）

問 25. あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。

- 友人（性別無回答、50代）

問 32. 男女共同参画社会の実現のため、行政に対してどのようなことを要望しますか。

- まずは行政の人間が、日本社会が「男性優位の社会」という事実を自覚する。（女性、50代）
- 高齢者のため、回答困難な項目が何か所かあった。社会全体が男女共同参画の実現を目指していない。中々難しい。（制度、考え、現状） そんな中で行政側も大変だと思うが、STEP by STEP の考えで、一人ひとりの意識を高め、根気強くやることが大事。伊達市役所の活動、充実を軸に頑張りたい。（男性、70代）

問 33. 男女共同参画社会づくりに向けて、ご自由にご意見をお書きください。

（家庭で、職場で、学校生活で、地域社会で、行政の対応についてなど）

【男女共同参画全般について】

- 個人や会社で男女共同参画社会づくりの活動をしているところに補助金や何らかの景品をあげる。何かもらえるなどなければやってくれるところは少ないと思う。（男性、20代）
- 若い世代については、男女平等の意識が比較的強いような気がする。上の世代はどうしても生きてきた環境でそういうものだと思っているため、職場でもそういうものだと強要されているように感じることもある。男女平等共同参画という言葉は浸透しつつも、なかなか実状と結びついていないのではないかと思う。（男性、20代）
- 何に対しても相手を思いやる心遣いを幼少の頃から親が、先生が周りの皆が教えることによって少しでも社会が良くなってほしい。（女性、30代）
- 問6の1の選択肢を実現することが一つのゴールだと思いますが、現状では非常に困難です。ゴールを達成する為に、より踏み込んで、県や国をリードする政策提言や施策をし、市民の意識改革を通じて、だれにも優しく住みよい伊達市を創造して下さい。（男性、40代）
- 一人ひとりの豊かな人生を送るために、仕事、家族、地域社会など様々な活動を希望に沿った形で展開、向上できるように。
男女の人権の尊重・社会における制度・政策案共同参画・家庭生活や他の活動の両立・国際的協調（女性、40代）
- 男だからとか、女だからとかではなくそれぞれのやれることをやっていくことが必要だと思う。女性でも男性以上に仕事をする人もいるし、男性であっても仕事もせずフラフラしている人もいる。（女性、40代）
- まだまだ女性が仕事につきにくい、金銭的にも差があるように感じます。
どちらかというと若い人よりも年配の方が「昔」にとらわれているような気がします。
政治などもですが、力のある年配の人よりも若い人達の新しい発想などを積極的に取り入れてほしいです。（女性、40代）
- 女性も男性も意識改革が必要だと思います。（女性、40代）
- 女性、現代の女性は①男（配偶者や彼氏）②子供、③仕事 この3要素のうち、2つが満たされていれば幸せに生きているように見えます。それでいいのでしょうか？3つそろっていたら最高に幸せなんでしょうけど、子育てなどで両立が難しく、疲れ切っている人も多い気がします。3要素がそろったような人生を増やし、3つそろっても疲れないような人生を送れるような社会であってほしいです。（男性、50代）
- 男女は体のつくり、体力はもとより、出産等もあり、もともと同じではないし、平等とはいえない。人として尊重しあうような生活、仕事をするのが大事だと思う。女性が働くと少子化になりやすいのでは、と思う。偏見かとは思いますが。（男性、50代）
- 女性差別を無くし、男女共同参画社会の実現を目指したい。その優遇に女性は甘んじることなく、さらなる高見を追求していけたらと思う。（女性、50代）
- 米軍や米警察は、更衣室も寝室も男女一緒に日本も近づく意識改革が必要（男性、50代）
- 女性が家にいて家を守り子育てや近所のお付き合いをするというのは昔の話で、今は男女関係なく家事、育児を分担して協力して生活していく時代であるので、小さなころから男子にも料理や洗濯、裁縫を覚えたり、女子も工具を使った作業や簡単な電気系の勉強も必要だと思う。学校教育で自立して生活できるような知恵や知識を教育していくことが大切ではないかと思う。年配者は男で外で働いて女は家を守るといった考えを変えていくことが大切ではないかと思う。今は核家族が多く、夫婦協力して働いて収入を得て、家事育児を分担してやっていかなくてはならない時代なので、男性も育休がとれるような職場にならないといけないと思う。女性は子供を預けて社会へ復帰できるような環境がなければいけないと思う。でなければ、女性は子供を産み育てることができない。（女性、50代）

- 男女とも性別で無意識に役割りを決めてしまいがちで、意識改革が出来るかどうかにかかっていると思う。
(男性、50代)
- 今は、会社でも家庭でも社会全体に余裕がなくなっている気がする。他者を理解する知識とゆとりが必要なのかもしれない。(女性、50代)
- 女性が自由に発言できる機会を増やし多様な意見を聞く。
能力のある人は男女を問わず登用する考え方を定着させる。
→決定権者は圧倒的に男が多い(年齢的な高さ)。意識改革がなければ実現不可能(男性、50代)
- とにかく世の中は厳しい。男女ともに苦労していると思う。我慢はみんな少々、うんとしている。なかなか難しい問題だ。(女性、60代)
- 男女共同参画社会づくりには、国民の意識改革が必要です。そのためにも教育がとても大切と考えます。伝えていく事、また福祉制度の充実によって、参画することができるようになると思います。制度があっても活用していない人、また知らない人がたくさんいます。啓蒙活動が重要と考えます。(男性、60代)
- 女性が弱く、男性が強いイメージは無くなっていると思います。男性でも性格が弱い人、女性でも暴力を振るう人もいます。女性だから、男性だからでなく！個人の性格を見てこそ本当の男女平等だと思います。弱い人たちに手を差し伸べ支援することは、良いことだと思いますが、それを利用してズルをしている人がいます。本当に困っている人たちが嫌な思いををすると思うので、きちんと行き渡るように思います。(女性、60代)
- 女性に対する待遇を先行していると思われる。このごろ食事について特に朝食または弁当などを作ろうとしないため、朝、コンビニにより弁当を買う人が多くなっている。米代は安く、おにぎりの米代1個20円前後と思われますが、店舗販売は100円前後である。男女共同参画社会と言っているが、農業では父が亡くなるとすべて農業をしなくなっている男女共同参画はどうかと思われる。(男性、70代)
- 何事も適材適所であることや、良好、円滑な人間関係がなければ、いくら法や条例を作っても意味がなくなるのではないかと。この条例の基本的考え方に「女性が差別されている」のを変えようというのがあり強調されすぎているのが疑問有り。男性が差別されるという視点の回答する選択肢がないのは逆差別だという意見が出たらどうするのですか？こういう感じが進んでいったギスギスした社会、世の中になるのは嫌ですね。セクハラ問題にしても、問21に挙げられている選択肢は当然したらいけないが、現代はされた(と思った)相手側のさじ加減ひとつだったりする部分があるので、過剰にならないように願います。男女問わず能力次第でやらないと良くはなりませんよ。例えば、男女半数ずつ登用すると数字だけで決めても、どんな業務であれこなせなければ破綻するだけではないですか。(男性、年齢無回答)

【働き方・職場について】

- 男女が平等に育児休暇を取れるようにすべき。会社で男性が育児休暇を取得できないという古い決まりを捨て、会社側から育児休暇を取るように促し、会社全体の雰囲気を変えるべきだ。(女性、10代)
- (職場) 地元企業・在宅や福利厚生制度が充実できるよう行政の促進(くるみんみたいな)
 - ・再雇用採用受入の促進
 - 大手企業・上記が充実した企業の誘致
 - ・エリア採用(採用された支店のみ、県内企業のみ)を導入するよう行政からの働きかけ
 (地域) 女性のための職業訓練場を設置(正規採用のため、パート、アルバイトよりも正規労働促進)
月1で人材・広告会社の説明会をひらくとか。(男性、20代)
- 職場について
子供を出産した事がない若い子やおばさんは、つわりの辛さを知らない為、「そんなに辛い？そんなにひどいなら今日仕事を休めば良かったじゃん。職場に出てこられても迷惑」と言っていたことがある。言われた人は、1か月後には仕事をやめました。同じ女性でも分かってもらえず、ひどい事を言う人がいます。教育してほしいです。(女性、20代)
- 私の職場は女性が多いので仕事に関しては特に不平等はありません。
子育てに関しては、以前に比べて男性も意欲的に参加しているように思うのでよい傾向だと思います。
育休を3年とれるようにしてほしい。みんなが。収入が安定、高ければ家庭に専念できるが、今は、共働きが当たり前になってきて子どもとの時間が短い。
主婦にも、子育て手当などいただけると、無理して仕事しなくてもよいと考えます。(女性、30代)
- 単に男性の育児休職の推進などでは何も変わらないと思う。子育ては赤ちゃん時代だけではないからだ。女性の社会参画を進めるには男性の育児に関われる時間をもっと取れる労働環境などが必要と考える。(男性、30代)

●育休制度について

妻が出産した時に夫が育休を取りたいと考え、職場の理解も得られたとしても、給与が約 70%しか支給されないために断念するしかなかったと聞きました。（公務員）夫だけの収入で生活している若い世帯にとっては、数ヶ月後に 70%給与支給というのはかなり厳しいものだと思います。

県知事も「育休をとりましょう」とおっしゃっていますが、敬愛的な支援もないと難しいと思います。（女性、50 代）

- 「男女共同参画社会づくり」とかけ声だけかけても世の中のしくみが変わらないとなかなか進むものではないと思います。国の議員構成をはじめ、会社や役所の役職につく女性はまだまだ割合が低い状況にあり、女性の地位向上の仕組みづくりが必要です。出産しても子どもを預ける施設がなければ、仕事を続けることも困難で、仕事に対する意欲も失ってしまいます。女性が安心して働ける世の中の仕組みづくりを作らないと女性の自立は進まないの、これを早く行ってほしいと思います。（男性、60 代）

【子育て支援について】

- 子育てをしながら仕事との両立はとても大変です。子育て支援の充実に期待したい。産後ドゥーラ、ファミリーサポートなど、市民全体で子育て応援ができる市になってほしい。子供食堂など、地域交流もあると良いです。（男性、20 代）
- 子育てが負担にならない制度やサポートが必要（男性、20 代）
- 保育等に予算を割り当て、仕事も家庭も両立できるようにする。（男性、30 代）
- 現在片親の方はとても多く感じます。
その方々のイベントはありますが、働きながら参加するのなかなか難しいタイミングの時も多く感じています。必ずしも土日祝日が休みとまかざられません。平日夕方とかのイベントもあってもいいなと思ってました。社会的にも気がるに休みを取れる社会ができればいいですね。（女性、40 代）
- もっと母子家庭に手厚くする（行政、補助金、サービス）。学童、預かりなどで給食を出す。
女専用などもっと、働く場所を増やす・女専用のサークルなど交流の場を市で企画してもっと増やす。（少ないと思う）（性別無回答、50 代）

【家庭・地域・教育について】

- LGBTQ の問題を考えた時に、小中学校の制服の在り方や校則で決まっている細かすぎる髪型等について、見直しを図っていく必要があると思います。「特例で認める」という形でなく、自然な形で受け入れられるような取り組みをお願いしたいです。（例えば、髪型は色を変えたりパーマをしなければ自由など。「男子は耳にかからないこと」など長さの規定まで必要でしょうか？）（女性、40 代）
- 家庭での男女の仕事の割り合いをグラフ化して平等に仕事をするのではなく、何か手伝えるものから始めるとこの男女共同参画の原点である「平等」が確立されるのではないかと。
職場では大企業は男女平等になっているが中小企業はまだ体質が古いものがある。（男性、40 代）
- どれほど休職しても給与、出世に関係しないという企業が増える、もしくはそういう社会になれば男女差別はなくなると思う。人間には欲があり、より収入を多く望むものだから。ただし、男性の家庭への支援は絶対必要と考えます。家事、育児は男女平等に行い、子ども達にその姿を見せることが男女共同参画社会づくりの第一歩なのではないでしょうか。（男性、40 代）
- まずは、子育てや高齢者介護を家庭内で解決すべき課題として捉えるのではなく、社会で解決すべき課題である事を認識する。その上で、子育てや介護が必要になっても本人の意思に基づいて、様々な選択（フルタイム、パートタイム など）ができる事を学校から伝えていく。（女性、50 代）
- 私の家族は高れいの両親と 50 代の長女の 3 人暮らしです。父には、食事の量や質について意見や文句を言わず食べてくれました。しかし、いっさい男子厨房に入らずで冷蔵庫もほとんど開けたことがなく、今、長女の作る食事でも食べますが、食にもっと興味をもたせるようなことをしてあげたかったです。料理を教えるのを面倒で長女自身がしたほうが早いという合理的なやり方です。でも長い目でみれば、もっと家事を教えて、みんなで家族 3 人で、分担などでできれば、もっと楽しく家事も楽だったのではないかと思います。（女性、50 代）
- 家庭では夫の協力のもと、互いに協力し合うことにより（家事の分担）、職場での仕事を全う出来ている。職場においては、育児休暇を取得し、復帰する女性もたくさんいるが、男女の比率で男性の方が少ないせいか、経験年数、保有資格の割に優遇されていると感じる。地域社会においては、その地域特有のしきたり等があり、それぞれの特性に応じ、活躍出来る場所は作られていないと感じる。（女性、50 代）
- まだまだ現実には難しいと思われます。増えつつはあるが女性の課長等は珍しがられ、家庭家事は女性中心が

当たり前である風潮が強いと思われる。現在の子供たちが共同参画を学んでいけば、将来、男女共同の考え当たり前になると思います。（女性、60代）

- 男性は難しい仕事、女性は難しくない仕事を任されていると思う。普通の会社では、女性も大切にされていると思う。そんなに女性を下に見ている職場はないと思う。あまり差別のことを深刻に考えていなかった。しかし、家庭では男性、女性今以上に協力していかなければならないと思った。（男性、60代）
- 今の子供は、家事等の面で私たちとは違って、積極的に取り組んでいると思います。私たちも戦後教育の中で男女平等を習ってきましたが、はるかに今の子供たちは進んでいると思います。しかしながら、私たちと同じ世代でも一部にはそれを否定するような空気が存在します。それはその人たちが育ってきた環境に原因がある場合が多く、男女平等について、子供たちが小さい時からそのことに対する教育や考え方を創り出していくことが必要であると考えています。（男性、70代）

【市政全般について】

- あまり関係ありませんが、クリーンボックスが汚いので止めていただきたいです。感染症が流行してるので、特に注意が必要だと思います。（男性、20代）
- 17:00の市歌がうるさいので止めてほしい。（女性、50代）
- 税金をもっと有意義に使ってもほしい。公務員だからなのか、窓口に出かけても適切な対応をしてもらえず、たらい回し。すぐ部署変えて内容を全然把握出来ずに、何分もまたされる。他の人は知らん顔。伊達市、金取りでコロナ対策も遅い。郡部の方が町民に寄りそっていると思う。税金のムダ使い。年より優遇。子供達にも目を向けてほしい。（女性、50代）
- 市役所など相談しても、職員の知識の差があり、「アタリ」「ハズレ」であきらめたり、がっかりする事がある。自分で働いている「課」についての最低レベルの知識は知ってるべきだし、わからない時はわからない、わかる人に聞くなどしてほしい。知ったかぶりで間違った事をされるのが一番こまる。自分で言った言葉の責任はしっかり持ってほしい。聞いてやったことで、〇〇たりないとか、後で言われるとがっかりするので。（女性、50代）
- 伊達市住民の多くが過ごしやすい街になるよう期待しています。伊達市全体が元氣な街になりますように。（女性、50代）
- 少子高齢化の今、空き家と耕作放棄地の対策を早急に進めてもらいたい。（女性、60代）
- 新しい市長になって、何か目立ってやりとげた仕事があるのかないのか、成果が目に入ってこない。”見える課”ならす”見える果”を期待したい。これでは前市長と同じ、先は無いと考えた方が良い！（性別無回答、60代）
- 民生児童委員の対応について、対象者に対して、上から目線で対応するとか、電話で用件を済ませようとして、対象者が不愉快な思いをしたと聞いたことがあります。民生委員の選び方を考えてもらいたい。（男性、70代）

【その他】

- アンケートの回答文面が押し付け内容的で答えにくかった。（男性、30代）
- 設問が多く、多忙な中での回答は困難です。（男性、40代）
- 人間みんな仕事、家庭、掃除、洗濯、休み等いろいろあり忙しいのにこんなにたくさん質問めんどくさいです。記入する人の身になってください。まず、今の市長で行政が全然良くなってないです。（男性、50代）
- あまり参考になりませんが、それなりに考えて記入しました。（女性、60代）
- 男性は仕事がなくなると家では殿様気分になるらしいと聞いていたが、我が家も、もれなく聞いていたとおりです。気分がころころ変わり相手にするのが大変です。（性別無回答、70代）
- 私には書く必要ない年齢です。（性別無回答、70代）
- 市役所職員の皆様 毎日お仕事ごろう様です。また、コロナ等では大変だったと思います。早く皆様と楽しく会話等が来る日を待っています。これからも今まで以上に情報等をお願いします。（女性、70代）
- 松下幸之助さんの名言。貧困は罪悪であります。すべての人の消費に不自由ならしめることが経済の目的である、という。しかるに、リーダーには、世情を大切にしながらも、世情に流されず、何が正しいのかを客観的に判断することが求められます。政治家は口では皆いいことばかり言います。口先だけの政治家が大半です。何時も次の選挙のことばかり考えて信念のない支持者にペコペコし、自分の損得で動く政治家は世の中にたくさんいる。今の世の中は力のある者に媚び、力のない者に威圧的になる人があまりに多すぎる。孟子いわく、「無恒産者無恒心」（無職の人には道德心がない）倉廩実ちて礼節を知るともいう。皆平等、偏見を無くす。（男性、70代）

男女共同参画に関する市民アンケート 調査報告書

令和4年3月作成

作成：伊達市未来政策部協働まちづくり課

〒960-0692 伊達市保原町字舟橋 180 番地

TEL：024-575-1177

FAX：024-575-2570

E-mail: kyodou@city.fukushima-date.lg.jp

伊達市ウェブサイト：<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/>
